

天永二年正月十日

一五八

俊助大徳

末寺

金剛峯寺智禪

貞觀寺永意

般若寺行明

遍照寺慶仁

大行事威儀師兼俊

小行事慶珍

本供物請二郎丸

常延

以前夾名等如件、

經尋御論議參勤、

「於大炊殿加持香水、御論儀三番必例、御齋會講師覺樹大法師、依服不參仕、仍權律師

秀才藤原有業獻策ス、

秀才藤原有業獻策ス、

〔中右記〕

正月八日、天陰、終日雨下、○中略今日秀才藏人有業獻策之間、頭大内記（藤原）敦光、

題云、施惠養性者、

十日、酉、癸法皇、大炊殿ヨリ、鳥羽殿ニ御幸アリテ、五壇法ヲ修シ給フ、

是日、法皇、攝政藤原忠實ヲシテ、北斗延命法ヲ修セシメ給フ、

忠實最勝王經ヲ供養スハ平實親ノ功

〔殿曆〕

正月十日、癸酉、天晴、○中略今日始修法、北斗延命、今朝供養佛、每月最勝王經供養、

抑件修法依院仰、

（伊勢之平）紀守實親功者也、今夜予有壇所、今日慎年也、

十一日、甲戌、天晴、今日依雨不出行、戌剋許向壇所、

十三日、丙子、天晴、今日依物忌不出行、此間每日向壇所、

十五日、戊寅、天晴、今日依物忌不出行、今日佛供養、同去物忌日、

十六日、己卯、天晴、今日依物忌不出行、早且向壇所、時了還、

〔中右記〕

正月十日、癸酉、（忠實）昨今殿下御物忌也、○中略今日召已講長譽被供養、每月最勝王

經、晚頭退出、

此辰時許上皇自京御所御幸鳥羽、上達部三四人、殿上人三四十人許供奉云々、於鳥羽被

始御祈者、

〔長秋記〕

正月十日、卯時院御幸鳥羽、被修五壇御修法、

○忠實佛供養等ノコト、便宜合斂ス、法皇、鳥羽殿ヨリ、大炊殿ニ還幸ノコト、本

月三日及ビ二十一日ノ條ニ見ユ、

中宮、始メテ、京極堂修正ヲ行ヒ給フ、

〔中右記〕

正月十日、癸酉、○中略今夕中宮御堂初被行修正、依院御氣色予參仕、（藤原宗忠）皇后宮權

天永二年正月十日

一五九

法皇ノ御氣色ニ依ル

供養ノ人

大導師定

咒師ハ法
進メシム

年四十三

飲水病

藤原宗忠
哀悼
源師子藤
原忠通除

天永二年正月十日

一六〇

大夫以下上達部五人、院內殿上人廿人許參入、召僧廿口、以定圓已講爲大導師、童咒師
三手於前庭令走、及夜半退歸、

〔長秋記〕 正月十日、○中中宮御堂修正也、皇后宮權大夫以下被參、咒師三手、於南庭
走之、自法勝寺被召進云々、

○中宮、京極御堂供養ノコト、天仁二年六月二十九日ノ條ニ見ユ、

權中納言正二位源國信出家ス、尋デ、薨ズ、

〔中右記〕 正月十日、癸酉、○中人々被談云、源中納言國信卿、此寅剋已被出家、年卅件

卿故六條右府之男、與左衛門督同母弟也、院御時初任兵衛佐昇殿、堀川院御時、經近衛

次將、補藏人頭、爲宰相中將、昇中納言、敍正二位也、而去年十一月廿八日參鳥羽、俄

以飲水、其後逐日陪增非可堪云々、此曉出家也、

十一日、早且差使者、訪源中納言許之處、去夜半許已薨了、朝夕相見之人、聞逝去之

由、誠以哀憐、世間無常、云而無益、

廿日、癸未、○中今夜殿之上并三位中將殿、於河原密々被除輕服帶云々、是依源中納言薨

也、（藤原泰子）姫君後日可有解除者、

二月一日、甲午、天晴、依朝觀有行幸法皇御所六條殿、○中

源雅實等
除服

戒師

源師時ト
年來ノノ契

兄弟ノノ契

法事

導師

官歴

（源雅實）內大臣以下、其一家人々早除服、今日可供奉之由被仰下、仍皆以出仕、

〔長秋記〕 正月十日、○中此曉源中納言出家、戒師禪仁已講云々、不經幾程入沒、年來

其契如兄弟、心中歎也、（又云）

二月廿日、故源中納言法事、（源後尊）顯國朝臣許送誦經物五十疋、裏物、日沒著衣冠向坊城堂、

三尺九鉢阿彌陀佛曼陀羅供也、導師覺猷法橋、事了例時、顯國朝臣自筆法華經供養、導

師長譽已講、參左府尋申云、會三七日法事、當日不得參內云々、而謂三七日、四十九日

間何を可申哉、仰云、件事慥無傳聞、（藤原賴通）宇治殿雖令尋給、道者等申旨不分明、但近來所習

來者、亡者在家時、訪人雖不身穢不參內、又觸穢了後、雖會法事參內常事也者、仍今夜

參內、女房事後未出仕者也、

〔公卿補任〕 源國信 故右大臣顯房公三男、母故美乃守藤原良任朝臣女、年月日敍爵、

承曆三十一、信濃權守、承保元八、右兵衛佐、同三正、從五上、（年）勞、同十二月、右少將、

同四月、遷左近、同四正、兼美作權介、應德三正五正五下、（年）勞、同月十四日補藏人、同十

一月廿六更補藏人、（受禪）日、寬治二正、從四下、（無品媼子內親王御給、○コノ

下、イ同月兼備後介、同五正

兼美作權守、同六月十三日補藏人頭、永長二四、兼內藏頭、同月、辭頭、承德二年正月

天永二年正月十日

一六一

天永二年正月十日

一六一

坊城ト號ス
左近衛府年預

任參議、元藏人頭、左院行同三年正月三日從三位、幸賞、同月、兼播磨權守、康和二年七月廿三日正三位、造宮行事實、同四年正月、任權中納言、三月廿日從二位、御實院司賞、同五年正月二日正二位、行幸鳥羽院賞、天永二年正月九日依病出家、同日薨、號坊城、以上十、本書及ビ尊卑分脈、國信ノ出家ヲ九日ニ作ル、
〔後二條師通記〕〔朱書〕仰府年預次將事 寬治三年二月十一日、壬子、天晴、略 召家輔、可傳仰年預事云、〔大略九〕
國信少將也、

〔江記〕 寬治七年正月廿五日、癸卯、略 今日午刻可有殿上始、〔郁芳門院〕 次被仰下藏人并殿上人、略
殿上人、略
四位、略

郁芳門院殿上人

殿上人、略

左近中將源國信朝臣

禁色ヲ聽サル

〔時範朝臣記〕 寬治八年六月廿二日、辛卯、略 左近中將國信朝臣、可聽著禁色之由、宣下權大納言、

〔本朝世紀〕 康和元年正月三日、丙午、略

行幸太上法皇鳥羽之賞、〔殿脫九〕 左大臣

從三位源朝臣國信、〔院別當、參議、左中將、

院別當

齋院勅別當
世系

〔中右記〕 康和五年十月十七日、略 大夫史盛仲來、〔小槻〕 次談云、略 源中納言國信、爲

齋院勅別當之由被仰下、〔領子内親王〕 左大臣

〔尊卑分脈〕 源氏

顯房 右大臣、從一、
母關白道長公女、

雅俊 權大、正二、
母美乃守良任女、

國信 頭、五藏、權中納言、正二、參木、左中將、中宮權亮、右兵衛佐、金葉以下作者、顯房公子、四男、母同、天永二正九出家、同日薨、四十六才、號坊城中納言、

國教 備前守、從五下、
母高階泰仲女、

雅國 修理權大夫、正四下、
母同、

顯國 藏、皇宮亮、從四上、左少將、一男也、
母同、〔正四下イアリ〕

信時 越後、備前、伊賀等守、
母高階經成女、

俊國 越後、肥後等守、從五下、本國能、

國範 備前守、從五下、
〔正下イアリ〕

信顯 寺、阿、

延信 寺、法眼、

仁信 寺、阿、

四男トノ
坊城中納言ト號ス

天永二年正月十日

一六三

信智 寺、權律師、

女子 從二、信子、六條攝政母、

女子 從三、俊子、中山入道關白母、

〔尊卑分脈〕 藤原氏 北家

忠通 攝政、關白、從一位、

基實 攝政、關白、太政大臣、正二位、

基房 攝政、關白、太政大臣、從一位、

信圓 法務、興福別當、大僧正、

〔尊卑分脈〕 高階 氏

泰仲 伊與守、正四下、

女子 權中納言源國信妾、

〔今鏡〕 七むらかみの源氏 此の中納言のひめさきみおほいさきは、ちかくおはしまし、

攝政殿の御は、二位と申なるへし、つきには入道殿にさふらひ給て、さりかたき人にお

はすなり、第三のさきみはいまのとの、御は、におはします、三位のくらゐえ給へるなる

へし、うちつゝき二人の一人のおほちにて、いとめてたき御するなり、この中納言の

妾 國信ノ子

和歌ニ堪 能

堀河院百 首作者

和歌

家歌合

御子に四位少將顯國とおはしき、其母はさきの伊よのかみ泰仲のむすめときこへき、

其少將いとよき人にて、歌なとよくよみ給き、とくうせ給にき、少將のひとつはらのお

とうとにやおはしけむ備前前司、修理權大夫、越後守なときこへ給き、

〔今鏡〕 五ふちなみの中 源中納言のひめ君達ふたりに、ひとりのは故攝政との、いまひ

とりにはたうしの殿、又山に法印御房とおはしましき、又ならに僧都とおはします

なり、

〔今鏡〕 七むらかみの源氏 六條の右のおとゝは、おほかたきんたちあまたおはしき、

太政のおとゝにつきたてまつりては、大納言雅俊とおはしき、大納言のおなし御

はらに、中納言國信と申しておはしき、ほりかはの院の御をちの中に、ことにしたしく

さふらひ給けるとそきこえ侍りし、歌よみにおはして、百首の歌人にもおはすめり、

〔勅撰作者部類〕 自帝王至 庶人之部 國信、正二位、權中納言、金葉集、秋、冬、別、詞花集、

戀下、千載集、春上、春下、旅、哀、新古今集、春上、春下、夏、新勅撰集、春下、冬、戀二、

續後撰集、戀一、雜上、續古今集、戀四、續拾遺集、戀下、新後撰集、戀三、雜四、

集、秋上、風雅集、戀一、新千載集、春上、新續古今集、賀、

〔和歌合略目錄〕 中納言 國信卿家歌合、康和二年四月廿八日、衆議判

天永二年正月十日

一六五

堀河院百首ノ和歌

天永二年正月十日

一六六

〔堀河院百首〕

○宮内廳書陵部所藏

春 立春

三室 山谷 にや 春の 立ぬらん雪の下みつ岩たゝくなり 國信

○千載和歌集、詞書ヲ堀河院御時、百首歌奉りける時よめるニ、續詞花和歌集、詞書ヲ堀河院御時、百首歌たてまつりけるにニ作ル、康和年中ノ條參看、

〔堀河院艶書合〕

内にて殿上の人ノ歌よむときこゆるに、宮つかへ人のもとに、

けさうのうたよみてやれとおほせことにて、○中略

源中納言國信

逢ことやこよひノとおもふまにそらわすれして月日へにけり 日さへイ ○康和四年閏

五月二日ノ條參看、

殿上和歌會作者

〔新勅撰和歌集〕

十二戀歌二

堀河院御時、殿上にて題をさくりて、十首歌よみ侍けるに、

權中納言國信

うらむとも君はしらしなすまの浦に燒鹽かまの煙ならねは

中宮御花合作者

〔新千載和歌集〕

二春歌下

長治二年閏二月、中宮花合によみ侍ける、

權中納言國信

手折もて宿にそかさす櫻花梢は風のうしろめたさに 二年閏

二月二十四日ノ條參看、

藤原俊忠ト和歌贈答

〔千載和歌集〕

九哀傷歌

少將に侍ける時、大納言忠家かくれ侍にける後、五月五日、

中納言國信中將に侍ける、消息して侍けるついでに、つかはしける、

權中納言俊忠 (藤原)

墨染の袂にかゝるねをみればあやめもしらぬ泪なりけり

中納言國信

返し

あやめ草うきねを見ても涙のみかゝらむ袖を思ひこそやれ

〔散木奇譚集〕

八戀部下

中納言國信の坊城の堂にて、人々歌よみけるに、戀のこゝろ

を、

たまゆかの花のしとねにいつくしき君をしなへてしたにたにねん

〔散木奇譚集〕

一春部言

故源中納言國信の坊城の堂に、中宮亮仲實(藤原)か住ける頃、人々

まかりてあそひけるに、池のみきは山ふきさかりにて、おもしろかりければ、人

々歌よみけるによめる、

山吹のみきはもすまに咲ぬればあらふさなみもいとなかりけり

〔詞林采葉抄〕

十 萬葉集和點

村上天皇 天曆御宇、詔大中臣能宣、○中略於昭陽舍梨壺、加和點、此號古點、亦追加點人々、○中略源

天永二年正月十日

一六七

萬葉集ニ點ヲ加フニ

同堂ニ藤原仲實住ム

國信ノ坊城ノ和歌ヲ詠ズ

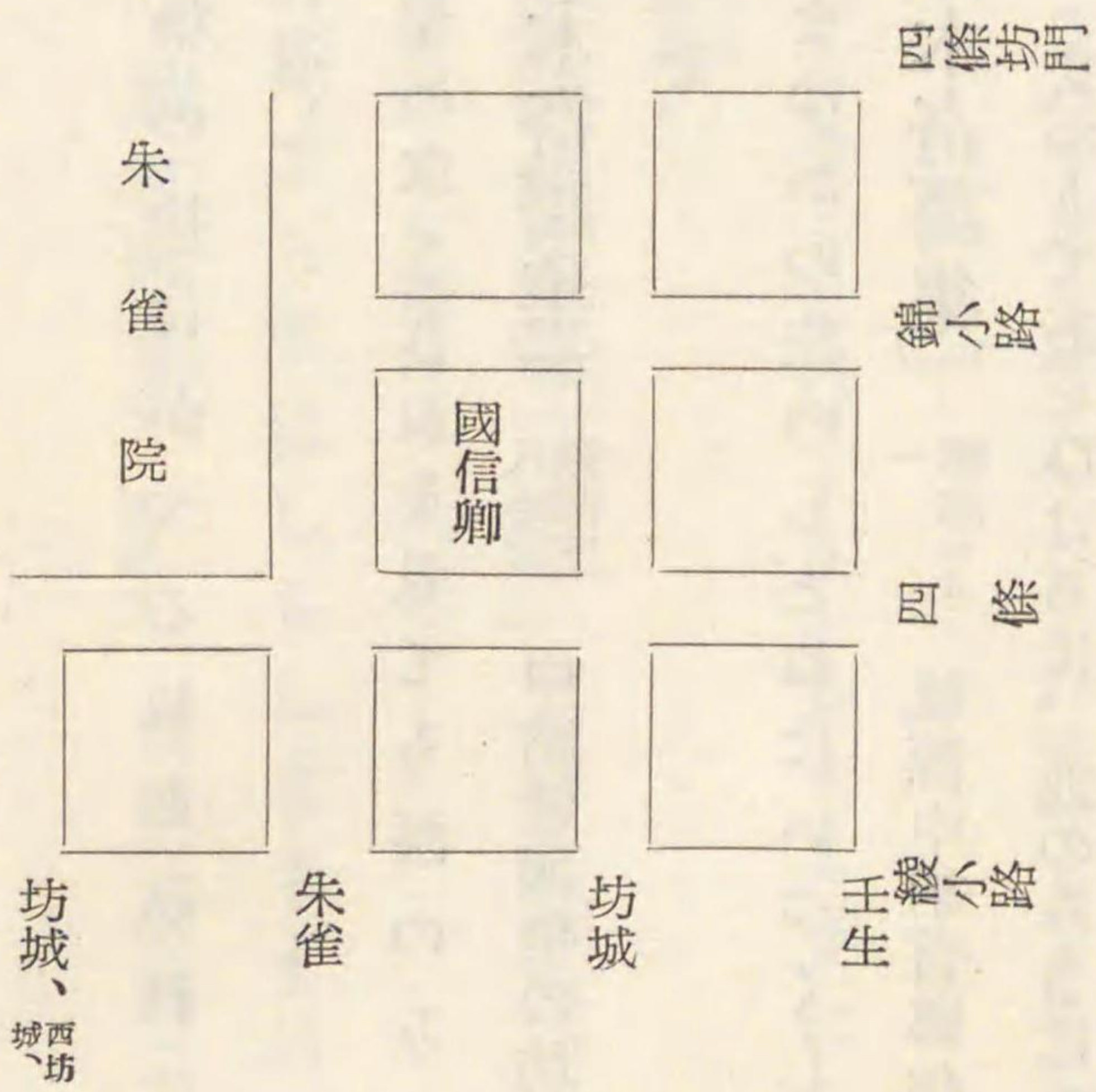
邸宅
五條坊門
東洞院第
令子内親
王坐シマ
ス

天永二年正月十日

國信○中等各加點、此名次點、

〔中右記〕 康和四年十一月十七日、戊戌、○中前齋院○中退齋給之後、年來御源中納言五條坊門東洞院家也、

〔京都市古圖〕 ○仁和寺所藏



○國信ヲ伊勢ニ發遣シテ、大神宮ニ奉幣セシムルコト、長治元年十二月十六日ノ條ニ、追儼ニ參仕セザルニ依リ、勅勘スルコト、同年十二月三十日ノ條ニ、法皇、國

藤原顯能
吉書
藤原說雅
從事

顯能給爵

辨一人不足

信ノ第二御幸ノコト、嘉承二年閏十月一日ノ條及ビ同年十二月九日ノ條ニ、國信、堂宇ヲ建立スルコト、天永元年年末雜載諸家ノ條ニ見ユ、

十四日、丁、藏人ヲ補ス、

〔殿曆〕 正月十四日、丁丑、天晴、○中參内、○中被補藏人、皇后宮六位進、顯隆男、仰了、○下

〔中右記〕 正月十四日、天晴、○中略、御齋會ノコトニカ、此間頭爲房被仰下藏人二人、皇后宮少進藤

說雅、故盛實朝臣子也、藤原能、大藏左中辨顯隆二男也、

十九日、壬午、天晴、○中略、新藏人顯能申吉書、下治部卿云々、

廿三日、丙戌、天晴、○中略、晚頭參内、著仗座之間、新藏人說雅下吉書、今日從事也、藤原宗忠予召右

少辨實光下之、

三月廿日、天陰、雨下、○中略、今夕藏人左近將監顯能給爵、是前齋院未給云々、

○藤原顯能ヲ從五位下ニ敘スルコト、便宜合敘ス、

十五日、戊寅、政始、

〔中右記〕 正月十五日、天晴、依政始催、巳時許參入、先自去十二月廿二日、陽明門

院有死穢、○天永元年十二月仍入自待賢門著左衛門陣、右少辨實光相具、此前左大辨、少

納言宗兼參入者、今辨一人不足、仍相待之間、午剋漸傾、右中辨爲隆朝臣參入、予命召

天永二年正月十四日 十五日

天永二年正月十五日

一七〇

申文

勸盃

人々多ク
遅參

檢非違使
廳政ナシ

使令引外記門、起座著廳、此間少納言定通(應)又參加、以召使在結政之間、左大辨欲令催著之處、政始之日強不催也、申文令結申之後、左大辨著加廳座、次申文、少納言定通、右中辨爲隆朝臣、右少辨實光、外記孝仲、史三人列立前庭、次第次廳事、少納言宗兼、外記師清、史生宗重、次於外記門出立、於南門申文、史佐忠食事了後、少納言宗兼勸盃、此間予議人々云、陽明門有穢、然者自南所可南行歟、將又如例北行、更自櫛毛小路南行、可出自待賢門歟如何、人々曰、於晴政次第如何可候者也、仍可北行者、予出南所、西行出立如例、北行更東行、又自櫛毛小路南行、於待賢門中出立之後、出門乘車渡參内、經大宮大炊御門町尻二條東洞院、於冷泉院、院下自車、入自皇居大炊殿東門著伏座、右大辨長忠朝臣、史兼仲、先行在床子座、予相揖入自敷政門代著伏座、聞、右大辨遲參、請印間參結政、史覽文、又見吉書、但依遲參次第違亂、頗不便歟、有申文、左大辨、史兼仲候之、參殿上、申時許退出、○中

今日人々多被遲參、政始之日、頗不便歟、就中右大辨遲參之間、廳事之程也、史覽之、又之稱唯之聲、官符請印欲終之程也、甚違亂、可謂不便歟、(也)官政始之日、檢非違使廳政必始事也、而今日無使廳政云々、頗奇怪歟、

院宣ニ依リ、威儀師靜算ヲ總在廳ニ補ス、

〔中右記〕 正月十八日、威儀師靜算來談云、去十五日依院宣被補總在廳了、爲悅之由所

世系

法名圓空
魚見前司
ト號ス

答也、件人去年補威儀師、此正月成總在廳也、奉公之者、沙汰甚賢、仍入朝撰也、

十六日、己卯御忌月ニ依リテ、踏歌節會ヲ停ム、

〔殿曆〕 正月十六日、己卯、天晴、○中主上御忌月也、仍無節會、後冷泉院并後三條院御時、同正月御忌月也、依彼等例

十七日、庚辰、御忌月ニ依リテ、射禮ヲ延引ス、

〔殿曆〕 正月十七日、庚辰、天晴、今日不出行、依物忌也、射禮同昨日儀、

○射禮ヲ追行スルコト、三月十四日ノ條ニ見ユ、

十八日、辛巳、入道前大神宮大宮司從五位下大中臣公房卒ス、

〔大中臣系圖〕 ○彰考館本

一 公輔 少副、從五上、

一 公房 大司、從五下、長治元年五月出家、七十一、法名圓空、天永二正十八卒、號魚見前司、歲七十八、

一 公衡大司、從五下、

二 公盛大司、從五下、

三 公通修理進、從五下、

四 公基七見四郎、

天永二年正月十六日 十七日 十八日

一七一

天永二年正月十九日

五
公光從五下、

官歷

在任六年

〔三所太神宮例文〕 第九大宮司次第

第七十九
公房 公轉男、寬治六年十月十八日任、在任六年、

○公房ヲ大膳職ニ召シテ、祭主大中臣規定等ト對問セシムルコト、寬治七年二月二日ノ條ニ、陣定ヲ行ヒ、公房ノコトヲ議スルコト、嘉保元年三月六日ノ條及ビ永長元年九月三十日ノ條ニ見ユ、

十九日、壬午、法皇、千僧御讀經ヲ法勝寺ニ行ヒ給フ、

〔殿曆〕 正月十九日、壬午、天晴、今日千僧御讀經也、於法勝寺、被行此事、予以下著束帶、不著劔、御裝束儀如常、但今度上達部座有右方、堂上、總禮同右方庭中也、其如天仁元年、○天仁元年十月六日ノ條參看、予不行香、事了退出、

〔中右記〕 正月十九日、壬午、天晴、院於法勝寺被行千僧御讀經、先參殿下、雖御物忌可參之由依被仰也、午時許殿下令參給、予、宰相中將、三位中將、殿上人三四人扈從、

先著御金堂母層佛面間以西座、公卿座也、入自西大門、并西昇廊北面著給座也、公卿同著之、此前諸卿參著座、且轉讀御經、金堂中并東西廻廊爲衆僧座、佛面懸繪像、御佛堂中其左右、衆僧總禮、次講讀師登高座、講讀師權少、立高座、母層中央間立行香散花机等、又前庭敷堂童子座、衆僧總禮、次講讀師登高座、講讀師權少、堂童子著庭中座、公卿總禮之後可著敷、有議令敷總禮座於庭中、長筵、公卿列立前庭座、攝政

衆僧總禮
講師
參會ノ公卿

御願ノ趣ヲ仰ス

行香

度緣請印

御願文

公家仙院
竝ニ厄會
ニ當ル
千口ノ聖
僧ヲ屈シ
一朝ヲ轉
讀ヲ修ス

殿、源俊明民部卿、藤原忠實藤大納言、予、源基經治部卿、藤原忠敏別當、藤原忠實左宰相中將、源重實左大辨、源重實三位中將、源重實各解劔持卿談予云、大極殿千僧御讀經時、左方公卿也、而今日公卿座右方也、然者總禮之時、公卿可在右方歟、左方院內予申云、如此之時、可隨便宜也、仍右方可宜歟、民部卿答云、尤可然者、仍可著右方座之由相定了、此間堂童子暫起殿上人、頭中將實隆朝臣以下廿人許先著座、置笏束手三度禮、了歸著本座、依在總禮座、依爲院々前也、禮拜了又著、散花堂童子入堂中分花筵、大行道了、行事左中辨顯隆仰御願趣、司敷、右中將宗輔給度者、揚御經題、各仁王經、十部轉讀、次置衆僧布施、講讀師下高座著座、中納言基綱卿取被物、殿上四位取布施給講師、僧綱已講布施殿上人取之、權少僧都寬業、行勝咒願三禮、次有行香、右方民部卿以下至三位中將、殿下此間御本座也、行香人々渡其御座前、左方殿上人、申時事了人々退出、此間天陰、頗小雨、今朝治部卿、右宰相中將家政、少納言實兼有度緣請印者、

〔江都督納言願文集〕 一 院於法勝寺千僧千部仁王經

蓋聞、十力法乘、即是萬代之方祚圓規、六度喻船、豈非四海之蘭橈桂楫、三寶之尊、自古而爾、伏惟、隔炎帝黃帝之仁、昔繼鳳齊歸無漏無爲之化、今道俗衆、然猶天下之釐、定廣莫之野、海內之緯、決漭峒之山、日熟月將、漸近卅年、寒來暑往、幾經多日、今年宣卯承三合後、正月陰陽恐二儀變、公仙院并當厄會、紺殿珠堂頻示怪異、假佛法之力、欲延寶算、致真如之功、宜全玉躰、奉圖釋迦佛一躰、奉寫仁王經一千部、就法勝寺、敬遂供養、崛千口之聖僧、修一朝之轉讀、薩般若雖多、以此教附屬帝王、波羅密雖廣、以

天永二年正月十九日

功德ヲ以テ聖上ヲ祈リ奉ル

天永二年正月二十日

一七四

此經守護國土、五忍之門、著十四之正士、二諦之道、仕五百之世尊、花似薔葡、上陽之梅漢々、薰同栴檀、西城之香芬々、千佛放卷照六合四維、萬遍同音祈天長地久、王公從事、降二於堯庭、鐘聲揚聲、驚三千於法界、以此功德、奉祈聖上、齊重花德、越大椿齡、花開禁庭、論子訓之白雲、鶯轉温樹、似西母之青鳥、南宮之裏福更增、開地中之藏、獻仙齋之糶糧、久列千佛之朝、永保億齡之算、偏圍相門百官七道、霧不侵、黍稷惟茂、於戲千里之內七福即生、一天下七難不起、災沴早消、若契湯之沃雪、感應速至、如毘風之拂雲、乃至平等利益、敬白、

天永二年正月日

二十日、癸未山城國司、同國葛野郡東寺領所田堵等ヲシテ、官物ヲ東寺政所ニ進納セシム、

〔東寺文書〕禮一之十二
○山城

廳宣 葛野東寺御領所田堵等

可令早本寺政所進納官物事

右件地利、爲彼寺燈油佛供料、代代間令進濟年久、而去年不被辨之由、彼寺家有訴事、若實者、任代理并免判之旨、早濟之、重不可令致愁之狀、所宣如件、宜承知行之、以宣、

天永二年正月廿日

大介藤原朝臣（花押）

○東寺、山城國司ニ同寺領同國葛野郡高田郷田畠ノ官物并ニ臨時雜役ヲ免除セラレシコトヲ請ヒ、尋デ、之ヲ聽サルコト、元年七月二十八日ノ條ニ見ユ、

二十一日、甲申石清水八幡宮ノ怪異ヲ軒廊ニトス、

〔中右記〕軒廊御下正月廿一日、除目中夜也、源基綱今夕治部卿除目之後、行軒廊御下、是八幡宮

死人怪異之事云々、但除目召仰之後、如此公事被行之例被尋之處、被行内文云々、仍有此御下歟、日次不宜、依可延引被念行也、

法皇、縣召除目ニ依リ、鳥羽殿ヨリ、大炊殿ニ還幸アリ、藤原忠實

〔殿曆〕正月廿日、癸未、天晴、早旦參内、院御鳥羽殿、仍以頭中將實隆、予申云、御

鳥羽殿之間、除目何様可候乎、源基綱午剋許頭中將還來云、今日早可始行、明旦可有御幸也、源基綱

廿一日、甲申、天晴、辰剋許著直衣參御前、尋御幸有無、午剋許有御幸、仍余參院、源基綱〔中右記〕正月廿一日、源基綱今朝上皇從鳥羽還御京御所云々、依除目也、

○法皇、大炊殿ヨリ、鳥羽殿ニ御幸ノコト、本月十日ノ條ニ、再ビ鳥羽殿ニ御幸ノ

天永二年正月二十一日

一七五

死人怪異

コト、二月十二日ノ條ニ、縣召除目ノコト、本月二十三日ノ條ニ見ユ、

二十三日、丙戌、縣召除日、

〔公卿補任〕^十

權大納言正二位源俊實、^{六十} 正月廿三日辭退、以男忠高申任美乃守、

權中納言正二位源雅俊 左衛門督、正月廿三日轉任權大納言、

藤宗通、^{卅九}、按察使、正月廿三日任權大納言、

藤能實、^{四十} 中宮權大夫、右衛門督、正月廿三日轉左督、

源顯通 皇后宮權大夫、正月廿三日兼右衛門督、

正三位藤忠通、^{十五}、正月廿三日任、右中將如元、

參 議正三位源能俊、^{四十} 左兵衛督、別當、正月廿三日任權中納言、

藤忠教、^{卅七}、左中將、正月廿三日任權中納言、

從三位藤家政、^{卅二}、右中將、周防權守、正月廿三日遷左中將、

源重資、^{六十}、^{七十}、左大辨、勘解由長官、正月廿三日兼備前權守、

正四位上藤爲房、^{六十}、^三、正月廿三日任、元藏人頭、修理權大夫、越前權守等如元、^職

事補任異事ナシ

正四位下藤實隆、^{卅三}、正月廿三日任、元藏人頭、左中將如元、^{職事補任}

非參議正三位藤顯季、^{五十}、修理大夫、正月廿三日任、大宰大貳如元、

〔公卿補任〕^十 元永二年 參議正四位下源雅定、^{廿六}、天永二正廿三兼美作權介、

〔公卿補任〕^十 保安二年 非參議從三位藤實能、^{廿六}、^{同二正廿三兼美作守}、^{去藏人、下名任之、}

正、除目雖任伊與介、下名兼當國守、仍削彼介畢、^{職事補任}異事ナシ

〔公卿補任〕^十 保安三年 參議正四位下藤伊通、^卅、天永元正廿三左少將、^{元侍}、同廿七日遷右、

〔公卿補任〕^十 天治元年 非參議從三位藤經忠 天永二正廿三兼皇后宮亮、

〔公卿補任〕^十 天承元年 參議正四位下藤成通、^{卅五}、天永二正、備後介、

〔公卿補任〕^十 保延二年 參議正四位下藤宗成、^{五十}、天永二正廿三侍從、

〔公卿補任〕^{十一} 康治元年 非參議正三位藤清隆、^{五十}、^{廿九}、天永二正三兵部權少輔、

〔職事補任〕^{鳥羽院藏人頭} 左近中將正四位下藤通季 天永二正廿三補、^{公卿補任}

權右中辨從四位下藤實行、^{卅二}、同日補、^{公卿補任}、^辨、^{官補任異事ナシ}、

〔職事補任〕^{鳥羽院五位藏人} 左少辨正五位下源雅兼、^{卅一}、天永二正廿三補、^{公卿補任}、^辨、^{官補任異事ナシ}、

〔辨官補任〕

藏人頭ヲ補ス

藏人ヲ補ス

左大辨從三位源重資 參木、勘長、正月二十三日備前權守、○公卿補任 異事ナシ

右中辨從四位下藤爲隆 中宮大進、正月廿三日兼備中介、○公卿補任 異事ナシ

〔樂所補任〕 筆樂吹 右兵衛志延國 正月日任、除目之次、年、

〔殿曆〕 正月廿日、癸未、天晴、早且參內、院御鳥羽殿、仍以頭中將實隆、（藤原忠實）予申云、御

鳥羽殿之間、除目何様可候乎、此程擇 申文等、午剋許頭中將還來云、今日早可始行、明且可有御

幸也、○本月二十一日ノ條參看、仍戊剋許始除目、其儀如常、

廿一日、甲申、天晴、辰剋許著直衣參御前、尋御幸有無、午剋許有御幸、仍余參院、仰

云、今日無別事、早可始除目者、即參內、及秉燭始除目、其儀如常、抑辨等遲々間、

（位脱力）五藏人兩人取笛文、除目了、

廿二日、乙酉、天晴、已剋許參院、申除目事、數剋候御前、及戊剋許、今日除目延引、

明日可有由仰下了、參內、侍宿、

廿三日、丙戌、天晴、已時許參院、除目事承仰後退出了、戊剋許始除目、丑剋許除目了、

（藤原忠通）中將任中納言、予進弓場殿奏慶賀、乘車參院、同奏慶賀、依召參御前、即退出了、

廿四日、丁亥、天晴、今日中將申慶賀、前駟廿一人、府隨身二人、（府生）番長、各褐衣、白襖

袴、（兼乙）壺脛巾、狩胡篋等著、乘移馬、近衛四人、（兼下同シ）隨身、各褐衣、垂袴、白、壺胡篋等著之、先進

申文ヲ擇
除目始

入眼延引

藤原忠通
ノ任中納言ニ依リ
言ニ依リ
テ同忠實
慶ヲ奏ス

忠通法皇
ニ奏慶

參內奏慶

皇后太皇
太后等ニ
慶ヲ申ス

忠通參院

下名

對妻申、予并北政所、（藤原子）女房等各再拜、了於門外乘車、參院、令長實朝臣奏之、次舞蹈、次
有召、是還昇也、仍又舞蹈、次參御前、次居殿上退出、參內、入自左衛門陣、經床子座
前、入自仙仁門代、經仗座北、幕外、進弓場殿、令藏人少將忠宗奏之、（藤原）舞蹈、了經本路南、
廻入自右衛門陣、申皇后宮、依召參御前、給笙笛、次退出、參中宮、再拜、了依召參御
前、給琵琶云々、次歸來、令申大宮御方、（大皇太后藤原實子）召御前給笙笛、次進對南、令申一條殿了、爲
隆於便所、分給院御廐舍人、居飼、牛飼并隨身等祿云々、雜色長右近將曹近季召前、令
中納言給褂、自院召給之故也、移馬二疋、御牛自院給之、
廿五日、戊子、天晴、今日予不出行、新中納言令參院、（藤原）檳榔毛車、有下簾、車中納言著直衣著
野劔、取笏、頃之還來、
廿七日、庚寅、天晴、○中今夜有下名、其次無別事、上達部次將右三人、左一人、非參
議次將左五人、右四人也、仍宰相中將家政渡左、少將伊通渡右、此外無別事、
卅日、癸巳、天晴、今日新大納言宗通卿慶賀來、稱參內、予不相逢、（藤原）依不審
二月七日、庚子、天陰、雨甚下、○中檢非違使宗清爲慶賀來、
十八日、辛亥、天晴、○中今日雖物忌、明日中納言中將著陣也、仍民部卿來、（源俊明）有其沙汰、
戊剋許皆退出了、

忠通著陣

源雅俊著

源雅兼吉

除目御修

始

召仰

參會ノ公

天永二年正月二十三日

一八〇

十九日、壬子、天晴、今日中納言中將著陣也、早旦召陰陽師泰長勘日時、夕巳午、右衛門權佐實光日時持來、余見之、次中納言中將同見之、剋限參內、(藤原)前驅六人也、新中納言忠教卿令參會、(是先例也、申文、問事、爲令見也、)鈞文二通、(一通美濃、一通美作、)左大辨同候陣、有申文、馬祈一通、讀文也、吉書臨時公用頭辨下之、其儀美麗之由、左大辨示也、未剋許還來、源大納言新雅俊、今日同著陣云々、

七月一日、壬戌、天晴、(中略)藏人辨雅兼來、予仰云、參內次可示者、參內之後下宿所、五位藏雅兼申吉書、密々儀也、余有簾中、依病、(五月十日及廿同、月十九日ノ條參看、)兩三月不參仕、(許也、)仍始參內之後、不快文依有憚思也、

〔中右記〕正月十五日、天晴、(中略)今夜被始行除目御修法云々、

十七日、殿下御物忌間終日祇候、除目間事、心閑有被仰合事等、晚頭歸家、

廿日、癸未、除目始也、仍晚頭參內、先參御直廬、申承殊事後著仗座、(藤原家也)右大將以下人々參集、頃而藏人少將忠宗仰除目召仰之事、右大將移著端座、令官人數膝突、召外記、少外記師清候小庭、大將被目師清、稱唯進膝突、從今日有除目之由被仰下、外記稱唯歸入

了、次藏人少將召人々歟、(有其詞、)大將召外記仰云、宮文候、外記稱唯歸入了、外記四人取宮文、列立前庭之後、人々起座、被參攝政御直廬、(其道如常、)殿下兼出御寶筵、(御束帶、)右大將、藤

正權關官

帳ヲ覽ル

院宮御申

文諸國文書

ヲ進ム

藤原家政

ノ失態

饗饌

仗座ニ於

テ加賀解

由ヲ下ス

中夜

出雲守藤

原家保舊

請國公文申

勘宣旨ヲ

申下サガ

大納言、(藤原宗忠)按察中納言、予、治部卿、別當、(藤原忠敏)左宰相中將、左大辨、次第著座了、次置宮文、

權右中辨實隆、(藤原)右中辨實光、依御氣色、左大辨起座著圓座、覽正權關官帳歟、任四所籍、兩三

人後申案內、尋院宮御申文、(左大辨先召實光、)則持參覽殿下也、頃而召功過文書、此間右宰

相中將、家、藤宰相參加、右中辨爲隆、右少辨實光進諸國文書、(藤原)左宰相中將、(忠、)讀

別當見合、右宰相中將家、書定文、而被書定文之間及數剋、已帳讀了後、猶未被書終、

忘却文字、傍人々雖指示、猶以不覺悟、或仰天、或伏地、衆人入咲壺、此事爲公事甚以

不便也、有嗚呼氣、此人不被參可宜歟、不堪之事強被勤、還似無心也、此間居火櫃饗

饌、殿下陪膳、地下四位不參之間、已遲々也、遂左中辨顯隆朝臣雖殿上人、辨官勤仕陪膳

也、依事闕歟、頭中將實隆朝臣勸盃、除目漸欲終、右宰相中將未書終、誠以不便也、衆

人教之、纔令書終、予披見定文之處、文字或落或不成、然而殿下早可獻之由依被仰、次

第取上、右大將起座奉殿下、日出之後事了退出、除目以前、治部卿於仗座、下加賀解由

云々、季房、是先申請殿下也、

除目中夜、廿一日、除目中夜也、仍酉時許參內、右大將以下公卿五六輩參集仗座、先有定、是前出

雲守家保申請舊國公文之間、不申下越勘宣旨、仍諸司抑留事也、先被問諸司、人々可免

給由僉議、左大辨書定文了、右大將付頭大夫被奏、其後藏人少將來召、右大將移著端

天永二年正月二十三日

一八一

ルコトヲ
定ム

天永二年正月二十三日

一八二

座、召外記仰筥文、強不可渡端座也、只在奥座可被仰歟、初夜依召仰必移著端座、次々夜不可然歟、起座參著殿下御直廬、右大將、按察大納言、予、治部卿、別當、左宰相中將、右宰相中將、左大辨、藤宰相、欲置筥文之處、辨不足、被相尋之處、今辨一人不參、或所勞、或故障、兼不申上此由、官懈怠歟、仍遣召藏人侍從之間、已及數剋、誠以不便也、伴侍從在里亭者、重馳使者遣召了、頃而參仕、仍置筥文、權右中辨實行、藏人少將忠宗、右少辨實光、藏人侍從實能取之、依御氣色左大辨著圓座、給大間筥始事、諸大夫居火櫃饗饌、仲實朝臣勤仕殿下陪膳、雖院殿上人、依無地下、四位勤此役也、大納言以下陪膳如常、五頭為房勸盃、藏人為忠取瓶子、有僉議、史巡、(藤原)第一者正基逢季仲帥事、而法家勸文未功事如何、第二者良俊行向陸奧國清平許如何、人々定申云、正基猶本罪不被決、忽難賞歟、此中別當一人被申云、逢度々恩赦免給、何事之有乎、史第二者左宰相中將被申云、五位以上出畿外有制事也、何況行向遠國哉、仍以三四者可被成歟、予申云、伴良俊背國家從清平者、尤可有其咎也、但白地下向、則馳上之由有風聞、凡外記史敍爵之後、為受領執鞭赴遠國、巡年之時參上關其賞、近代之作法也、良俊早被參上者、何不成給哉、人々多同予定、又明經得業生三人課試同日也、而可課試宣旨先下者、式部省為最下藹由、訴申之條可定申、是以次々者、式部省之下藹也如何、人々定申云、猶依宣旨下次第、可立上藹之由申了、又大和守宗則、河內守季綱、安房守師國、(藤原)各無指故解申任

僉議
正基
逢季
仲
藤原
良俊
陸奥
藤原
清平
許
向
ト
ス
ル
コ
ト

功過定

顯官舉

入眼延引

源俊實ヲ
罷ムトノ
風聞

入眼

安房國司
解書ヲ下
ス

功過定

諸卿仗座
ニ著シ受
ク領學ヲ書

國、可有恩許哉否事、人々可在勅定之由申上了、次有功課定、季房舊國丹波文書也、別當讀勘文、左宰相中將見合、藤宰相書定文、數剋事了、次有顯官舉、藤宰相書之間除目終、被奏大間忿書之處、次第狼藉也、是遲筆之所致歟、亥剋事了退出、廿二日、午時許自殿下給御消息云、只今著直衣可參也、大切有可云合事、則逐電參御直廬、被仰云、依入眼間事、今朝參院也、有被仰之事等、又殿下聊被仰合事等雖有數條、不能委記、申時許退出、其後又殿下令參院給云々、入夜參內、先參殿下御直廬、被仰云、晚頭參院、大事等繁多、無一決問、今夜入眼延引也、仍空退出了、但無指故延引、頗不得心事歟、近日大納言、中納言、參議各一、大宰帥闕之間、大略忽無一定歟、又源大納言俊實卿被解申職之由有風聞、如此之間、大事出來、難被一決、俄延引歟、廿三日、丙戌、天晴、除目入眼、仍晚頭參內、○中藤大納言以下人々參入之後、頭為房下人々解書被下、安房國司解書、諸司允等三通、大納言移著端座、召外記下之、藏人少將忠宗召之、仰筥文之後、參著御直廬、大納言、經、按察中納言、予、治部卿、別當、左宰相中將、左大辨、藤宰相、次置筥文、權右中辨實行、右中辨為隆、藏人少將忠宗、右少辨實光、依召左大辨著圓座、下給大間筥、有功過定、家保朝臣舊國、出雲、別當讀勘文、左宰相中將見合、右宰相(家政)書定文、大納言被與奪詞不慥聞、有若亡之事歟、漸及鷄鳴之後、諸卿著仗座、書受領舉、歸參奉殿下、頃而事了

天永二年正月二十三日

一八三

清書上卿
衆人大間
書ヲ披見

天永二年正月二十三日

一八四

大宰大貳
清書
檢非違使
藏人

藤原宗忠
除目評
任國不足

藏人頭ニ
兄弟并並

召清書上卿治部卿給之、於便所上下衆人披見大間處、權大納言正二位源雅俊、藤宗通、
已上二、權中納言正三位源能俊、兼、元左兵衛督、別當、第二參議、藤忠教、元參議、左中將、第三、藤忠一、兼、元三、參議正
四位下藤爲房、兼、元藏人頭、修理權大夫、頭、左中將、左中將通季、少將伊通、兼、侍從
宗成、左衛門督能實、元右、右兵衛督正二位源顯通、外記兼職、史宗則、式部丞安賴、民
部丞宗康、和泉守有成、藏人、淡路輔明、院分、下野明國、使、下總久實、六位、國美濃忠高、
大納言俊實卿、安房範季、民部、大隅良俊、史、筑後、民部、飛驒兼俊、寺功、對馬仲基、功、美作
實能、兼、元藏人侍、從、御祈功也、大宰大貳正三位藤原顯季、兼、元修理大夫、此外京官等無別御事歟、依慥不覺悟
不記也、治部卿著仗座、行清書事、右宰相中將、家、右少辨實光同清書、依宰相不足召加、藏
人少將忠宗仰下檢非違使宣旨、宗清、藏人有業、又藏人少將仰下藏人頭并五位藏人、頭通季朝臣、權右
人左少、辨雅兼、此間殿下於弓場殿令奏慶給、令拜舞、藏人少將、忠宗奏之、又令參院御所給、令長實奏事由、令
拜舞給、是依中納言中將慶也、予、殿上人、三四人扈從、漸天明之程歸家了、
今度式部一惟明不被成受領、依國不足歟、任中一經敏又不被成受領、依無其國歟、但三
个年不被成任中第一者、頗以不便也、
兄弟貫首事、越上藤中將、藏人頭左中將通季、宗輔、師時、權右中辨實行、越右大辨長忠、并上藤十餘人、凡兄弟相並藏人頭事如何、但後
一條院始經通、資平相並例歟、又超非參議大辨位階上臈、甚以不便歟、天延二年、右中

出納諸司
長官大貳
ヲ兼ヌル
ハ不穩便

忠通所々
ニ奏慶

法皇ニ奏
慶
參内奏慶

皇后ニ慶
ヲ申ス
中宮ニ慶
ヲ申ス

辨伊陟補藏人頭、越右大辨爲輔、寬弘末左中辨道方補藏人頭、越右大辨說孝之例也、兩
事希代之例也、第一宰相右兵衛督師賴不昇進、此五今年不仕之上無兼官、何爲乎、修理
大夫顯季兼任大貳事又如何、出納諸司長官兼大貳、頗不穩便歟、但故良基相公任大貳日、
兼春宮權大夫、若彼例歟、然而頗不似此例歟、

今度一院判官代輔明被任淡路守、除日之前被下敍爵申文、件申文、院臨時被申望榮爵云々、予以外記傳內記、
是依遲參也、猶除目之次、可有敍位事歟、以名簿先被下之條、可尋知事也、
廿四日、丁亥、中納言中將令申慶賀給、仍著直衣參賀陽院、晚頭右大將被參、東帶、是今夕依

被參者、○二月一日、右宰相中將、大藏卿直衣、被參會、前驅遲參之間、已及秉燭、中納言殿出御、紫綵
文石、蔣繪地、螺鈿、著膝下御表衣、先於南庭奉拜殿下、次奉拜大殿北政所并母上、於北御門乘御車給、前
驅廿一人、四位四人、仲實、惟信、以綱、爲遠朝臣、本府隨身二人、府生行忠番長、狩胡籙、壺脛、本御
隨身四人、垂袴白、壺胡籙、先令參院御所給、御門、於東中門、令院司播磨守長實朝臣奏事之由、拜
舞、次有召、依還昇又拜舞、令參給、次參內、入從皇居大炊殿東門、經敷政門代并陣座
前、於弓場殿、令藏人少將忠宗奏事由、拜舞、了出從本路、經大炊御門大路、更入從西
門、參皇后宮御方、御于西、於西中門、令宗能朝臣啓事由、二拜、有召參上、此間隨身、有送
物、篋、次令參中宮給、堀川、令亮仲實朝臣啓慶由拜、依召參上、御隨身、有送物、篋、次還御

天永二年正月二十三日

一八五

太皇太后
ニ慶ヲ申ス

源能俊藤
原忠教同
爲房等奏
慶爲房族
ヲ以テ前
驅ト爲ス

忠通參院
下名

天永二年正月二十三日

一八六

賀陽院、於太后御方、御西小、寢殿也。令家隆朝臣啓事之由拜、次申前齋院又拜、次參上、有腰、指、送物、袋、次令參前齋院御方給、太后前院、御同所也。送物、袋、次參一條殿御方、御于東、對也。令宗能朝臣申事由、二拜了入御于御曹司、殿上人連車扈從、宗能朝臣、家隆朝臣、實明朝臣、師俊、御隨身料馬二匹、從院給、置、殿下移。御牛、院、車副二人、院、右近將曹近末爲雜色長扈從、還御之後、給祿於院舍人、牛副童、車副等、抑今朝召仕十人參入、進見參、給祿、各定、今日道虛伐日也、但攝政殿任大納言給、令申慶給永長二年三月廿四日伐日也、○承德元年三月二、十四日、條參看、又故大殿賜內舍人隨身、令申慶給道虛也、○寬治元年四月、依件吉例、今日令申給也、今日新中納言能俊、別當、被申慶之間、還、忠教、宰相爲房、實隆、頭中將、頭辨皆申慶也、抑新宰相爲房、以子族爲前驅、左中辨顯隆、右中辨爲隆、右衛門權佐重隆、出雲守顯賴、藏人左近將監顯能、修理亮憲隆、進士朝隆、一家之繁昌、千載勝事也、寬和之比爲輔中納言以後、公卿久絕、今此相公高繼家門、誠是面目之〔至九〕歟、

廿五日、中納言中將著直衣、令參院給、帶野、劍、新宰相爲房著宿袍、乘檳榔毛車參殿下云々、除目下名、略、○中、今夕有除目下名催、入夜參仗座、右大辨兼參入、先於陣腋召外記、尋問諸司參否、少納言、二省輔代并丞等也、而皆參了、但式部丞未參者、早可催之由仰了、又召史尋辨參否、右中辨只今可參入者、早可催之旨同下知了、且著端座、令官人數軾突、

清書狼藉
甚シ

源重資ヲ
シテ書直
サシム

藤原忠宗
院ニ往反

召外記令進除目、外記師清進除目、入筥、披見之處甚狼藉也、一夜清書之間、大略不被沙汰歟、先以太宰大貳正三位顯季入黃紙、可在別紙也、至帥者可入、黃紙、於大貳者別紙也、又新中納言能俊、忠教有兼國、大略依參議兼國有此事歟、入、眼夜任中納言、仍可被止也、又以侍從實能被任美作守、而又有兼國、伊豫介、是依侍從兼國也、而入眼今夜任美作守、仍可被止也、又以被任左衛門尉者、被入右近府、又以藏人有業被成左衛門尉、已落清書也、如此事甚多、但人々多姓朝臣字被書誤、於件事者、追直物之時可被直也、只不下給二省前、尤可被直事等、以藏人盛經申攝政殿、只今上職職事皆不、參、仍以六位申也、頃而藏人歸來云、遙授三人可止、又左衛門尉等可直、又大貳顯季除黃紙可入別紙者、件事等令左大辨書直了、但暫可相待之由有仰、仍祇候之間、已及鷄鳴、神心屈了、誠以無術計聞、此間藏人少將往反院、大略可有被成加者也、臨曉更藏人少將忠宗來仰云、右宰相中將家政可渡左、是公卿次將三人奉右之故也、又以左少將伊通可渡右、此外無他事、命左大辨、件人々令書直、須內覽也、而不可覽之由有其仰、仍以外記仰曰、式ノ省サ、兵ノ省サ候哉、申候之由、仰可召之由、式部丞安賴、兵部丞某、參入立小庭、式部丞安賴、今度被成者也、而下名以前參勤、頗無謂事也、而予向與方取副下名於笏、召云、式ノ省、式部丞著膝突、下給下名、兵部丞又如此、次召外記給除目、入筥、引率參議、右中辨爲隆、少納言實兼、外記史出從敷政門代、向太政官廳、著靴、與左大辨著座、外記取除目置前案上、取筥歸了、予仰云、召仕、二聲、稱唯立前版、此

天永二年正月二十三日

一八七

外次第如例、不委記、任人兩三人讀上之間、起座退出、任人殊不被加、及曉更、誠爲衆人頗難堪歟、

卅日、癸巳、新大納言宗、被申慶賀云々、前駟十人、五位八人、皆藏人五位云々、

二月一日、甲午、天晴、○中辰剋許參內、而新頭辨實行、今日初申吉書下、予先著端座、

令敷膝突、頭辨下吉書、是大原野祭幣料也、○二月十日條參看、結申之後、便下頭辨、於床子座下史云々、○中略

頭辨今夕從事、藏人辨又申慶并從事也、新右衛門督顯通卿今朝被申慶、

五日、戊戌、天晴、○中今日新大納言雅俊申慶云々、右宰相中將、頭、左大辨、相從、前駟子族等云々、別當并新中納言被

著陣云々、

七日、庚子、天陰、雨下、○中今日新大納言、宗、新宰相爲房、著陣云々、用雨儀也、

中納言中將著陣十九日、壬子、天晴、後聞、中納言中將初著陣給、先召右少辨實光令勘日時、陰陽師奏、長撰申、巳

時許從賀陽院令出立給、前駟五位六人、實房、盛家、雅職、盛季、仲光、忠兼、於冷泉院東洞院辻、下從御車、入

從皇居大炊殿東陣并敷政門代尋剋限、午一點先著御輿座、左大辨重資追候座、則起座著

床子座、見申文之間、中納言殿移著端座、召官人令敷膝突、左大辨著座、申文、史伊岐

宗遠候申文、鈎文二通、馬料一通、次第事了左大辨起座、藏人頭權右中辨實行朝臣下申吉書、臨時公用、令

結申之後、頭辨歸入、次令官人召左少辨雅兼、五位藏人、下給吉書、則從本路令退出給、

藤原宗通
奏慶
初メテ吉
書ヲ下ス

源雅兼奏

源顯通奏

源俊忠

慶能俊忠

教著陣

宗通爲房

著陣

忠通著陣

雅俊著陣
雅兼吉書

除目祈

始

饗饌
參會ノ公
卿

早旦民部卿著直衣被參賀陽院、又新中納言忠教卿參、逢陣邊被候、又四位少將宗能、民部大輔師俊連車扈從、今日又新源大納言雅俊卿晚頭被著陣云々、七月一日、壬戌、天晴、○中於御直廬藏人辨申吉書云々、是遷御土御門亭之後、○四月二十七、日ノ條參看、殿下未令參內給之故也、

〔除目部類記〕

○三條西實 義氏所藏 崇仁御記〔實行公記イアリ〕

正月十四日、丁丑、今日寵僧於八幡、賀茂、北野等社了、是除目祈也、〔應願公書〕故殿依有令申置給事、申藏人頭事也、於春日御社可修行、十九日許可給也、

廿日、癸未、朝間天晴、未剋飛雪即止、申剋密雪、酉剋以後又止了、自此日除目也、辰剋參上、秀才有業、前進士實兼、〔藤原〕新藏人盛經、藤藏人爲忠爲撰申文、候御直廬、於所早且各、食事云々、

及未剋著臺盤、大膳助顯能行大盤、此外皆候、御直廬、前少納言家隆朝臣、藏人侍從實能、進藏人及未剋著臺盤、〔藤原〕說雅等著之、說雅不隨事、來廿三日、可隨事云々、○本月十四、日ノ條參看、大盤了後、廻西中門方、自連子窺見申文、撰除目時、於

公卿居所撰之、頭以下、撰之、暫令退歸了、於南殿御後謁頭中將、相互云、〔合〕合申所望之事也、主上於三位壺、禰與姬君前、〔藤原光子〕令遊給、仍退出、申剋著束帶又參上、于時御膳之間也、陪膳前

少納言、夕子勤仕、次著夕大盤、戊始、此間上達部徐被參、大盤了予出陣、右大將、家忠、

新藤中納言、宗忠、治部卿、基綱、別當、能俊、四條宰相中將、忠教、左大辨重資、被候仗座、
二位大納言、經實、按察使宗通、追被加著、召後藏人少將、如例大將以下參進御直廬、
裏書
藏人少將出陣、先仰諸司召仰之由、其詞可有除目、召仰諸司、少將退歸之後、大將被移外座、隨身追

前、召官人令敷膝突、次藏人少將又著膝突、召仰之由退去了、仍大將以下被參御直廬、
主殿寮官人持松前行、大將隨身不追前、著打衣、若是故實歟、除目夜不楚々、彼
敦貞稱之也、敦貞番長也、

按察使、治部卿、四條宰相中將、別當、予等不廻大路、偷經南庭參了、公卿座定之後、
被催宮文、右中辨為隆朝臣一人申不足之由、有令藏人少將忠宗取之由、仍彼忠宗帶劔
持笏取之、其儀如常、但五位藏人取之時無揖者、

一宮 硯、予取之、于時權、右中辨、

二宮 入補任帳、十年勞等、右中辨為隆取之、

三宮 入諸衛諸司學奏、藏人少將取之、

四宮 入諸大夫、以下申文、右少辨取之、

抑今夕季房朝臣被定加賀功過、三條宰相中將被書定文、每事失禮云々、予即退出、仍不見、

廿一日、甲申、天晴、、秉燭參內、辨待除目早速可被始之由、所來催也、仍秉燭參內、大將、新藤中納言、

宮文ヲ催ス

加賀功過定

受領文書ヲ召ス

功過定

公卿僉議

入眼延引

治部卿、四條宰相中將、三條宰相中將、左大辨候仗座、于時有定、左大丞書之、是家保朝臣、出陣之

越後定云々、前々、定了後、藏人少將召之、予此間候朝餉壺、是依有御馬御覽也、瀧口騎之、辨待告之、予申假退出了、相

具上達部參御直廬、今夜用大炊御門路、公卿座定之後、予申云、宮文人今二人不足、為之如何、以五

位二人有可令取之由、而於藏人少將祇候、於藏人侍從不祇候、依仰遣召了、内裏下隣所候也、侍從

實能參上之後、予以下 為隆朝臣、忠宗、藏人少將、右少辨、實能、五位、藏人侍從等取之、取宮文、予、藏人少將、右少辨、藏人侍從等取之、其儀如常、次執筆人依

召稱唯、微、參上圓座、了召辨、予參上、右大將 上卿、召受領文書、予著孔雀間、以車宿屋用此間、

召受領文書之由、告大夫史了、丹波前司季房朝臣、前任文書具了之由稱之、但防河返抄

未到來者、遣召了、相待之處、防之、羽河并法成寺東坊返抄無之、仍以彼狀上了、予、右少辨

實光、於砌取之、史授之、友貞、上臈辨取、置參議座前了之後、又歸座、公卿休所勞、別當、二條宰相、頭大夫、

頭中將、藏人少將在此所、左中辨追參者、

次功過定、別當能俊、讀不與狀、宰相中將忠教、見合之、二條宰相俊忠書定文、

此間公卿僉議、大和、河内、安房等國司辭申任國事、明經得業生課試次第事、史巡年事、

廿二日、乙酉、天晴、未剋參院、殿下參上、即令參御前給了、申終令出北面給、戶部參上、

除目入眼延引之由、入夜被仰下、頭大夫出陣仰此之由、

是公卿昇進、必然、云々、大納言二人、一人闕、今一人京極大納言辭職申受領云々、如此之間則延引歟、藏人頭許云々、

辨官加階
依次第超
例轉任ノ
エニ

天永二年正月二十三日

一九二

予申頭事於上皇了、未承左右、是難澁歟、又申轉任、權左中辨、是雖無辨官昇進、予依爲權右中辨申轉任也、爲加階上藹者、加下藹之後、超辨官上藹轉任例、蹤跡多存、其由申了、予參內之後暫退出了、

辨官依加階次第超轉任例

左中辨清原岑成 右中辨藤原氏宗

嘉祥三年十一月、超岑成轉任右大辨、

左中辨藤文範 權左中辨賴忠

天德四年四月廿三日、依爲位階上藹、超文範轉任右大辨、

權左中辨藤忠輔 右中辨藤在國

永延元年十一月十一日、轉任左中辨、

左少辨藤保信 右少辨平惟仲

同日轉任右中辨、已上爲加階上藹轉任之、

權左中辨藤忠輔 右中辨同伊周 左少辨源扶義

正曆元年八月卅日、超權左中、右中兩辨、轉任左中辨、但於忠輔者、官爵共上藹

也、

入眼

權左中辨藤重尹 右中辨同定賴

寬仁三年十二月廿一日、轉任左中辨、

左中辨平定親 權左中辨藤經家

永承五年九月十七日、轉任右大辨、已上依位階上藹也、

廿三日、丙戌、天晴、風聲冷、此日除目入眼也、今朝上皇被仰云、轉任事、無其闕之時有

件例乎如何、昨日以權官、申爲轉任權右中辨也、予引見之處、上無闕之時無此例、仍申云、權官員外者也者、

何事之有乎、就中例者依時之事也云々、返事不承、未剋參院、烏帽、〔子脱カ〕暫殿下參給、即有召

令參御前給了、相具紙筆、權紙、於御前令書可轉任者給云々、是則可謂入眼云々、予申剋終退出、向頭中將之冷泉之亭著束帶、〔イナシ〕此

間及秉燭食事、中將又著束帶被參院了、爲申宰相事云々、不兼中將者不可任之由也、予參內了、先是殿

下令歸參給了云々、而於冷泉院烏丸、令下從車給云々、人々車自冷泉之北立也、殿下御覽、召各牛飼、戊剋皆悉給檢非違使了云々、但此中殿上人車無一兩云々、殿下若參宮御方人々車云々、戊剋

頭中將被參示、予云、不兼亞將不可任宰相之由、以播磨守奏進了、〔兼イ〕有聞食之由、大納言

二人可任之由必然云々、頭大夫爲房朝臣、京極大納言之許、早仰遣可進辭書之由了云々、

中將被喜悅、本闕大納言、中納言、參議各一人也、相加京極大納言俊實、二人也、然者大納言二人、中納言三

人、宰相四人可闕也、而於中納言、一人者三位中將可令任給者、宰相猶三人可闕歟、俊實卿辭職被

申美乃、人々參集之後、藏人少將召之、予此間著大盤、不知召之由、上達部參著除目座之後、

公卿ノ闕

天永二年正月二十三日

一九三

藤原光子
法皇御氣
色ヲ同實
行ニ告グ

實行心中
祈念藏人
頭補任藏
報ニ接ス

同參院
テ恐悅ス
由ヲ奏ス

奏時來、藏人侍從告可參御直廬之由、問子細之間、辨侍又告有尋之由、仍觸假出座上人起座了、宮女房於小右中辨爲隆朝臣、藏人少將忠宗、右少辨實光列立、外記又列立、可取宮文之人、今一人不足、仍暫不取也、左中辨顯隆雖候、依爲右中辨爲隆舍弟不列、顯隆朝臣之上臈也予立加、爲隆上了、次第取宮文如常、除書初之後退出、予爲問頭事、留雜色光澤了、早速可告之由示付藏人少將了、抑今夜三位光子、有可來壺禰方之由、仍向彼壺禰告云、頭事院御氣色宜樣、頭大夫只今告之、予答云、何樣被仰乎、被答云、長忠右大採用不勝人之上、實行者爲內近臣之由被仰云々、付此定、予一喜悅、一歎息退了、人々予稱可被補之由云々、

歸家食後著布衣、心中念大神宮、春日大明神及熊野方々、廿四日、丁亥、此曉有叩門者、予聞之、雜色光澤音也、侍先問之、於門外答云、殿補藏人頭了云々、侍盛經來告此由、予出向召光澤、慥問子細、藏人少將慥示之由稱之、仍告三位之許了、中院、次自三位光子、之許、以基時被告送、予聞一定之由參院、直衣、依御寢、招右近大夫清隆今度補兵部少輔、參上、而喜悅之由、可執奏之由云付了、于時寅剋、藤判官代輔明任淡路、是院分也予稱賀之由、了退出之間、已及遲明、抑參院之間、御藏小舍人國友相逢、東洞院楊梅下車云、藏人頭令成給、仰可向蓬戶之由了、國友布袴、歸幕之後、引國友於侍所給酒肴、五位及諸司官人相互勸盃、久實、忠遠、時忠、已上清明、基時、宗兼等也、次給祿、國友丈絹三疋卷之、以紙二枚裹之、又給仕人、麻布三反、以紙裹之、

一度ノ除
目ニ兄弟
四人慶賀
ハ希代ノ
勝事

先是仰正隆令掃除、兼又令引砂、爲賀人々濟々焉、又人々使、又消息等多到來、或自書之、或以人令書之、

予今度補藏人頭事面目是新、喜悅多端、凡簡上薦十四人、此中爲公卿子息者八人、宗輔、師時、信通、師重、長忠、顯國、顯重、宗能也、天下以鼓動也、自愛々々、就中頭中將實隆、任參議、兼中將、美作守通季、任中將補藏人、侍從實能、任美作守、一度除目兄弟四人慶賀、希代勝事、千載一遇也、

大貳顯季卿今度任大貳、兼匠作云々、無此例云々、來云、仰云、今度第一賀者頭也、以希代例相構補了、如破石、其由可令云知、但以渭陽之餘波任補了、慥夙夜在公可抽勤節、前々有不事仕宮之聞、不可然云々、予非職間、多爲人下臈、倦勤勞、於今者何不抽微節乎云々、招陰陽雅樂頭泰長、問拜賀并可隨事之日、稱云、拜賀今日、可隨事之日卅日云々、仍遣召僮僕畢、秉燭後可申也、未嘗之分、實隆公加蓋也、イアリ拜賀事別可注之、御拜賀間事、令問宗忠卿給也、任人六十餘人今私略之、

聞書

聞書

權大納言源雅俊 藤宗通

權中納言源能俊兼、藤忠教 同忠通兼、

天永二年正月二十三日

天永二年正月二十三日

一九六

參議藤爲房兼、同實隆兼、

藏人頭通季左近權中將、今日任之、實行

天永二年正月廿三日

幼主御時御裝束雖狹少、藏人頭從事之日猶申請事、重々沙汰在此御記、

廿七日、今日下名云々、新藤中納言上卿云々、○柳原家記録四十五所收、除目部類記ヲ以テ對校ス、

〔永昌記〕○京都御所東山御文庫記録甲五所收 十一月四日、癸亥、天晴風寒、○中大貳顯季卿不下向云々、

〔桃華藥葉〕 一、可覺悟條々

御堂餘流拜賀日、用螺鈿劔有文帶、閑院一族帶蒔繪劔無文帶、非此兩流之人、多用有文帶、大藏卿爲房、天永二年二月十三日任參議、同十四日拜賀、申請有文帶於殿下之由、見爲隆記云々、

〔敍位除日執筆鈔〕 天永二正廿日縣召、廿三日入眼、執筆、重資、

〔魚魯愚別錄〕二 著議所事 外記二人史一人取筥文例

天永二年正月廿一日、外記二人作、仍仍筥文一合、史一人加立取之、

〔魚魯愚鈔〕五 下勘文上 一、諸未給

〔頭書〕永久四秋 伊豫國大掾正六位上紀朝臣爲貞、天永二年內給所、

〔朝野群載〕二十八 諸國功過 合否續文勘解由、主計、主稅、

下名

執筆

主計寮勘文

合否續文

勘濟公文

請調庸總返抄

雜米總返抄

主計寮 合否續文

勘前丹波守正四位下源朝臣季房申文事

請

一、勘濟公文

大帳十二箇年

前々司守源朝臣季房任終一年嘉保二 次守高階朝臣爲章任八箇年永長元、承德元二、

當任三箇年長治元二、嘉承元、

調帳十二箇年 同上 朝集帳十二箇年 同上 義倉帳十二箇年 同上

右勘濟公文合申文

一、請調庸總返抄四箇年

前司任終一年康和五 當任三箇年長治元二、嘉承元、

一、雜米總返抄五箇年

前司任終一年康和五 當任四箇年長治元二、嘉承元二、

右調庸雜米總返抄、所請合申文、

以前官宣、件季房朝臣申文、合否宜勘申者、檢文簿所注如件、仍勘申、

天永二年正月二十三日

一九七

天永二年正月二十三日

天永 年 月 日

算師息長

一九八

修理左宮城判官頭兼大外記助教播磨權介中原朝臣〔備後〕

權少允紀
權少屬佐伯

主計大勘

主計大勘文功過勘文之名也

主計寮

勘前丹波守正四位下源朝臣季房、歷四箇年所濟功過事、〔寛治七、六〕

功

請調庸惣返抄四箇年 前司任終一年〔康和五〕

年輪調〔宋書〕小許春羅、太皇太后宮職御季料一匹、中宮職御季料一匹、納官一匹、兩面

錦、二條院御季料一匹、太皇太后宮職御季料一匹、納官三匹、一窠綾七匹、二窠

綾中宮職御季料二匹、納官三匹、七窠綾太皇太后宮職御季料二匹、納官三匹、練〔練〕

帛十匹、帛絹、春季仁王會料卅匹、二條院御季料廿匹、中宮職御季料卅匹、納官

百四十匹、白絹五十匹、庸韓櫃漆塗着〔差〕鑲五合、白木卅七合、米修理職六十斛、木

工寮百斛、中男作物黑葛百斤、黄皮、二條院御季料七十斤、御服料七十一斤、納

請調庸總返抄

館二百五十九斤、漆三升、紙八百張、搗栗一斛四斗、平栗八斗、蜀椒子三斛、正

稅交易白絹十二匹、赤絹、二條院御服料卅匹、太皇太后宮職御季料卅匹、中宮職

御季料卅匹、賀茂齋院禊祭料廿三匹、納官四百卅七匹、糸七百五十絢、鹿革十

張、苧安五百圍、曝葛廿斤、生栗卅斛、干柏百十俵、油三斛、檜皮四尺三百圍、

三尺二百圍、二尺五寸二百圍、年料別貢墨二百挺、掃墨一斛、斐麻百斤、穀麻

七十斤、兵庫寮雜工戸米十八斛二斗三升三合、采女日置明子養白米四十斛、仕

丁二人、修理職客作兒功絹五十匹三丈二尺、山國松籬稻四百束、民部省干柏卅

俵、草藥、典藥寮四十三種、施藥院卅六種、授藥師料、絹、大學寮一匹九尺、典

藥寮一匹九尺、官地子交易油三斛、絹九匹、墨十挺、黑米二百三斛、依永宣旨

進納、內裏御祈願料米三百斛、油四斛、勝樂院佛聖供料、白米卅五斛、黑米卅五

斛、正稅交易油、法成寺一斛五斗、延曆寺持明院七斗、法勝寺一斛五斗、尊勝

寺一斛五斗、圓宗寺法華會料米五十五斛、油四斗、法性寺燈油一斛陸升、中宮

職御服料薪六百九十六斤、伴調庸中男交易雜物等、守季房依數進納、請物返抄已

畢、

當任三箇年〔長治元、二、嘉承元〕

天永二年正月二十三日

一九九

天永二年正月二十三日

1100

雜米總返抄

雜米惣返抄五箇年康和五、長治元、二、嘉承元二、

前司任終一年康和五 當任四箇年長治元二、嘉承元二、

勘濟公文

一、勘濟公文

大帳十二箇年

前々司守源朝臣季房任終一年嘉保二 次守高階朝臣爲章任八箇年永長元、承德元二、康和元二三四五、

當任三箇年長治元二、嘉承元二、

調帳十二箇年同上 朝集帳十二箇年同上 義倉帳十二箇年同上

過

過

前司任終康和五年雜米抄帳事

右、民部省天仁三年二月廿八日奉行傳、去天仁二年十二月廿三日宣旨傳、左大史

小槻宿禰盛仲仰傳、右少辨藤原朝臣實光傳宣、權中納言藤原朝臣宗忠宣、奉勅應

免除丹波國、去康和五年雜米抄帳、除年料米之外、依請應免除者、

前々司守源朝臣季房歷三箇年寬治七、

功

功 請調惣返抄三箇年

前司任終一年寬治六 當任二箇年同七、嘉保六、

勘濟公文

雜米惣返抄三箇年寬治七、嘉保元二、三、 當任、

一、勘濟公文

大帳十二箇年

前々司守藤原顯季卿任終一年應德元 次守源顯仲卿任八箇年同二三、寬治四五六、 當任二箇

年同七、嘉保元、

調帳十二箇年同上 朝集帳十二箇年同上 義倉帳十二箇年同上

過無シ

過無

右官宣、件季房朝臣、任中所濟功過、宜勘申者、檢文簿所注如件、仍勘申、

天永 年 月 日

算師息長

修理左宮城判官頭兼大外記助教播磨權介中原朝臣師遠

權少允紀

權少屬佐伯

主計率分數勘文

主計率分數之勘文

主計寮

天永二年正月二十三日

1101

天永二年正月二十三日

11011

勘前丹波守正四位上源朝臣季房、任中所濟、調庸中男交易雜物年輪、率分所當數事、

調 康和五年

調小許春羅一匹 已率分

兩面錦 率分一匹 年料

一窠綾 率分二匹 年料四疋

七窠綾 率分一疋 年料

綠帛 率分二疋 年料八匹

帛絹 率分卅四匹 年料

白絹 率分十匹 年料四十匹

庸韓櫃

庸韓櫃

漆塗著鏤 率分一合 年料四合

白木 率分八合 年料廿九合

中男作物

中男作物

黑葛 率分廿斤 年料八十斤

黃皮 率分八十斤 年料

正稅交易

正稅交易

漆 率分六合 年料二升四合

紙 率分百六十張 年料六百卅張

搗栗 率分二斗八升 年料一斛一斗二升

平栗 率分一斗六升 年料六斗四升

蜀椒子 率分六斗 年料二斛四斗

白絹 率分三匹 年料九匹

赤絹 率分百十四 年料□□

鹿革 率分二張 年料八張

荊安 率分百圍 年料四百圍

曝葛 率分四斤 年料十六斤

生栗 率分六斛 年料廿四斛

干柏 率分廿二俵 年料八十俵〔八俵之〕

油 率分六斗 年料二斛四斗

年料別貢

年料別貢

天永二年正月二十三日

11011

天永二年正月二十三日

1104

年料利春

年料利春

墨 率分六斗 年料二斛四斗

掃墨 率分二斗 年料八斗

斐麻 率分廿斤 年料八十斤

穀麻 率分十四斤 年料五十六斤

白米 率分十二斛 年料卅八斛

糯米 率分五斛二斗 年料廿斛八斗

粟 率分二斛 年料八斛

大豆 率分六斛 年料廿四斛

胡麻子 率分一斛 年料四斛

長治元年 色目同前 同二年 色目同前

嘉承元年 色目同前 同二年 色目同前

年料利春

白米 率分十二斛 年料卅八斛

糯米 率分五斛二斗 年料廿斛八斗

栗 率分二斛 年料八斛

大豆 率分六斛 年料廿四斛

胡麻子 率分一斛 年料四斛

右官宣、件季房朝臣任中所濟、調庸中男交易雜物年輸、率分所當數、宜勘申者、檢文簿所注如件、仍勘申、

天永 年 月 日

算師息長

修理左宮城判官頭兼大外記助教播磨權介中原朝臣師遠

權少允紀

權少屬佐伯

○兵範記、久壽三年二月五日ノ條、異事ナキヲ以テ略ス、

二十五日、子贈皇太后藤原茨子國忌、

〔中右記〕 正月廿五日、○中今日國忌也、(贈皇太后藤原茨子)

○茨子ノ國忌ヲ置クコト、天仁元年七月七日ノ條ニ見ユ、

僧綱所、東大寺ニ同寺綱封藏ヲ開封スベキコトヲ牒ス、

〔中村雅真氏所藏文書〕○大和

僧綱牒 東大寺

天永二年正月二十五日

1105

天永二年正月二十七日

應令開封綱封藏事

使威儀師慶源 從儀師珍嚴

牒、得寺家解狀稱、綱封藏所納古破損播取出令修補、可充花嚴會新者、早開封可令取出之狀、牒送如件、寺宜承知、牒到准狀、故牒、

天永二年正月廿五日

從儀師「暹眞」

大僧正「增譽」

威儀師「靜算」

僧正

法印權大僧都

權大僧都

遠江守源基俊、法皇ニ御馬ヲ獻ル、

〔殿曆〕 正月廿五日、戊子、天晴、○中略遠江守基俊馬六疋獻院、

二十七日、庚寅、攝政藤原忠實、春日社塔造立ノ日時ヲ定ム、

〔中右記〕 正月廿七日、庚寅、從殿下有召、則參入、雖御物忌有召參御前、於東對東面、

有春日御塔日時定、奈良僧正被參、召陰陽師家榮、泰長二人於前、令勘件御塔日時、右

日時勸進文
材木探進
ヲ私領知
園ニ下莊
スハ不例
塔ノ祈
願ノ時
忠實春日
社塔造立
依リコト
違ス

檢非違使
宣旨ノ後
未ダ官符
ズニ請印
セ

中辨（藤原）為隆朝臣覽件勘文、杣入、木作始、壇築、礎居、四柱立事等也、今日則可採進材木之由、被下知殿下御領庄々、

件御塔者、去年不例御之間、春日御社之中、塔婆一基可造立之由有御願也、仍仰御領庄々、可被作之由有議定也、晚頭退出、

〔殿曆〕 二月五日、戊戌、天晴、依召參鳥羽、其次用方違、○下略

六日、己亥、○中略昨今日物忌也、雖然春日塔事大切也、仍夜前方違、仍今日同不慎也、

○忠實、春日社塔造立ノコトニ依リ、方違スルコト、便宜合致ス、忠實、病ノコト、

ト、元年八月八日ノ條ニ、藤原宗忠ヲ春日社ニ遣ハシテ、塔造立ノ地ヲ相セシムル

コト、三年七月十六日ノ條ニ見ユ、

二十八日、卯、辛、請印政、

〔中右記〕 正月廿八日、天陰、早且藏人左衛門尉有業來觸云、使宣旨○本月二十三之後、

官符未請印、而明日奉幣、○本月二十九日ノ條參看、明後日休日也、來月一日必欲供奉行幸、○二月一日依

件事遅々、近日著座上卿三人也、藤中納言不被出仕、（源重光）治部卿所勞、仍必今日可令著行政

給也、欲蒙深恩者、予依夜前下名、○本月二十三雖神心屈、已爲人々大事、愁請了、但他

人々早可被催之由答了、

午時許參政、入從待賢門、是陽明門穢氣間也、○元年十二月二左大辨、（源重光）右少辨、少納言二

天永二年正月二十八日

南所物忌

天永二年正月二十九日

二〇八

人、宗兼、實兼等參入著廳座、左大辨同著、請印了出外記門間、召使稱南所物忌由、仍南行退出、入夜雨下、

太皇太后、宇治ニ行啓ス、

源麗子供奉ス

〔殿曆〕 正月廿八日、辛卯、天晴、今日四條宮、北政所渡給宇治、

〔中右記〕 二月七日、庚子、天陰、雨下、○中略、藤原宗忠、高陽院ニ赴ク、及深更退出、大后、

政所日者雖御西小寢殿、一日入御宇治殿了、攝政殿御于東對也、來十四日可還御他所者、

二十九日、壬辰、春日社行幸ニ依リ、二十二社ニ奉幣ス、

〔中右記〕 正月十九日、壬午、天晴、○中略、今夕右大將參仗座、被定申春日行幸奉幣使日時

等云々、

爲春日行幸廿二社奉幣、廿九日、壬辰、天陰、雨下、春日行幸御祈奉幣廿二社也、上卿右大將云々、今日御物忌之間、上臈職事依不候、御拜止了者、

上卿御拜ヲ停メ給フ

定

上卿

御拜ヲ停メ給フ

○法皇、藤原忠實ヲシテ、春日社行幸ノコトヲ沙汰セシメ給フコト、元年十月二日ノ條ニ、春日社行幸ノコト、本年二月十一日ノ條ニ見ユ、

二月小盡 甲午朔

一日、甲午法皇、大炊殿ヨリ、六條殿ニ御幸アリ、是日、法皇御所六條殿

ニ朝覲行幸ス、尋デ、法皇、六條殿ヨリ、鳥羽殿ニ御幸アリ、

〔殿曆〕 正月廿八日、辛卯、天晴、○中略、今朝頭中將通季を招奏院云、行幸事、上達部誰人、可仰候乎、可隨仰也、

廿九日、壬辰、天晴、不出行、々幸間事等奏院了、

二月一日、甲午、天晴、巳時許參御前、束帶、裝束、儀々、今曉上皇渡御六條亭、密々、是依行幸也、公卿遲參程、行幸暫遲々、自院遲々、由有御使、主上御裝束之間、新宰相中將實隆未昇殿、仍參

自北面、奉仕御裝束、依院、仰也、

行幸路并諸如去年、○元年二月二十三日ノ條參看、無別事、如年々儀、陪膳新大納言宗通、

舞、左萬歲樂、三臺、龍王、他舞依雨被止、此舞了主上入御、御對面如常、還御之時、有御

引出物、御馬、龍王、中納言中將裝束、櫻萌木下襲、花欸多表袴、及還御之時有勸賞事、中納言中將、仙

院御恩、不可奏左右、返有其恐、新中納言中將、於六條亭內院奏慶賀、還、

〔中右記〕 正月廿四日、丁亥、伐日、參賀陽院、晚頭右大將被參、東帶、是今夕依可有、

二月一日、甲午、天晴、依朝覲有行幸法皇御所六條殿、仍辰剋許參內、○中略、藤原實行吉書

天永二年二月一日

二〇九

密々六條殿ニ御幸アリ

法皇御幸ヨリ

行幸遲々

由御使

アノ

御對面

御對面

御對面

御對面

御對面

御對面

御對面

御對面

御對面

日時勘文

南殿二出

公卿列立

發輦

法皇棧敷

物ニテ御見

藤原忠實

供奉

御所ニ入

簾中ニ於

テ御拜

院內還昇

ヲ聽ス

二十三日、次參御直廬、殿下并中納言殿、從夜前有御宿仕也、已時許右大將以下諸卿三四條ニ收ム、人參仗座、頭辨下日時勘文、并召仰留守事被仰下、治部卿并右中辨爲隆、右大將移著端座、召外記被下知、其後內大臣被參、新宰相中將實隆昇進、○正月二十三條參看、之後、雖未還昇、從北面方參御前、奉仕御裝束、件人爲藏人頭之間、年來勤仕此事也、

午剋出御南殿、近衛陣引、右次將中將宗輔、少將宗能、雅定、伊通渡階前向東中門、次公卿列立、內大臣、左大將、右大將、家、藤大納言、經、新大納言、宗、右衛門督、顯、子、

別當、能、新中納言、忠、中納言中將、右宰相中將、顯雅、左宰相中將、家、修理權大夫、爲、藤宰相、俊、新宰相中將、實、圍司奏、了少納言宗兼、鈴奏、寄御輿、鳳輦、右宰相中將顯雅

置劔璽、出從東門、從洞院東大路南行、從六條坊門更西行、從烏丸北行、上皇於東面棧敷有御見物、供奉諸司皆悉過之、至六條殿北門暫留御輿、攝政殿令參給、騎馬令供奉給、

民部卿不被供奉、祇候院也、寄御輿於南透廊下御、敷筵道、左右宰相中將取劔璽候前後、入御于御所、

此後內府以下著殿上座、西侍廊兼居饗饌、於簾中有御拜歎、此間新任公卿五人、中納言三人、宰相二人、○正月二十三條參看、被聽

院內還昇由被仰下、於西中門各拜舞、漸及申剋、頭辨來告有召之由、內大臣以下諸卿次第參著御前座、寢殿南面簾子敷菅圓座、先主上出御于寢殿中間、兼左右近陣引、攝政殿依御氣色、召左中將信通

朝臣、右少將雅定朝臣、爲左右樂行事、次發亂聲、左近將監光末、右近將曹忠方振鉦、

御膳ヲ供

御對面

神祇官御

麻ヲ獻ス

名謁

互奏音樂、左萬歲樂、八人、居公卿衝重、兩方殿上五位六位役之、頭中將通季勸盃、藏人辨雅兼取瓶子、舞了、此間供御膳、新大納言宗通卿爲陪膳、解劔指笏、取宰相五人益送、延喜樂、八人、三臺、八人、長保樂、八人、龍王、納蘇利、舞間小雨間灑、仍被止他舞、酉剋事了、入御于簾中、宰相中將取御劔授內侍、又有御對面歎、此間白地下宿所休息、雨脚殊甚、臨夜陰歸參、○中略、中納言中將被敍從二位之由被仰下了者、則於西中門令申慶於院內給、次給祿於諸卿以下、今度無送物、牽出物御馬二匹、左中將信通、右少將雅定牽之、左近府生武忠、行後相從、牽渡前庭、於西中門給左右馬寮、有院仰寄御輿於寢殿南階、兼候御輿寄也、御輿雨皮、公卿列立前庭、依雨止也、少納言宗兼鈴奏、還御、戌剋入御、東門下神祇官獻御麻、左右大將立東西廊、少納言於東面門鈴奏、此間依雨脚下也、次名對面、留守治部卿、人々後被稱名、中納言中將殿令申慶於皇后宮御方給、藏人說雅留守、○中略、

內大臣以下、其一家人々早除服、○正月十日條參看、今日可供奉之由被仰下、仍皆以出仕、但新大納言雅俊卿一人不被參、未申慶賀之故也、○正月二十三條參看、又新任公卿皆雖不著陣、今日被供奉也、是先例也、今日殿下御物忌也、然而令供奉給、今日如去年前庭東方樂屋一字、

法皇御方
忌依リ
宿ナ

出御

御拜

還御

大鼓一面、右、其南北立左右鉦鼓鉦等、大鼓、其北右鉦鼓、今朝上皇從大炊御門御所還御此亭、
行幸以後還御鳥羽也、依方忌不令一宿此六條殿給故也、

〔長秋記〕行幸六條殿事二月一日、院行幸、六條殿午剋出御、世間依冷然不渡南庭、鈴奏、無勅答、攝政

鳴笏告之、宰相中將顯雅取劍璽、中納言中將雖下藹、不被昇故也、登如去年渡院御棧敷前、

此間次、於簾中有御拜、出御以後引陣、先々以前引之、奉行人忘失歟、振梓間雨下、仍次將退入、舞、左萬歲樂、三

臺、龍王、右也久、勸賞、中納言中將無御遊、有祿、內府被申慶故簾中、引出物御馬二疋、還御、寄

御輿於南階、有鈴奏、院又有御見物如初、今日無行幸召仰、去廿八日頭中將通季宣下

兼日召仰事、兼日召仰事左府云々、傳宣顯隆朝臣、近例當日於仗座仰之、日時勘文當日下之、其後有召仰也、不

下日時以前召仰不得心之由、左府被仰也、

〔十三代要略〕下鳥羽院 二月一日、天皇朝觀太上皇御所、小六條院

〔舞樂要錄〕上朝觀行幸

天永二年二月一日

左、萬歲樂 三臺 陵王

右、延喜樂○殿、長秋記、地久ニ作ル長保樂 納蘇利

〔公卿補任〕十權中納言正三位藤忠通、十五、二月一日從二位、行幸院賞、〇一代要記異事ナシ、

〔中〕〇御遊抄、羽林要祕抄、異事ナキヲ以テ略ス、法皇、鳥羽殿ヨリ、大炊殿ニ還幸ノ

コト、正月二十一日及ビ三月三日ノ條ニ見ユ、

二日、乙未春日社ノ怪異ニ依リテ、御占ヲ行フ、

〔中右記〕〇中二月二日、略今朝右中辨為隆、藤原忠實傳殿下仰云、去正月廿六日戌剋、春日社林

中於六道橋下、猪鹿切法師一人、道因法師已死去、又小童一人被切損之由、興福寺言上也、

而件事可有御占哉如何、可量申者、申云、尤可有御占事也、就中御社邊猪殊不見、頗可

為怪歟、又春日行幸、〇本月十一日ノ條參看、近々、而件所可為本社穢哉否事、早可被尋也者、後聞、

有御占、本所口舌者、

〔春日社祭祀〕〇大和天永二年正月廿五日、實信僧正御房政所法師道因、自六道而自路

被喰害畢、〇下略、春日祭ノコトニカ、カ、本月三日ノ條ニ收ム、

三日、丙申春日祭、

〔殿曆〕二月二日、乙未、天晴、〇中神馬如常、

〔中右記〕二月二日、春日祭奉幣如例、侍從宗成初奉幣、左近府使中將師重云々、依

俄奉被免代官、本新宰相實隆巡也、而去除目、〇正月二十三任參議了也、皇后宮使、〇下

三日、春日祭、

天永二年二月二日 三日

藤原忠實
神馬ヲ獻
使

法師猪鹿
ニ害セラ
ル
興福寺言
上

御占ノ趣

天永二年二月四日 五日 七日 八日

二二四

〔春日社祭祀〕和○大 天永二年正月廿五日、○中略、道因、猪鹿ノ爲メニ書セラル、ルコトニカ、ル、本月二日ノ條ニ收ム、雖然二月二

日御祭勤畢、

〔春日祭歷名部類〕○天永二年二月三日、○西戊申、祭

近衛使左中將師重、皇后宮使

四日、○丁酉祈年祭、

上卿

〔殿曆〕二月四日、○中丁酉、天晴、○中今日祈年祭、上卿治部卿也、

〔中右記〕二月四日、祈年祭、治部卿、○藤原實光右少辨著行云々、

五日、○戊戌攝政藤原忠實、陰陽師ヲシテ、多武峯ノ怪異ヲ占セシム、

鹿死ノ怪

〔中右記〕二月五日、○中戊戌、天晴、○中早旦參殿下、○中今日從多武峯言上怪異事、○安徳鹿死、召泰

長有御占、本所口舌、又長者御怪者、○藤原晚頭退出、

七日、○庚子院御物忌、

〔殿曆〕二月七日、○中庚子、天陰、雨甚下、○中予今日不參鳥羽殿、依御物忌也、

〔中右記〕二月七日、○中庚子、天陰、雨下、○中左中辨云、今夜參鳥羽、籠院御物忌、○下

八日、○辛丑園、韓神祭、

〔中右記〕二月八日、○中天晴、○中欠日、○藤原忠實晚頭從殿下有召、則參入、○中次依分配勤園韓神祭、

内侍ノ遅
參ニ依リ
テ深更ニ
及ブ

右少辨實光、外記政綱、史佐忠參入、内侍遲來之間、及夜深更相催之處、肥後内侍來、
代官申事、尋外記之處、政綱申云、以召使欲申代官、大奇怪也、政綱大略不堪申上、相
構歟、仍追止了、此外次第如例、亥剋歸家、

是ヨリ先、皇居大炊殿ノ穢ニ依リテ、御占ヲ行ヒ、高陽院遷幸ノ日時
ヲ勘申セシム、是日、攝政藤原忠實、院旨ニ依リテ、皇居ノコトヲ議
シ、高陽院ヲ停メテ、内裏遷幸ノコトヲ定ム、

〔殿曆〕二月四日、○中丁酉、天晴、○中依内御所顯隆來、雖物忌予相合申御返事、

五日、○中戊戌、天晴、依召參鳥羽、○中内御所事也、御所去比主殿寮下部、於御殿前俄死、

仍被尋之處、去年采女一人同之、仍主上可令立給之由、予所申也、今夜侍宿、

六日、○中己亥、辰剋參御前、大炊殿事、猶可有易御占由被仰、仍出京仰此由、今夜參内、

侍宿、

御占不快

七日、○中庚子、天陰、雨甚下、午剋許余自内退出、今朝夜前易御占見之、大炊殿御所不快

云々、仍以顯隆令奏院、予自内退出了、申剋許顯隆朝臣歸來云、早可令立給者、仍上卿

新藤中納言宗忠、辨顯隆也、於陣勘日時、向高陽院、○中今日行幸大祓也、上卿引辨等

向高陽院、始也、予有東面、○上卿以下來、各退出了、

天永二年二月八日

二二五

行幸大祓
事始

主殿寮下
部頓死

易御占

藤原宗忠
高陽院遷
御ノ上卿
トナル

高陽院遷
御ノ日時
勘文三通

陰陽師等
ヲ具シテ
高陽院ニ
向フ

御裝束以
下日時勘
文

八日、辛丑、天晴、○中今日御所沙汰也、〔源俊明〕民部卿、藤中納言等、來申、
九日、壬寅、不出行、○中賞并反閑可止歟、陰陽師事以顯隆奏了、先入御內裏、次可有
御所沙汰由仰了、院仰也、

〔中右記〕二月六日、早旦頭辨〔藤原〕實行送書札云、廿三日可還御賀陽院、件上卿可奉行、

又左中辨顯隆可爲行事者、申承了由、則告左中辨、

可還御賀陽院間事

七日、庚子、天陰、雨下、頭辨送書札云、來廿三日可還御賀陽院、件事可奉行、又左中辨

顯隆可爲行事也、今日可被沙汰始者、申承了由、則下知左中辨了、彼返事云、依件事

沙汰、只今爲殿下御使所參鳥羽殿也、自此隨申可參內者、暫相待之間、及申剋可參仕之

由、左中辨所被告送也、則參內、先相尋陰陽寮參否之處、皆參了者、仍著端座令敷膝

突、召左中辨令勘日時、則持來勘文三通、可還御高陽院日時一枚、廿三日内侍所并御籠神可奉渡日時一

所被勘下、或又上卿於陣所勘也、今度付近代儀於陣勘之、件三通勘文、召史之管入之、令左中辨內覽也、此外又可始行事日時一枚、今日、持來、見了下左

中辨、是上宣也、次相具上官陰陽寮等參高陽院、此間殿下御坐也、然而於車宿所屋假敷座、諸司

予并左中辨顯隆、左大史盛仲、史友定、〔宗忠〕點定行事史也、盛仲雖非行事相具也、上〔安徳〕陰陽寮家榮、泰

長、宗憲等又著於此處、又令勘日時五通、御裝束日時一枚、廿九日御帳立日時一枚、廿三置版位日時一枚、

左中辨進勘文、予見了則下左中辨了、依爲上宣也、則下知左右衛門、左右兵衛府、令作

陣座屋等
ノ修理

中殿南殿
ヲ巡檢

高陽院
ヲ修理

國ニ課
修ニ諸

怪異頻
起ル

遷御ノ御
所ヲ議定
ス大炊殿
ヲ造營ス
壞チ皇居
ベキ地

内裏ニ遷
御ノコト
ヲ定ム

諸司ヲシ
テ内裏ヲ
修理セシ
ム宗忠病ニ
依リ上卿
ヲ辭ス

始陣座屋、又召木工寮修理下知了、又召内匠寮如御殿御障子令作始了、〔管九〕成宣旨一通、左

中辨加判了、加賀國公其後相具左中辨、廻見中殿南殿了、東相撲廊可被作事、弓場殿廊可

被作事、堀川關可被修理事、早申院、殿下可被支配諸國之由仰了、○中及深更退出、○中

近日皇居大炊殿、此間怪異頻示、頗有不吉事、仍内々被卜筮之處、不吉之由申云々、仍

可有遷御者、左中辨云、今夜參鳥羽、○中可奏聞之由所答也、

八日、天晴、〔扶〕晚頭從殿下有召、則參入、雖御物忌有召參對南面、民部卿、新宰相

〔藤原〕爲房、參入、專頭辨并左中辨顯隆參入、是依院仰皇居事致沙汰也、近日大炊殿怪異頻示、

仍可遷御他所、而件賀陽院、内府亭、内裏之間可有沙汰、但壞渡大炊殿可被作皇居者、

件地一條院、修理町、神祇官町、東宮町、如此所々如何、但又大將軍王相金神御忌方可

被避事議定、仍召陰陽師家榮、泰長被尋問之處、先入御內裏、其後中御門南二町程、大

宮東邊不當御忌方之由所申也、仍先件旨以左中辨被申院了、

九日、壬寅、○中晚頭左中辨顯隆送書札了、〔三〕皇居遷御事、止賀陽院可遷御內裏、是夜前如

予定申也、件上卿猶可奉行者、申承了由、但還御舊內裏時、殊上卿不被仰事也、即從藏

人方仰諸司被修理許歟、

十六日、己酉、○中二禁猶不宜、仍遷宮行幸上卿辭申之由、以書札觸左中辨、返事云、則

奏聞、新中納言忠教卿奉行、件左中辨又依所勞辭申、行事左少辨雅兼奉行云々、

○内裏ヨリ、大炊殿ニ遷御ノコト、天仁元年十一月二十八日ノ條ニ、大炊殿ヨリ、内裏ニ遷幸ノコト、本年本月二十三日ノ條ニ見ユ、

九日、壬寅、御物忌、

〔中右記〕 二月九日、壬寅、○中今日略御物忌也、

〔殿曆〕 二月九日、壬寅、不出行、鳥羽殿御物忌、

十九日、壬子、天晴、○中今日余侍宿、依御物忌不參御前、

廿八日、辛酉、天晴、今日余依仰不參仕、候内、院仰内依御物忌、酉剋許參入、

廿九日、壬戌、天晴、今日余退出、

○十九日以後ノ御物忌、便宜合敘ス、

十日、癸卯、大原野祭、

〔殿曆〕 二月十日、癸卯、神馬如常、於高陽院南面有此事、

〔中右記〕 二月一日、甲午、天晴、○中辰剋許參内、而新頭辨實行、今日初申吉書○正月二十三日ノ

條參下、予先著端座令敷膝突、頭辨下吉書、是大原野祭幣料也、結申之後便下頭辨、於床

下史云々、

藤原忠實
神馬ヲ獻ル

幣料

行幸定

舞人定

神寶御覽

南殿ニ出御

發輦

藤原忠實
供奉

法皇御見
物

十日、減日○中略今日大原野祭、新宰相中將實隆、右少辨實光勤之云々、

十一日、甲辰、春日社ニ行幸ス、尋テ、法皇御所鳥羽殿ニ行幸ス、

〔殿曆〕 正月十五日、戊寅、天晴、○中今夜春日行幸定也、二月十一日、

二月一日、甲午、天晴、○中略、法皇御所六條殿ニ朝觀行幸ノコトニカ、ル、還御之後、於宿所定春日行幸舞人、頭辨實行

予其後退出、

十日、癸卯、○中辰剋許參内、依明日行幸也、

十一日、甲辰、天晴、今日有行幸春日社、仍予從去夜候直廬、是爲催諸事也、早旦先於

畫御座、予著東帶參進、主御直衣、御覽神寶、上卿右大將參陣座、仰下留守人々、左大

資、藏人左少辨雅兼也、職事先例雖不勤此、諸卿漸以參集、辰剋主上出御南殿、雅樂頭泰、近衛陣引、

右次將宗輔朝臣以下渡南階前、向東中門、次内大臣、兼左右大將藤原朝臣、家、權大納

言、源雅實權大納言、雅、權大納言、宗、左衛門督、雅、右衛門督、顯、權中納言、宗、中納言中

將、源雅實令帶、左兵衛督、能、權中納言、忠、右宰相中將、顯、左宰相中將、家、修理權大夫、爲、

藤宰相、俊忠俊、新宰相中將實、列立庭前、寄御輿、鳳輦、無鈴奏、音奏等、乘輿出從東門、予

乘車供奉、廣御毛、前驅卅人、其路經大炊御門、大宮七條、朱雀大路等、午初到鳥羽殿、北門

下供奉諸司行列、次第不誤舊跡、上皇於修理大夫顯季宿所棧敷有御見物、件棧敷自大予下

美津頓宮

從車、雖參御棧敷、依有指仰、更又乘車、渡御棧敷前、未剋許著御美津頓宮御所、先令

龍頭鶴首

渡浮橋之間、龍頭鶴首互奏音樂、被止御船、先例也、於頓門幔門下、神祇官獻御麻、不經幾程則出

社頭ニ著

御、道之間所々有馱餉事、例馱餉ハ、ソノ杜也、依幼主、所々止御輿、每止御輿、下從車參進、戌終著御社頭御所、先於西幔門、外獻御麻、右大

御諛

將令頭辨實行朝臣奏宣命、見了返給、此間天陰、時々小雨、於御所東庭有御禊、先昇立神寶、舞人

御拜

五六人許上卿右大將著座、事了有御拜、中納言能後卿取上卿插頭花、雖雨脚間灑用晴儀、上卿出幔外之間、

社司ニ勸

以藏人頭實行朝臣、仰社司六人勸賞事、是承保二年之例也、其後退下宿所、寺家所作之黒木屋也、中納言中將宿同屋北院方也、及曉

宣命ヲ讀

更頭辨來云、御願平安遂了由、右大將奏聞者、後聞、社頭次第、上卿讀宣命、依雨儀、於屋中讀之、

神樂

次舞人廻御馬、次東遊、神樂、次舞人馳御馬歸來、次發亂聲、左右奏樂、萬歲樂、賀殿、龍王、地久、長保樂、

納蘇、仰下社司賞事云々、今夜雨脚殊甚、

十二日、乙巳、朝間天陰、風吹雨下、聊有雷聲、如此之間萬事懈怠、已剋右大將以下諸卿九人

來宿所、予出賓筵、上達部、殿上人各著座了、先有盃酌事、二獻之後居汁物立箸、三獻

了召爲隆朝臣、依辨別當也、先例必辨、別當不預此事、可隨便、參南簀子敷、仰可召別當之由、此間且供餽餽、諸大夫

等傳取居之、抑依忌月止音樂并童舞等、然而餽餽女列立、庭前之屋中供之也、是長曆二

年十二月行幸當社之時、其儀如此、自叶吉例也、爰別當僧正覺信參上、著南庇座、召藏

人頭實行朝臣、於座前仰賞事、以別當僧正弟子權少僧都永緣任權大僧都、以權別當權僧正範俊弟子已講定圓任權律師、又以上座定深法橋上人位、權別當有所勞、今日雖不參、殊

勸賞

忌月ニ依
リ音樂並
童舞ヲ
停ム

祿ヲ餽
女ニ給フ

有勸賞也、又上座定深勞稱潮之辭及七旬、仍所抽賞也、三人、頭辨仰當座上薦右大將、大將仰僧正、權

中納言忠教卿取祿給僧正、件祿、先例殿上人取之、於今度者、彼人爲僧正之上、爲思家禮、殊令新中納言取也、右大將又召頭辨、仰殘二人

賞事、次給祿於餽餽女、諸大夫取之、抑內府一家人々依有憚事、雖供奉行幸、不入鳥居中、仍不

被來之故、無引出物、度々例、大臣不來著時、已無牽出物事也、次引諸卿參御所、此間雨

脚猶未止、先餽餽女參上打之、有樂、左右近官人等取祿給之、以頭辨問諸卿云、今日雖可

有東遊雨間如何、頭辨歸來云、延久寬治之例、依雨於公卿座有舞、然者依件例、必可候

之由、人々儀申者、令頭辨仰云、新大納言、宗、中納言中將、左兵衛督、能、新中納言、

忠、忠教左宰相中將、家、新宰相中將、實、舞人上薦四人可立舞、又藤中納言宗忠、可執拍子者、

仍先徹公卿座饗饌、爰召右大將令候御前簀子敷、民部大輔師俊、先敷管圓座一枚、新大納言以下上達部六人、

舞人經忠朝臣、能明朝臣、忠長、能賢相加舞求子、陪從等立南砌下發歌笛、事了給祿於

諸卿以下舞人陪從等、右大將令頭辨奏見參、次寄御輿、雨未止、張雨皮、右大將初稱警蹕、出御、

路間或陰或晴、雨脚間降、未剋以後天晴雨止、戌剋著御頓宮御所、而諸司等存不可留

御之由、皆參鳥羽殿了者、予仍則寄御輿出御、主上自御、與不下御、亥剋留御輿於鳥羽南御所西門下、

先令院司權大納言雅俊卿申事由、此間陪從在御、後、發歌笛聲、寄御輿於西中門下入御、宰相中將顯雅、家

舞

發輦

美津頓宮
ニ著御

鳥羽殿ニ
入御

忠實歸京

忠實院ノ
仰ニ依リ
テ宇治ニ
赴カズ

今日中納言中將又令帶野劍、又歎冬二重織物下襲、青織物表袴、件裝束從院所給也、
十三日、丙午、天晴、依院仰不參宇治、院仰云、主上御旅宿時、攝政遠行、其儀可謂非、仰尤可然、依止了、○中略依當遠忌不參鳥羽殿、中納言中將著直衣令參、今日無別儀者、

鳥羽殿ニ
小弓及ビ
鞠ノ興アリ

十四日、丁未、天晴、辰剋許參鳥羽殿、直衣、中納言相具、寢殿南庇にて主上有小弓事、
余又同、上皇同御、中納言同候、次中納言以下有鞠事、次余下宿所、著束帶即參御前、
上達部參入、上皇渡御、余奏上達部參入之由、次主上出御、上達部二人取御劍等候前後、獻御笏、御座定後、余著簀子敷圓座、召頭實行、示氣色、上達部同、(座アラシ)座定賜衝重、
次御前物、大納言雅俊陪膳、參議役供、但參議數少、次召人數座、次上達部五位御遊具取出、此間召人著座、次御遊、拍子藤中納言宗忠、筆忠通、今度始預之、笛新中納言忠教、琵琶中將信通、和琴伊通、笙少將雅定等也、御遊了上達部朗詠、次牽出物、御馬二疋、還御儀如常、有鈴奏、

御膳ヲ供
ズ

早日先著直衣、參鳥羽殿、申時許公卿內大臣以下參集殿上、兼居、左右近衛次將以下陣於南階東西腋、主上出御、有御、寢殿南庇中央間、南東西庇上御簾、但垂母屋御簾、法王御于其中、予先候南簀子敷座、以藏人頭實行朝臣令召諸卿、內大臣以下諸卿十二人參上著座、兼敷、民部卿今日參加也、次居衝重、次供御膳、權大納言源朝臣爲陪膳、宰相中將二人役送、仍召加藏人頭二人、(藤原)通季、實行朝臣等、又南砌下敷召人之座、伊賀守孝清以下六人著座、又召中將信通、少

御輿ヲ南
階ニ寄ス

將雅定、伊通等令候座末、置御遊物具、有御遊、權中納言藤原朝臣宗忠、拍子、中納言中將初彈箏、新中納言忠、笛、信通朝臣琵琶、雅定朝臣笙、伊通和琴、召人忠光筆簾、先雙調、安名尊二反、席田、鳥破急、次吹返、青柳、萬歲樂、三臺急、此間頭以下殿上人取祿給諸卿、及秉燭有牽出物、御馬二疋、不置移、中將師、有別仰、欲寄御輿於南階、有御、先公卿列立庭前、無圍司奏、少納言定通鈴奏、次寄御輿、還御、亥時許著御皇居大殿、先於東門下、神祇官進御麻、鈴奏、名對面等如常、次仰下行事官勸賞、上卿右大將追可下實行、從四位下泰長、正五位下盛仲、從五位下孝仲、季忠、但行事宰相後忠俄有障、○年未釋職、死ノ條參看、不仰下也、辨行事爲隆頓宮沙汰如泥、仍被止、○中略 今朝依院仰、招左大辨、留守也、藤宰相修理、爲房を爲留守、左大辨重資を可遣由院仰也、

行幸定

〔中右記〕

正月十五日、天晴、○中今夕及深更、俄有春日行幸定云々、右大將參仗座、

舞人陪從
定

被勘改日時云々、去年延、藤宰相、(從忠)權右中辨、(爲辨)右中辨、外記孝仲、大夫史盛仲、史季忠行事、來月十一日者、

休幕定

二月一日、甲午、天晴、○中今夕頭辨於御直廬、被定申春日行幸舞人陪從云々、
五日、戊戌、天晴、(藤原忠實)早日行幸御休席定也、於御出居方、右中辨爲隆衣冠、定

御馬御覽

申、是密儀也、予著布衣參入之間、自然候也、先々人々不參事者、
九日、壬寅、○中今日有御馬御覽、了無試樂、御物忌也、○中今日右大將春日行幸召仰事下知云々、

忠實行幸
雜事ニ就
キ藤原宗
忠ノ意見
ヲ徴ス

天永二年二月十一日

二二四

春日行幸時長者休幕、大臣不參時無引出物事、十日、減日、從殿下以消息被仰云、春日行幸之時長者休幕、大臣不參時無牽出物、永保永長例也、然者今度大臣不可來、仍牽出物不可有歟如何、予申云、依彼例大臣不被參者不可候、又被仰云、春日行幸長曆二年例、依長者忌月、休幕無音樂、件十二月廿日、仍宇治殿爲長者、依御堂御忌月無音樂歟、今度依彼例可無音樂歟如何、申云、早任長曆例無音樂、何事有乎、又被仰云、止座主定深早可下向南京之由、内々可被告者、勸賞事、此年來切々事、今度大略宜歟、以書札告了、仍馳下了者、○中略

宣命草ヲ
奏ス

神寶御覽

出御

今日右大將明日行幸宣命草奏、右少辨實光作之、十一日、甲辰、天晴、有行幸春日御社、仍卯刻參内、侍從宗成依爲新舞人相具參、雜色六人、小舍人童令裝、此間於晝御座覽神寶、右大將上卿、參仗座、留守被仰、左大辨、重資、藏人辨雅兼、是依東、此間於晝御座覽神寶、右大將上卿、參仗座、留守被仰、左大辨、重資、藏人辨雅兼、輕服仍雖職事被仰留守云々、予參殿下御直廬、暫申諸事、自夜前令候給也、被仰云、公卿被遲參間、已以懈怠者、内大臣以下漸以參入、辰刻出御、近衛陣引、反問、泰長候之、右次將中將宗輔朝臣以下渡前庭、公卿内大臣、兼左大將、右大將、家、藤大納言、經、源大納言、雅、新大納言、宗、左衛門督、能、右衛門督、顯、予、中納言中將、忠、別當、能、新中納言、忠、右宰相中將、顯、左宰相中將、家、修理權大夫、爲房、藤宰相、俊、新宰相實、列立中庭、寄御輿、鳳輦、無出御從東陣、經大炊御門、大宮七條、朱雀等大路、午初到鳥羽殿、於北門下、供奉諸司次第列

法皇御見
物

美津頓宮
ニ著御

社頭ノ御
所ニ著御
宣命ヲ奏
ス

御禊

宣命ヲ讀
ム

兩段再拜

勸盃

音樂

社司六人
勸賞

立、依院宣取供奉、上皇於修理大夫顯季棧敷有御見物、攝政殿下從御車、以撥御毛御車、令供奉給也、令參彼棧敷給、然而有院仰、又乘御車、更令渡御棧敷前給、昔前一條院大會御禊日、大入道殿爲攝政、下從車令參圓融院御棧敷給也、今日自叶彼例歟、未始著御美津頓宮御所、先令渡御浮橋之間、龍頭鶴首奏音樂、於御船被止、是永長例也、於頓宮神祇官獻御麻、近代例也、行事右中辨爲隆、史佐忠前行、供御裝束、暫以休息於此所、上卿右大將并陪從等有仰前行、不經幾程出御、今日臨時歇餉、有所々々々、秉燭以後、戊刻許著御社頭御所、先於西院門外獻御麻、雅樂寮立樂、公卿列立御所前庭、北面上、右大將付頭辨奏宣命、清書、此間天陰、時々小雨、予歸宿所休息、御寺東里僧房也、鷄鳴之後、舞人侍從宗成歸來談云、於御所東庭昇立神寶等、有御禊、宮主勅使右大將著座、舞人五人許牽立御馬、依所狹少也、陪膳、頭辨、役供藏人少將、忠宗、勅使插頭花、別當左兵衛督、中納言能俊取之、於幔外殿上人給舞人陪從插頭花、事了以頭辨被仰社司賞於上卿、屋カ、々々入從社南門、神寶、舞人前行、神寶昇立中門、上卿著庭中座、欲讀宣命之處、兩脚頻下、仍於室中著座讀宣命、兩段再拜、是上卿著座也、召神主經房給宣命、次舞人廻御馬八度、各指二謠、次東遊、同屋北間、上卿南庇、北面東上、母屋有舞、次御神樂、取物了有勸盃、所衆、人長兼久召立、右大將及舞人以下七八人、陪從中有散樂興、前張令歌星、明脫、可馳御馬之由被仰、舞人等向馬場馳御馬、或歸參、或退出、此間發亂聲、音樂、萬歲樂、賀殿、龍王、地久、長保樂、納蘇利、上卿召行事頭辨、被仰下社司勸賞六人、神主經房、預實經、此外權預四人、保二年例也、各給一階由也、新敝者給袍笏、又給社司以下祿、上卿

天永二年二月十一日

二二五

忠實ノ休

歸參、於御所邊令頭辨奏御願平安之由、頭辨參殿下御直廬申事由、今日中納言中將令帶野劔給也、又御坐于殿下御休幕也、

十二日、朝間雨脚殊甚、風頗吹、衆人懈怠、已初參殿下御休幕、五間四面黑木屋、西四間爲寶亭、母屋立廻四尺屏風、懸壁代、東間數長者御座、西間、前居御料、土高器十二本、有打敷、公卿對座、東上、皆留南面庇敷又有南廊前庭饋

託女屋、大鼓一面、鉦鼓一面、鉾五、殿下出御賓筵、公卿右大將、新大納言、宗、左衛

門督、予、中納言中將、別當、(此後)新中納言、左宰相中將、家、修理權大夫參著、殿上人貫

首以下皆參、各著座、先一獻、(高聲)重仲朝臣居盃、於打、(應聲)仲實朝臣進盃、雖居汁物、箸立、三

獻、同前、殿下召左中辨爲隆候南簀子、可召別當奏被仰下、(旨之)經殿上人座上、入北障子戶

召之、此間饋託、依御忌月無音樂、饋託女列立屋中、諸大夫於南階取之供、箸下、別當僧正覺信參上、經殿上人座、從簀子殿下召頭

辨、々々實行、參上、被勸賞事、頭辨仰右大將、々々頗進寄僧正座前仰之、可召寄僧正也、我被

弟子權少僧都永緣成給權大僧都之由也、新中納言忠教取僧正祿給之、先々殿上人役也、今度依家禮令中納言取之

由、殿下被仰也、又右大將召頭辨、殘賞事被仰下、初則可被仰下也、又召寄頗不得心也、權別當僧

橋上人位之由也、抑權別當範俊有所勞不參向、推而被行賞、是頗雖無先例、依有別仰歟、又上座勸賞、今度三人初

例也、件上座年及七十、當職之勞已久、仍有此賞歟、抑日吉行幸、堀川院御時二ヶ度、勸賞三人也、且又依件例歟、

次給祿於饋託女、殿下引諸卿令參御所給、雨脚猶不止、諸卿著饗座屋、饋託女打之、有

樂、數筵道許可參、依雨日後方參、左右近官人等取祿給饋託女、頭辨來公卿座云、雖可有舞、雨間如何、人

殘ノ賞ヲ
仰下ス
三人ノ賞
ハ初例
諸卿饗座
屋ニ著ス

舞

々被申云、延久寬治例、依雨於公卿座屋有舞、然者依件例必可候之由、依人々申、右大

將被奏、頭辨來仰云、新大納言、中納言中將、別當、新中納言、左宰相中將、家、新宰相

中將、實、舞人上薦四人、可有舞、新藤中納言拍子、大將被告人々、爰頭辨召右大將、被

候御前簀子、民部大輔師俊、先數管圍座一枚爲其座、是雨儀也、諸司徹公卿座、陪從等立寄南砌下、予取拍子、求子大納

言以下上達部六人、舞人經忠朝臣、能明朝臣、忠長、能賢、有片舞興、給祿於公卿以下

舞人陪從等、寄御輿、有雨皮、但上左右、此間右大將令頭辨奏見參、出御、內大臣以下

參路頭、件一家人々、依服日數中不入社頭也、路間或陰或晴、雨脚間下、人々有苦氣、未剋以後天晴、秉燭著

御頓宮、而諸司不候、存不可留御之由、皆參鳥羽殿了者、則寄御輿、亥剋留御輿於鳥羽

南御所西門下、先令院司權大納言雅俊卿奏事由、於西中門下、從御輿下御、宰相中將二

人家政、候劔璽、入御、

殿下今夜令歸浴給、人々同歸了、

予留大舍人頭邦宗宿所湯治、少將侍從同以留此所了、今日中納言中將又令帶野劔給、又

欸冬二重織物下襲、青織物袴、件裝束自院被奉云々、

當社行幸已及十箇度、

十三日、攝政殿依故大殿御忌日、不令參給也、仍今日還御延引、自兼日有其議定也、但

美津頓宮
二著御
鳥羽殿ニ
著御

忠實歸京

還幸延引

天永二年二月十一日

二二八

中納言中將著直衣令參給、卷纓、今日無別事、心閑有御對面歎、○中入夜向新大納言直廬、終夜言談、

上鞠

十四日、天晴、午後時々天陰、攝政殿早旦令參給、予依有二禁、○年末雜載疾、病、條參看、不早參之由申上之處、相扶可候御遊之由所被仰也、且又院御氣色者、午時許殿上人有上鞠事、申時許參御所、公卿漸以參集、主上出御寢殿南庇中央間、南東西庇卷御簾、但垂母屋御簾、法皇御于其中歟、左右近衛陣南階左右、中將以下、著胡床、攝政先令候給、以頭辨召諸卿、則內大臣、民部卿、雖不被供奉行幸、今日參仕也、右大將、源大納言、新大納言、右衛門督、予、中納言中將、別當、新中納言、右宰相中將、新宰相中將等候南西簀子敷、兼敷、圓座、兼兩方殿上人五位六位居衝重、次供御膳、權大納言源雅俊卿為陪膳、宰相二人役送、爰有仰、藏人頭二人通季實行相加役送、有仰南砌下敷召入座、

御膳ヲ供ス

御遊

召人六人、孝清以下著座、召中將信通、少將雅定、伊通等候座末、召御遊物具、五位六、有位置之、御遊、依仰予取拍子、中納言中將彈箏、初令彈箏給、誠優美也、新中納言忠教、笛、信通朝臣、琵琶、雅定朝臣、篳、伊通、和琴、召人中忠光筆策、先吹調子、安名尊、二返、席田、鳥破急、次吹返、青柳、萬歲樂、三臺急、此間殿上人取祿給諸卿、頭取殿、有引出物、御馬二匹、不置移、中將時、師重取引出物御馬、人々起座、此間及秉燭、寄御輿於南階、候寄、先公卿列立庭中、圍司奏了、少納言定通鈴奏、還御、予依有所勞、竊以退出直廬、著布衣歸洛、○中歸家之後、頭辨送書札

圍司奏

還御

行事勸賞

云、還御之後被仰下行事官勸賞、正四位下實行、行事辨也、權大僧都、從四位下安倍泰長、反問、正五位下盛仲、大夫、外記孝仲、史季忠、給辨、但上卿右大將追可隨申請者、又行事宰相俊忠無賞、是昨日遭母喪之故也、○中略、年末雜載生死、條參看、又頓宮行事右中辨為隆朝臣無賞、頗有故障歟、件賞便右大將被仰下云々、

〔中右記〕

永長二年三月廿九日、癸未、凶會、九坎、午時以後天陰、風冷、雨不下、○中略、春日

ニカ、ル、承德元年三月二十八日ノ條ニ收ム、裏書

後日所書付也、

天永二年二月十一日、有行幸御社、十二日還御鳥羽殿、十四日還宮、社司六人、

別當僧正覺信、以弟子永緣、任權大僧都、

權別當權僧正範俊、以弟子已講定圓任權律師、有所勞不參座也、

又上座定深敍法橋、三人初例、

〔長秋記〕

春日行幸事 二月十一日、春日行幸、寅剋 被感仰、出御次可有神寶

御覽

藏ノ人辨被申殿下云、前例多於社頭被奏宣命、今度如何、可隨御定

者、殿下仰云、只可依先例者、御湯殿之、（畢ノ）播磨守長實朝臣奉仕御總角、自院御隨身敦忠

馳參、被申御出遙之由、出御、雅樂頭泰長御反問、藏人辨談云、夜前參鳥羽三度、是家榮、右將泰長等御反問相論事也、雖然泰長承之、

藤原長實
御總角ニ奉仕ス
反問

天永二年二月十一日

二二九

狼藉極リ

淀頓宮ニ著御

御心地不
御膳ヲ召
シ給ハズ
御心地尋
常ニ復シ
給フ
興福寺東
門ニテ立
樂ヲ奏ス

天永二年二月十一日

二三〇

渡後、通季、宗輔見御興、舞人騎馬、行事遲參、無毛付、仍任意騎也、狼藉無極事也、
 入御菓子宮於御興事、顯雅卿雖可勤此役、依服日數內、次人役之歟、御菓子宮加入之、於鳥羽北門、院廳官
 供奉人見參事、二人立門左右、取供奉人見參、上皇於顯季卿宿所有御見物、於久我東河原有馱餉事、先例
 此所、然而依幼主爲用意儲之、午三刻著御淀頓宮、神官供御麻、下於頓宮、御厨子所儲衝重、近習人
 々職事等著之、而今度無此事、仰後日馳向近邊等食湯漬歸參、攝政出自簾中、召余
 被仰云、只今可出御、代始爲流例、又雖非代始、近來多如此、參會上達部一人不候、爲之如何、余申云、各々分
 散不知在所、被寄御興者、自以參會歟、仍寄御興、此間參議俊忠參仕、未一刻出御、人
 々參會路頭、申剋著御樽杜馱餉所、存先例右近官人付御興、候久我馱餉、依無雖供御膳、御心地
 不例不召之、過廿町許上令反吐御、仍留御興、實隆、通季朝臣參進供御手水、又供御湯
 漬、此後御心地復尋常、日沒間著御祝會杜馱餉所、供膳後、實隆朝臣招下官於便所食破
 子、自此後炬火、炷松、戌剋入奈良坂、東大寺西門垂幔、亂聲、山階寺東門奏立樂、有一鼓
 童、亥一刻著御著到殿、上卿右大將於西幔中奏宣命、頭辨、中納言能俊卿取上卿插頭云々、
 依雨於神殿西屋中東遊、神樂、舞樂云々、社司六人勸賞云々、
 十二日、辰剋凌雨參長者御休幕、黑木屋、上達部被參間、依無便宜、暫居家司等座、北面、上薦
 上達部著座後著殿上人座、東西廊、已剋攝政經南簀子著座、橫座、兼居饗、攝政前立高坏、右大

盃酌

依殿忌月無音樂事

將以下著座、衛府皆著胡鏡、盃酌三巡、四位家司、等持參之、供餽飭、依殿御忌月雖無音樂、餽飭女著片

庇、爲房朝臣申云、二獻後居餽飭、三獻後可召寺別當者、然而殿下不承引給、次別當僧正
 覺信出自西庇障子、經簀子敷、著廂第三間、經庇可著之由、人々雖有氣色、猶經簀子著之、攝政召實行朝臣、參進候

簀子、依蒙氣色參長押上、承仰直進仰、右大將經本路著殿上人座、大將南向居向、僧正
 又居向、承勸賞事、已居、有拜歟、先例召別當被仰歟、大將又召實行朝臣、々々具自庇、居大將前、

被仰殘人々賞事、可仰下官之由、歸著本座、權大僧都永緣、別當、權律師定海、權別當、法橋
 事云、次給別當被物、香染綾被物、新中納言忠教、取之、諸大夫宗國傳持之、僧正退出、次賜餽飭女被、取之、諸大夫、自黑木屋階隱

至御所、公卿座敷打橋、自是上達部參、殿下參御所給、此間俄敷公卿座、實行朝臣云、
 夜密雨之間、御厨子所幄無治術、用公卿座、仍忽所改也者、餽飭女著笠被負從者、參片
 庇打餽飭、有樂、次賜祿、右近官人兼丁二人、知祇候、左近纒候、次實行朝臣仰片舞、人々、宗通、忠、能俊、忠教、家

卿取、右大將依召被候御前簀子、於饗座有舞、雨儀也、舞人陪從賜祿、殿上人、大將被奏見
 服日數人々留鳥居外事、次還御、內大臣以下服日數人々留鳥居外、還御時參向、于時未一刻、申時雨止、
 酉剋著祝會杜、日沒著樽杜、戌剋著御水津頓宮、暗然無人、攝政驚尋給實行朝臣、同
 申云、今夜不可著御頓宮之由兼云々、仍行事爲隆不儲雜事歟、攝政頻驚給、荷與

丁稱窮屈由、仍下官申攝政云、與丁申屈由、晴之儀御興可令馱餉者、殿下從之、雖奉御

天永二年二月十一日

二三一

片舞
雨儀
還御
美津頓宮
ニ著御

天永二年二月十一日

二二二

鳥羽殿ニ
著御

藤原師實
ノ忌日ニ
依リテ還
幸延引

與不下御、馱餉了、亥剋著御鳥羽、神官獻御麻、入御後上皇頓宮無人事、有不快御氣色云々、兼不可儲之由被仰下云々、雖然依無先例、兼被處行事過怠歟、

十三日 今日可有還御、而依攝政御忌日延引、

十四日、自鳥羽還御、巳剋參上、三位中將蹴鞠、殿上人多參仕、申時著束帶了參上、俄可引陣之由有仰、仍借基隆（藤原）著用、忽不存胡床至立、不存知不覺也、又兼不被仰不便

事也、出御、有御遊、拍子宗通卿、此間引出物御馬二疋、（藤原）下官、師重朝臣引之、取口、寄御輿於

南階、上達部懸祿列立、近來無此事、有鈴奏、還御後仰行事賞、宰相昨日遭母喪、仍不被仰、

辨實行四位正下、爲隆漏賞、不知其故、泰長敍四位、六位外記史敍爵、大史盛仲五位正下、

〔庭槐抄〕 治承二年三月廿三日、丁巳、天快霽、（源雅略）○中

天永二年二月十一日、行幸春日社、內大臣、（久我）相國、新大納言雅俊、參議顯雅雖輕服內供

奉、不入鳥居中、大外記師遠雖輕服內、依別仰參入社頭之頓宮、

〔春日社行幸歷代記〕 （中略）○大 御神寶種種調

今上天皇

天永二年二月十一日行幸

御神寶如例

神主經房

正預信經

預 有忠

權預祐房

權預有道

權預經忠

權預

各被物并榮爵給、神殿守并連神人等如前給、

御神寶等奉納御寶藏畢、

同四月八日、御裝束并金銀幣取出、權官中一唐櫃、金銀御幣二前、○春日社行幸御幸部類異事ナシ、

〔辨官補任〕 權右中辨從四位上藤實行 二月十四日敍正四下、春日行幸行事賞、○公卿補任異事ナシ、

〔江次第〕 （四）裏書 ○東洋文庫所藏 造曆博士被超越例

雅樂頭安倍泰長朝臣

天永二年二月十四日、以春日行幸反閉賞劔從四位下、越上首曆博士賀茂家榮畢、

〔僧綱補任〕 （坤） ○德川昭武氏本

天永二年二月十一日

二二三

神寶ヲ寶
藏ニ納ム

天永二年二月十四日

一三四

權大僧都永縁 二月十二日任、春日行幸賞、別當僧正讓、

權律師定圓 二月十二日任、春日行幸賞、權別當範俊權僧正讓、不參會蒙賞始例也、

伊豫守藤原敦家子、

法橋 定深 二月十二日敍、春日行幸賞、御寺上座賞、三人之慶、以之爲始之、(也之)肥後

守義綱子、母範永女、

○兵範記、保元三年二月二十九日ノ條、十三代要略、裝束抄、桃花藥葉、興福寺略年代記、古記部類、

一代要記、異事ナキヲ以テ略ス、春日社行幸ニ依リテ、二十二社ニ奉幣ノコト、正

月二十九日ノ條ニ見ユ、

十四日、未、釋奠、

〔殿曆〕 二月十四日、丁未、天晴、略、今日釋奠也、左衛門督、左大辨、右少辨實光、

少納言宗兼等參勤云々、今朝依院仰、招左大辨、留守也、藤宰相修理大夫、爲房を爲留守、

左大辨重資を可遣由院仰也、

〔中右記〕 二月十四日、天晴、午後時々天陰、略、今日釋奠也、左衛門督、能、左大辨、

重、右少辨實光、少納言宗兼等勤其事云々、

〔釋奠記〕 一道博士引三道學生例

明法算博士不參

天永二年二月十四日、明法算博士不參、助教師遠一人引三道堅義、不可爲例、博士不參

ハ、可停□參道堅義也、

十六日、己酉、院尊勝陀羅尼供養及ビ七寶御塔供養、

〔殿曆〕 二月十六日、己酉、天晴、院尊勝陀羅尼供養也、參鳥羽殿、著直衣、供養了、

七寶御塔供養也、導師寬助法印、事了依召參御前、退出、

〔中右記〕 二月十六日、己酉、略、今日院尊勝陀羅尼供養、又有種々御祈云々、

十九日、壬子、圓宗寺最勝會、

〔中右記〕 二月十八日、略、源基傳、今日夕治部卿參仗座、被定申明日最勝會僧名云々、

十九日、壬子、天晴、略、今日圓宗寺最勝會始、治部卿、右少辨、講師定退、

二十日、癸丑、皇后ノ御方ニ管絃ノ興アリ、

〔殿曆〕 二月廿日、癸丑、天晴、今日不出行、候内、於宮御方小管絃也、

二十三日、丙辰、大炊殿ヨリ、内裏ニ遷幸ス、是日、檢非違使別當源能俊、

狼藉人ヲ捕ヘシム、

〔殿曆〕 二月廿三日、丙辰、天晴、今日行幸内裏、藤原忠實、予雖物忌參入、藤原忠通、中將同物忌也、參

入、行幸儀如常、余今夜候内、

天永二年二月十六日 十九日 二十日 二十三日

一三五

導師

種々御祈アリ

僧名定

講師

檢非違使
盛重ヲ捕

廿九日、壬戌、天晴、○中大夫尉盛重、行幸夜兵衛志殺害人官吏掌成道擲取將來、予給腰差渡

遷幸ニ依
リ仁王講
ヲ内裏ニ
修ス

〔中右記〕二月廿一日、○中今日於内裏二間、以僧三口被修仁王講云々、是依可渡御也、

皇后出車
ヲ獻ジ給

律師應覺、定及渡御之後、暫可被修云々、

皇后御同

廿三日、丙辰、天晴、從皇后宮、今夕可獻出車之由有其催、申承了由、○中今夕從皇居大

御竈神ヲ
奉遷ス

炊御門亭遷御内裏、仍有行幸云々、新中納言忠教仰藏人辨雅兼行事、先催内裏也、後

大炊殿アリ
怪異アリ

聞、戌時出御東門、經大炊御門、大宮等大路、入御從陽明門并左衛門陣、皇后宮同興、

夕御膳ヲ
供ズ

少納言宗兼鈴奏、右大將以下供奉、殿下今夕御宿侍、内侍所、左中將時、藏人左少將忠宗、御竈神、治部卿、右少辨

清仲ヲ左
衛門陣ニ
拘ス

光、是日者御所近日有怪異、仍還御内裏也、依所勞不參入間、大略所記也、

清仲乘車ニ
與

後聞、行幸日時、從藏人所被勸、泰長、下上卿者、又於内裏御直廬、頭辨實行奏吉書、下

清仲乘車遣入近衛陣事

上卿、藤原家忠右大將於内裏供夕御膳、頭中將通季陪膳、

清仲乘車遣入近衛陣事

〔長秋記〕二月廿三日、自大炊殿行幸内裏、大炊殿有頓死者故也、可供奉内侍所由有

清仲乘車遣入近衛陣事

重催、件役下藤井未役人有其數、依無祿有此催歟、但年來有所存勤仕此役、仍申可勤之

清仲乘車遣入近衛陣事

由、然而藏人少將忠宗兼職事供奉、仍予供奉御輿也、皇后同興、御竈神上卿治部卿云

清仲乘車遣入近衛陣事

々、後聞、兵部丞清仲乘車遣入近衛陣、別當能俊卿擲之、令候左衛門陣、明日申上皇可

左右云々、

廿八日、藏人辨入來、直廬召右近將監信則尋問云、去廿三日行幸夜、兵部丞清仲乘車、

參向御輿綱際、仍別當能俊仰汝令擲之、而清仲陳申云、於清仲者於待賢門見物、於車者

送置皇后宮下仕罷歸間、不知案内牛飼遣入陣中、被加制止間、依欲損車、爲陳子細進出

車下也、全自本不乘車之由所申也、件事任實正可申者、信則申云、車邊暗然不見實正、

但依別當宣欲擲間、車邊ニ立天候覽、慥下自車覽も不見、又自門走出覽も不見給也者、

件清仲乘車云々、然而爲後所成從、仍内々加諷諫、不愷見之由所令申也、

○十三代要略、異事ナキヲ以テ略ス、檢非違使藤原盛重、犯人ヲ捕フルコト、便

宜合彼ス、大炊殿ヨリ内裏ニ遷幸ノコトヲ議定スルコト、本月八日ノ條ニ、内裏ヨ

リ、内大臣源雅實ノ土御門第二遷幸ノコト、四月二十七日ノ條ニ、高陽院東對ニ遷

リ給フコト、九月二十日ノ條ニ見ユ、

二十五日、戊午、列見、

〔中右記〕二月廿五日、戊午、天晴、○中今日列見、治部卿、左大辨著行云々、源雅實、藤原實光左右少辨、

少納言定通、宗兼參仕者、今日無音樂并插花事、是依奉幣前齋日ノ條參看、也者、是先例

之由、大外記申上云々、

清仲乘車ニ
與
向ス
陳事狀ヲ

音樂竝ニ
插花ノ
コトナシ

○年中行事秘抄、異事ナキヲ以テ略ス、

二十六日、己未、祈年穀奉幣、

上卿藤原
忠通

〔殿曆〕二月廿五日、戊午、天晴、○中中納言中將、今日祈年穀奉幣上卿を承也、辰剋

許頭辨來仰、中納言著直衣冠、○藤原忠實余於外出居相合、承由申了、次同辨に仰可催陰陽師由同

仰了、予依如此事、今朝退出又參内、中將同參内、予用土御門、中將用陽明門、予於南

殿中將沙汰を見、次了予下宿所、中將退出了、

廿六日、己未、天晴、今日奉幣也、巳剋許中納言參内、予著束帶參御前、依御於南殿見

之、如昨日奏宣命、參八省了、御拜儀如常、

〔中右記〕祈年穀奉幣定二月廿五日、戊午復日、天晴、中納言中將被定申祈年穀奉幣使并日時云々、是始

令行給也、早雖可被定申、依無日次延引也、但使々并幣料、自兼日被用意者、

後聞、中納言忠教卿、○藤原民部權大輔師俊扈從、前駟四人、成家、雅職、盛季、仲隆左大辨重資書定文、今

日又草奏、○藤原清奏、上宣、今日列見、○中今日無音樂并插花事、是依奉幣前齋也者、

廿六日、天晴、祈年穀奉幣云々、上卿中納言中將、使左大辨、重資修理權大夫、藤原房房爲新宰

相中將、藤原實德實、少内記周衡作宣命、行事藏人頭權右中辨實行、

二十八日、辛酉法皇、石清水八幡宮ニ御幸アリ、

御拜
奉幣定
幣料兼日
用意
前齋
使
宣命作者

〔殿曆〕二月廿七日、庚申、天晴、○中參鳥羽殿、依仰退出、今日八幡詣也、仍御鳥羽

南御所、

廿八日、辛酉、天晴、今日余依仰不參仕、候内、院仰也院御物詣、上達部、

殿上人皆悉束帶、上皇同御束帶云々、申剋許出鳥羽殿、戌剋許御參著、坂御手輿也、左

右近昇御輿云々、亥剋許還御鳥羽殿、

〔中右記〕八幡御幸二月廿九日、辛酉、天晴、院令參詣八幡給云々、但依密儀不及廣者、後聞、

藤原忠教新中納言被示送云、自鳥羽南殿令出立給、申剋出御、先有御禊、安長朝長實朝臣取幣立、

事了寄御車、唐車、前駟源大納言、雅俊雅、藤原宗通新大納言、源宗宗、源能別當、源能新中納言、忠教、右宰相中

將、源顯顯、藤原家政左宰相中將、藤原實德家、藤原實德新宰相中將、實德殿上人等、皆束於淀浮橋邊炬火、春日行幸春日行幸、後浮橋不破也後浮橋不破也、

於宿院鳥居外御車手引、於廊前門下令乘手輿御、駕輿了非近習人々前行、源大納言、右

宰相中將依輕服日數、正月十日留鳥居邊、上皇自馬場末令步行御、長實、顯輔顯輔祇候左右、

於寶前奉幣、了即還御鳥羽殿、無御休幕所、御幣之外長櫃一荷相加、覆兩覆兩

○十三代要略、異事ナキヲ以テ略ス、法皇、石清水八幡宮御幸ヲ延引シ給フコト、

元年十二月九日ノ條ニ見ユ、

是月、是ヨリ先、勸學院知院事紀守俊、東大興福兩寺ノ相論スル東大

鳥羽殿ヲ
出御
同還御
密儀

寺領伊賀黑田莊ノ勘狀ヲ注進ス、是月、東大寺、同勘狀ヲ不當トシテ、其眞僞ヲ糺サレンコトヲ訴フ、

〔東大寺文書〕 第四回採訪一

〔續裏書〕 東大寺所進勸學院使守俊、背對使旨、恣所注進勘狀僞書由注文、

東大寺

請殊蒙裁定被糺眞僞、勸學院使者紀守俊背文書旨、恣注進不當勘文、以往古寺領黑田庄、俄擬興福寺領愁狀、

一、守俊勘申云、就兩方公驗勘決四至之處、兩寺領爲各別者、

右件兩方四至各別之旨、尤詐僞也、東大寺領勸院入往古黑田庄并袖々及出作田、皆悉籠四至內之由、所見于興福寺所進貞觀文并長治元年立券狀也、然者件僞書之疑顯然也、勸院入之地何私人可進退哉、因茲守俊爲避僞書之疑、除根本袖等所構注各別四至也、謀計旨尤不穩、彼此文書不朽、重被比較無其隱歟、

一、又勘申云、實遠、信良、三子、隆經、保房、實譽等六代之手繼有疑者、

右件次第傳領尤有理之由、見保房所申下四个度宣旨、件宣旨暗非被下知、召對彼此文書并證人、被沙汰理非所被下也、重被覽件宣旨等文明白、

守俊ノ謀
計最モ不
穩

一、又勘申云、實遠寬德三年相副本券文、寄進興福寺者、

〔右カ〕 □實遠寄申之條有其疑、子細大略見上、件保房所帶宣旨等、抑長治元年興福寺牒狀并立券狀云、件地大中臣則綱所寄進者、則綱者宣綱男也、宣綱之時□□領先寄進八幡宮、次寄進金峯山、彼等依東大寺并保房等訴、皆被停止了、若寬德之比寄申興福寺者、寬治之比沙汰出來之時、何不被加一言哉、又父實遠一度寄申者、稱子孫則綱再不可寄申、仍彼寄文尤有疑、守俊存此旨、偏錄實遠寄申之由、不注則綱沙汰、是又謀計顯然也、

一、又勘申云、貞觀本券案法務僧正□判印給、不可成疑者、

右四件判不可指南、相語以方人判、何可爲證哉、何況彼僧正貞觀比人歟、早可被糺實否、若方人判成證者、東大寺代々長吏判行尤多、

一、又勘申云、承保年中實遠死去之後、三子依有賣買之風聞、且被尋買人隆經、且被尋問賣人三子之日、隆經者陳不知案內、三子稱壓狀之券、其返事各炳焉者、

右件條又以虛誕也、件三子於官底口所陳申賣實由也、其申□寬治七□□〔年十三〕月廿五日宣旨、即官勘狀也、今守俊依事顯然、不注申宣旨狀、又以非常也、

一、又勘申云、寬德以後賣券頗難信用歟者、

方人ノ判
證ト爲ス
ベカラズ

右如守俊勘狀者、寛徳以後宣旨并券契等不可用歟、
 一、伊賀守孝清（權原）朝臣興福寺免判云、件所免除公事雜役、於官物者可辨濟國庫者、
 右件條尤左道也、設依國司進退、雖有免除官物、於雜役者數百歲之間度々申下宣旨、
 東大寺爲出作敢無異論、庄内田畠不幾、故自往古所被副置也者、免判之趣尤無道也、
 其旨數度見官符、何況雖官物、多是便補寺家封所寺領也、
 一、守俊自伊賀國上洛之日、借馬十疋未返事、
 右未知其理、

以前條々言上如件、抑先日於在地、兩寺所司等并守俊對決子細之日、每條東大寺抱其
 理、件由雖注日記、守俊見興福寺無理之趣不加署判、上洛之後、□辨件問答旨、注虛誕
 勘文、進覽之條言語道斷也、件日記相副陳狀、先日進上已了、委被加檢察□理分明歟、
 加之上件左右調度文書等重□披覽者、子細無隱歟、又伊賀守孝清依非理論致阿黨、或發
 私軍兵、或語延曆寺惡僧、或令亂入興福寺僧、如此度々令滅亡、而間依興福寺僧賴胤之
 語所結構也、稱有寄文者、寛徳比也、其後多經年序無其沙汰、今始被相妨之條、只可有
 邊迹、仍偏仰裁定、謹解、

天永二年二月 日

〔都段之〕
維那二人

守俊興福寺無理之趣ヲ見テ加ヘ署判ヲヘズ
 同上洛ノ後虛誕ノ勘狀ヲ注ス

五節五人

所司

○守俊、東大興福兩寺使等ト共ニ、爭論ノ理非ヲ勘決スルコト、元年十二月十日ノ
 條ニ見ユ、

三月大盡癸亥朔

三日、乙丑御燈、

〔殿曆〕三月一日、癸亥、天晴、今日依御燈出河原、大炊御門末其儀如常、

三日、乙丑、天晴、今日內御燈也、御燈儀如寬治元年辰剋許予著束帶參御前、主上御裝束、其儀

先著御座、予候頭辨實行獻御笏、次頭通季、藤原五位藏人忠宗供御祓物、御禊儀如常、御拜

三度、了御笏返給入御、

〔中右記〕三月一日、癸亥、天陰、雨下、中於北庭著衣冠、御燈祓、灸治之所未平癒、然而只少許小沐浴、

三日、中今日有御燈、御禊、次御拜、有三度由所傳聞也、

〔永昌記〕御燈事三月一日、癸亥、雨降、沐浴、行御燈解除事、

法皇、鳥羽殿ヨリ、大炊殿ニ還幸アリ、

〔殿曆〕三月二日、甲子、天晴、今日參鳥羽殿、御幸延引、退出、

三日、乙丑、天晴、中余依御行參鳥羽殿、御幸大炊殿亭、余其後退出、藤原忠通中納言依物忌

不參御幸、

〔中右記〕三月三日、午時許上皇從鳥羽御幸京御所、

〔永昌記〕三月三日、乙丑、上皇出御于大炊殿、藤原忠通修理權大夫被奉仕前駐、示給云、衍カ々參

藤原忠實
御燈祓

御祓物ヲ
供拜三度

御禊

延引
藤原忠實
供奉

議〇正月二十三之後始以供奉、可憚日次乎、藤原忠通予申云、御慶之後先供奉行幸、又院役及布施

取、扈從御行更不可有憚、其官其職初參從事之後、無忌供奉日歟、但中納言殿候仗儀、不

令供奉行幸給、忠實殿下別儀歟、藤原季季大貳卿又不參者、不供奉行幸之人也、向宰相第有被示事也、

〇法皇、鳥羽殿ニ御幸ノコト、二月一日ノ條及ビ本月六日ノ條ニ見ユ、

四日、丙寅圓成寺塔燒失ス、尋デ、檢非違使ヲシテ、同塔ニ放火セル同

寺別當公任ヲ追捕セシム、

〔殿曆〕三月六日、戊辰、天晴、中已剋許別當門外に來云、法勝寺東圓明寺塔燒失、

件金物、別當僧公任取之、仍件物等皆擲取了、何様に可有沙汰乎、藤原忠實予申云、不便に承候、

可被尋人々候、別當則還、參院、予物忌上有穢氣、〇本月六日仍不相會、

〔中右記〕圓成寺放火事三月七日、天陰、雨下、中或人語云、去四日夜東山圓成寺塔燒亡、而有事

疑被尋之處、別當僧放火云々、是年來取件塔金物、放要人了、仍付火燒失者、別當僧所

爲、誠可謂犯大罪之者、仍從使廳追捕、已承伏了者、末代之惡僧已滅佛法歟、

〔百練抄〕五鳥羽天皇 三月三日、四園城寺塔一基燒亡、

院御物忌、

〔殿曆〕三月四日、丙寅、天晴、中院御物忌也、

源能俊公
任沙汰
實問フ

別當塔ノ
金物ヲ取
末代ノ惡
僧

天永二年三月六日

二四六

十九日、辛巳、天晴、○中略酉剋許參鳥羽、燭、及乘依御物忌不參御前、候宿、

〔中右記〕三月廿日、天陰、雨下、○中略未剋許從院有召、○中略申時參鳥羽殿、而院御物忌也、

○十九日以後ノ院御物忌、便宜合致ス、

六日、辰、戊高陽院觸穢、尋デ、穢氣、院御所ニ及ブニ依リテ、法皇、賀茂社御幸ヲ延引シ給ヒ、大炊殿ヨリ鳥羽殿ニ御幸アリ、

〔殿曆〕三月六日、戊辰、天晴、今日辰剋許五躰不具穢、鴉小子足を置北面、頃之同鳥又食之飛去了、召明法博士信貞問之、申云、可有穢者、仍立簡、院御物詣近々、仍慎之、○中略巳剋許別當門外に來云、○中略圓成寺塔燒失ノコトニ、別當則還、參院、予物忌上有穢氣、仍不相會、

七日、己巳、天陰、雨下、無別事、穢氣及仙院歟、

八日、庚午、天晴、早旦雨下、穢氣及仙院、仍明日院御賀茂詣延引、其由自院被仰、院有御幸鳥羽殿、

〔中右記〕三月六日、從殿下給御消息云、今日辰剋五體不具穢出來、仍來九日院御賀茂詣并來十一日鳥羽新御塔供養不可參仕、尤遺恨者、件事境節雖似無心、又何爲哉、

五體不具
藤原忠實
觸穢ノコ
博士明法
信貞
問フ
穢氣院御
所ニ及ブ

穢氣遍滿
ノ疑

院中丁穢

七日、天陰、雨下、從殿下給御消息云、昨日隆慶阿闍梨參賀陽院、乍存穢由還昇民部卿家了、件隆慶者故隆綱宰相中將之子也、仍與民部卿近日同宿也其間別當能俊卿來民部卿許之後、夜前參院、仍院中有穢議、九日御賀茂詣、十一日御塔供養延引哉否事被沙汰、是支度之外事、誠不便者、大略隆慶闍梨之所爲無心第一事歟、又民部卿乍聞穢由、不被風聞如何、如此間甚以狼藉歟、他人全不可沙汰事也、件旨申了、

八日、天陰、雨下、早旦從殿下給消息、穢氣不及院中之由議定已了、○中略

今日午時許院還御鳥羽殿云々、

〔永昌記〕三月六日、戊辰、今日殿下穢氣出來、云昨落小兒片足、頃之又昨去、明法

博士信貞、依暫置可爲穢由申者、一物昨落三所、遂申事由之時、眞所成觸也、九日、辛未、院御賀茂詣延引、殿下穢氣到來及了、猶可有憚者、

〔長秋記〕三月八日、去六日攝政高陽院有五體不具穢、件穢氣觸來院中丁穢之由明法所申也、雖然可有憚之由有議、明日賀茂御幸延引云々、仍渡御鳥羽、供奉御幸、

○玉葉、安元元年七月十三日ノ條、異事ナキヲ以テ略ス、法皇、鳥羽殿ヨリ大炊殿ニ還幸ノコト、本

月三日及ビ四月十六日ノ條ニ、鳥羽新造御塔供養ノコト、本月十一日ノ條ニ、賀茂

天永二年三月六日

二四七

天永二年三月十日 十一日

二四八

社ニ御幸ノコト、四月二十八日ノ條ニ、六條院ニ穢氣遍滿ノコト、本月十二日ノ條ニ見ユ、

是ヨリ先、攝政藤原忠實、權中納言藤原宗忠ヲシテ、近代年中行事ヲ撰バシム、是日、宗忠、之ヲ忠實ニ進ム、

公事ヲ書出ス

〔中右記〕 三月八日、天陰、雨下、○中近代年中行事書出進上殿下了、○藤原忠實是依有其仰也、

十日、壬法勝寺御念佛、

上卿藤原忠實

〔中右記〕 三月十日、天陰、雨下、○中法勝寺御念佛始、上卿新中納言忠教卿云々、

十一日、癸兵部手結、

〔中右記〕 三月十一日、癸酉、○中今夕兵部手結之上卿可勤仕由有指仰、所勞○年末雜載疾病生死ノ條參

看、之後、未出仕由答了、新宰相中將實隆參勤云々、

法皇、鳥羽新造御塔ヲ供養シ給フ、

播磨守藤原長實ノ造立

〔殿曆〕 三月十一日、癸酉、天晴、今日院於鳥羽殿有御塔供養、播磨守長實ノ造立予并中納言中將

依穢○本月六日ノ條參看、不參仕、講說并百躰佛内供養、

〔中右記〕 三月六日、○中從殿下給御消息云、今日辰剋五體不具穢出來、仍○中來十一日

導師法皇臨御

鳥羽新御塔供養不可參仕、尤遺恨者、

十一日、癸酉、今日鳥羽新造立御塔供養云々、導師法印寬助、讚衆十六人、先從御所有御幸、○藤原忠實右大將以下公卿濟々供奉、束帶、事了公卿取布施之由所傳聞也、

入夜密々參殿下、○中見參之次被仰云、○中凡候六條院侍等依勤雜役人、今日參鳥羽了、

〔永昌記〕 三月十一日、癸酉、天晴、○中今日院被供養御堂、寬助法印御導師也、

〔長秋記〕 三月十一日、鳥羽多寶塔供養、導師寬助法印、讚衆廿人、臨時祭○本月十二日使、舞人、陪從等不進塔下、有度者、御誦經使、事了賜布施、右大將以下取之、事了院

多寶塔 度者 布施

還御、

〔江都督納言願文集〕 一 帝皇 鳥羽多寶塔御願文

御願文

蓋聞、輪王頂上○之珠、隨露布而賜將帥、長者門外之駕、出朽宅而與牛車、佛法之理、不其貴乎、伏以、隔周文漢文之仁、昔則圓紫、歸十號十力之教、今列方袍、專天下政及卅載、寬猛相濟、馳塵外轡近六旬、機務猶纏、爰年當辛卯、○運力軍愼厄會、天變地震、頻奏災祥、長星奇雲、共示妖異、底晚暮齡、有日夕恐、五福之中、壽居其先、萬善之際、塔爲第一、是以鳳城之南、鳥懸之内、擇勝刑地、立多寶塔、奉安置三尺金色釋迦多寶二佛、奉籠表刹之柱、金泥法華經一部、同寶篋印陀羅尼一卷、般若心經一卷、殊書寫色紙經十

造塔ノ功德 金色釋迦多寶二佛ヲ安置ス

天永二年三月十一日

二四九

十六口ノ僧侶ヲ屈請シテ秘密ノ壇場ヲ設ク善根ヲ以テ聖上ニ資ス

天永二年三月十二日

二五〇

六部、排瓊戸於虚空、懸煙色水色之幡、叩鐵扉於南天、挑一丈二丈之燈、二年之春、三月之候、群鶯亂轉之朝、百花旁開之時、嘸二八之僧侶、說秘密之壇場、金紫之森羅、賢聖之圍遶、以驚天上天下之尊、以動界內界外之聞、以此善根、先資聖上、均重花仁、而受釐宣室、享萬年廢、而娛袖帝代、復以此功德、祈朕身躰、留長生不老之日月、保黃牙白石之壽算、拂衰患於百由旬之外、比星霜於十恒沙之數、后室相府、九卿百官、普天之民、率土之臣、影福累世、稷稼有秋、乃至法界平等利益、敬白、

天永二年月日

○百練抄、東寺王代記、濫觴抄、異事ナキヲ以テ略ス、法皇、鳥羽殿ニ御幸ノコト、本月六日ノ條ニ見ユ、

十二日、戊、甲法皇、攝政藤原忠實ヲシテ、六條院ノ穢氣ヲ法家二問ハシメ給フ、尋デ、同院ノ穢氣遍滿ニ依リテ、石清水臨時祭及ビ忠實ノ春日社詣ヲ延引セシム、

〔殿曆〕二月十九日、壬子、天晴、○中余申剋許參内、於宿所有臨時祭使等定、頭辨執筆、

今日余侍宿、

三月六日、戊辰、天晴、○中春日詣雜事奏院、兵部少輔知信爲使、

春日詣雜事

臨時祭定

六條院觸穢

忠實觸穢ノコトヲ法家ニ問フ

忠實春日詣神寶始

六條院觸穢御芳門院御月忌例講

六條院觸穢ノ發端

十一日、癸酉、天晴、○中戊剋許自民部卿許示送云、六條有穢、能可慎者、而彼院女房下女昇高陽院、親女房許也、仍余許已丙丁間也、其由奏院、
十二日、甲戌、天晴、不出行、今朝召法家問穢、丙丁由各申、仍其由奏院、使雅兼、五位、藏人、
十三日、乙亥、天晴、陰、不出行、公達兩、三人來、今朝五位藏人雅兼來、院仰云、可有穢、仍臨時祭、予春日詣延引、

〔中右記〕二月十九日、壬子、天晴、○中今日有臨時祭定云々、

廿二日、○中從殿下被仰云、去年春日詣延引、而來月廿八日可遂也、重可有定文歟、將又可用本定文歟、可量申者、予申云、去年被定了神寶皆被始、重不可有其定歟、但日時許重被勘改、何難之有哉、

三月六日、從殿下給御消息云、○中略、高陽院觸穢ノコトニカ、ル、御春日詣沙汰、過穢氣可被進止之由返事了、十一日、癸酉、○中入夜密々參殿下、是所勞、○年末雜載、疾、病生死ノ條參看、之後、依日次宜也、見參之次被仰云、去五日六條院堂中卅日穢引來也、不知其由、七日之月忌例講人々參了、加之件六

條院女房從者、參著此賀陽院女房曹局中了、召問明法博士二人之處、信貞申丙穢之由、資清申丁穢由、然者不論左右不可從神事歟、仍廿日臨時祭、廿九日春日詣可延引歟、誠以不便也、被尋件穢之處、六條院三昧僧得死人車立寄僧房後、參入彼御堂也、僧房ハ在御堂之外也、

天永二年三月十二日

二五一

凡候六條院侍等依勤雜役人、今日參鳥羽○本月十一日ノ條參看、了、仍件穢遍滿天下之由、又所風聞也者、

十二日、今朝從殿下被仰云、六條院穢事、今朝於院有沙汰者、諸神事其後可一定者、但賀陽院中一定穢引來也、春日詣度々延引、不便之由所被仰也、

廿日、天陰、雨下、今日臨時祭延引、依世間穢氣遍滿也、

〔永昌記〕

轉穢事

三月十二日、甲戌、民部卿被申云、六條院僧房住僧立死人車、件僧參院內、

去五日事者、同七日御遠忌、衆人參會、定披露歟者、件院女房從參殿下者、明法博士信

貞申云、死穢車立置僧房爲甲所、院乙、院人參殿々丙者、資清申云、車甲、僧乙、院丙、

殿丁云々、

春日詣延引

十三日、乙亥、天晴、自殿被仰云、

雅職

依穢御春日詣延引、早可下知者、又申云、南都

可遣長者宣歟、馬場御所何様可候哉、重仰云、御所猶可守護、早可遣宣旨也、

〔長秋記〕

三月八日、○中略入夜參內、主上於北面調樂、參入間召陪從等令散樂、

十一日、鳥羽多寶塔供養、○中略臨時祭使、舞人、陪從等不進塔下、

〔玉葉〕

承安五年七月十三日、壬辰、雨降、丁穢忌神事否事、猶不審、仍問例於外記、

○中略

明法博士
信貞ノ説
資清ノ説

忠實延引
ノ由春日
社ニ長者
宜ヲ下サ
シム
樂臨時祭調

内院關白
家皆了穢

五體不具
穢

蛇死ス

外記所勘例、具在勘文、取要
注之、○中略

天永二年三月十二日、有穢沙汰、内、院、關白家皆可爲了穢之由議定、廿日、八幡臨時祭○中略延引、

○高陽院、觸穢ノコト、本月六日ノ條ニ、世間穢ニ依リテ、山科祭ヲ延引スルコト、四月一日ノ條ニ、平野、松尾祭等ヲ延引スルコト、同月四日ノ條ニ、石清水臨時祭ヲ進行スルコト、同月二十一日ノ條ニ、忠實、春日社詣ニ依リテ、三社ニ奉幣スルコト、元年閏七月五日ノ條ニ、再ビ春日社詣ヲ延引スルコト、本年五月十日ノ條ニ見ユ、

十三日、乙亥齋院觸穢、尋デ、之ヲ軒廊ニトス、

〔中右記〕

三月十三日、齋院長官定仲來云、齋院中從今朝有五體不具穢、早可申殿下○藤原忠實

并院之由答了、

十五日、朝間天陰、雨下、巳時以後天晴、○中略今日左兵衛督申行軒廊御卜、是齋院蛇出來死事、了五體不具穢出來事、是賭弓以前所被行也、

〔永昌記〕

三月十五日、丁丑、今日軒廊御卜、

十四日、丙子射禮ヲ追行ス、

上卿

天永二年三月十五日

二五四

〔中右記〕

射禮

三月十四日、○中

今夕有射禮云々、上卿治部卿、

(藤原實隆)

新宰相中將、少納言實兼、

右少將宗能參勤、此外無參人云々、誠以不便歟、

〔永昌記〕

射禮事

三月十四日、丙子、射禮、

○御忌月ニ依リテ、射禮ヲ延引スルコト、正月十七日ノ條ニ見ユ、

十五日、丁、賭射、

〔殿曆〕

三月十四日、丙子、天晴、○中

(藤原忠通)中納言參鳥羽殿、

申剋許歸來、中納言依物忌、

明日不可參仕由有御定、頭辨成剋許來、明日賭弓事等示、(藤原忠實)余諸事示了、

十五日、丁丑、天晴、今日雖物忌、辰剋依賭弓參、直衣、於宿所著束帶、申剋許事始、上達

部遲參、其儀如去年、○元年三月十日ノ條參看、但今夜右方勝、雖然主上令屈給、仍不延度數三度也、

右勝時多五度也、事了還御、○中今日予始著柳下襲、

〔中右記〕

賭射

三月十五日、朝間天陰、雨下、巳時以後天晴、今日有賭射云々、(忠實)殿下雖御

物忌所參內給也、在裏、

〔永昌記〕

三月十五日、丁丑、○中

射儀、

〔長秋記〕

三月十一日、○中

參攝政殿、申御隨身番長武正、近衛敦信、武光等賭弓射手

事、各可勤仕之由被仰含云々、

武正射手
ヲ辭ス

御裝束違
例

將監代

安倍泰長
ヲシテ日
時ヲ勘ヘ
シム

賭弓事
十五日、賭弓也、府生忠清借鞆弓懸、乃借與了、又將曹忠方可勤將監代、而裝束不具云

々、仍下給半臂了、未剋參內、參殿御宿所、肥後權守盛季仰云、番長武正猶辭射手、

仍被尋年預兼久之處、府生公茂可勤仕之由所申也、存其旨可令沙汰者、向殿上方、裝束

使辨顯隆遲參間、御裝束頗有違例、又不懸料簡、藏人辨雅兼召行事藏人說雅仰之、而他

藏人不可懸之由、有確執氣、仍雅兼以消息問匡房卿、返事云、○○○○築期日至破日可

被懸者、而近來弓○懸之、尤可懸也者、仍令懸之、雅兼又云、三月賭弓不可立御

火爐歟如何、藏人等多執可立之由、(藤原)下官不知先例、但去年居之由所見給也、仍猶居之、府

生兼久來云、尻塞秦公遠申云、弟公廉射手下藹也、座席可無便、欲勤仕將監代者、而身人

部久時又申可勤仕將監代由、爲之如何、下官仰云、先例以射手上藹定之、不可有新議歟、

但各有所申者、以番長下毛野助忠令勤仕將監代、以久時可爲尻塞者、仰此旨之處、久時猶

非將監代者、不可勤仕之由申之、仍以藏人盛經令申殿下之處、早以久時可令勤仕尻塞之

由有仰、仍下知此旨、其後良久雅兼傳殿仰云、久時猶可勤儲之由所訴申也、不然者可無面

目事也、下官申云、自本右近射手上手爲儲尻塞、就中右尻塞尤撰上手、仍所仰久時也、

訴訟申者早可立儲也者、以此旨下知、度々仰聞人不請、未四剋以內豎召右大將、此間

所方日時勘文不連署事、頭辨仰泰長令勘日時、於藏人所勘文、件勘文有連署、實行仰云、所方日時勘文不連署、早可

實行、(實隆)天永二年三月十五日

二五五

勘文不引裏紙下之、職事失事

書改者、仍書直進之、即奏聞下右大將、々々々不著陣、於露臺見之、直下頭辨、件書不引

裏紙、職事失也、又今日事外記奉行、而被下日時於辨如何、可尋、此間左近引射手、無次

將、奇怪事也、右近下官引之、中將師重云、今日左少將不參、仍可勤仕の付、而中將の

付之例不見、爲之如何、答云、早申此旨、隨御定可被勤仕之、仍以藏人令申、仰云、召

遣藏人少將忠宗、隨彼左右可被仰者、次攝政於殿上覽四府矢奏、左近師重、右近宗輔、左右出

御、宗輔召上達部、留南殿東妻、尋賦有無云々、置之也、先例必不待之、只進著常事也、

喚後留立南階西南、上達部參上、揖過之、件事有習事也、今日不可然也、□□主上入御□□故入御也、次大

將起座、於□□下官在射手列座、大將乍立被問下官云、自樹可立西歟、將東歟、下官答

云、橘樹東北可立給、大將從之、東方隨、身前居、次左右次將起座立橘樹西、去丈、左府生友光、右將

曹忠方、將監、取奏相從、件役將監可勤仕、而依申故障、右近衛將曹、左右兵衛射手未著座、頻被催後

參著、次各列立大將前、於南階前置弓取奏、直向北立竝、左近、右近、左兵衛、右兵衛立竝、大將先覽左近奏、

插本杖、之、次覽右近如前、先例覽左兵衛、次、次覽左兵衛奏、有二通、射手一奏懸紙卷加一卷

之懸紙、被指加左近杖、右近如此、先例加指一奏之時、近衛兵衛共引裏紙、今度皆不被

引、唯兵衛奏懸紙一通引之、可尋、大將取二奏取加弓、入自幔門、漸步入內、弓場座南

妻、去簾前五六尺許跪置弓、膝行進之、內侍自簾下杖取之、大將退取弓右廻、經弓

藤原忠實
四府矢奏
ヲ覽ル
出御

入御

弓取奏

藤原家政
射遺所ヨ
リ參入
宗輔的ヲ
懸ケシム

源雅俊上
卿トナル
右兵衛射
手不足

僧名定
藤原忠實
祈

場東、著本座拔矢、良久內侍動御簾、大將取弓、經弓場殿參上、著沓、無出、御時著沓也、置弓取奏、退取
弓、右廻著本座、被問的付名於右座次將、次召之、其詞、師重、各微唯、入自幔門向大將居、朝臣、伊通、
左西、右東、各正、此間宰相中將家政自射遺所參入、渡出居座前著座、次宗輔朝臣依上卿氣
向北、先例向乾方、色仰云、的懸ヨ、ヨ字可尋、有宗朝、木工懸的、次員指著座、左不具矢、自壺胡、次左
頭中將通季朝臣申射手障、上卿以頭辨實行朝臣奏之、不著、右宗能申也、如初、次射手參
進射之、左將監代中臣兼近得矢當的、退出後不纏頭違失也、一所御隨身當的、尤可響應
事也、一度了兵衛矢取渡、次左右兵衛佐忠長、顯賴、申射手障、先之大將退出、相次二位大納言
經實退出、源大納言爲上卿、右兵衛射手不足、同人兩度參進射之、不依公事、奇怪事
也、左右近二度、了左右將監代參進、上卿仰云、有勅、被停兵衛射手後可參進也、何遮
可參進哉、仍長押者乍下進何事

○後照念院殿裝束抄、異事ナキヲ以テ略ス、

十六日、戌、月食、仍リテ、仁王經ヲ清凉殿ニ轉讀シテ、之ヲ祈禳セシム、

〔殿曆〕三月十五日、丁丑、天晴、○中略、賭射、還御後、於宿所明日御讀經定僧名、

十六日、戊寅、天晴、今日依月蝕不出行、僧一兩愛染王念珠、最勝王經、講、仁王講修

正現セズ

上卿

之、公家仁王經御讀經、僧廿今夜有雨氣不正見、

〔中右記〕月蝕三月十六日、今夜可有月蝕、仍於清涼殿有廿口御讀經、仁王上卿右衛門督、

出居少將宗能朝臣、天陰不正現也、後聞書也、

〔本朝統曆〕八 三大、朔癸亥、十六望、亥六、月蝕八分強、亥二、子三、

十八日、庚辰御物忌、

〔殿曆〕三月十八日、庚辰、天晴、今日不出行、依御物忌、戊剋許參内、予今夜侍宿、不參御前、○中略

十九日、辛巳、天晴、今日及申剋許退出、

皇后御惱、尋デ、阿波守藤原忠長ノ三條第二行啓ス、

〔殿曆〕三月十八日、庚辰、天晴、○中略、戊剋許參内、皇后宮不例御也、

廿一日、癸未、今朝皇后宮有行啓、參入上達部三人也、藤原家忠、源顯通大夫二人、其外源大納言雅俊、

阿波守忠長宅、依予參仕行啓、又歸參内、侍宿、

廿二日、甲申、天晴、今日自内退出、次參皇后宮暫候、御心地同昨日、申剋許退出、

廿七日、己丑、天晴、○中略北政所渡御皇后宮、

四月一日、癸巳、天晴、申剋許著直衣參皇后宮、

〔中右記〕三月廿一日、○中略今夜皇后宮從内裏遷御忠長三條云々、依不例御也、

源麗子祇候

方角吉ニ依ル

源雅兼院
宣ニ依リ
藤原宗忠
ノ行啓ニ
參仕セザ
ル故ヲ問

御惱宜シ
法皇源師
時ヲシテ
御惱ヲシ
メ給訪テ

參入ノ公
卿陽師ヲ
陰陽師ヲ
シテ敷地
ヲ占セシム

廿三日、源雅兼藏人辨送書狀云、一夜皇后宮行啓ニ不參仕、慥可申子細、是院宣者、予陳申云、件夜全不承其催、又從本宮無出車催、如此之間不承及也、此所勞○年末雜載、疾、病生死ノ條參看、之後未參内、仍外記大略不催歟、後聞、一夜行啓、本宮大夫二人之外、源大納言只一人參仕者、

〔長秋記〕四月八日、○中略參鳥羽殿、○中略今日歸洛之次、參皇后宮、御惱安否尋申、明日可申御返事、○中略參皇后宮、付女房申入、御惱宜御云々、

九日、○中略已剋參鳥羽殿、○中略仰云、御馬若返給者、其次參皇后宮、可尋申御惱事、御馬不返給者不可申、是明朝事也者、○中略參内、

十日、參内、奉勅、相具二栗毛參院、先參皇后宮、尋申御惱事、同様御云々、

○皇后、忠長ノ三條第ヨリ内裏ニ還啓ノコト、五月二十五日ノ條ニ見ユ、

二十日、壬午、法皇、攝政藤原忠實等ヲシテ、鳥羽殿ニ新内裏敷地ノコトヲ議セシメ給フ、

〔殿曆〕三月廿日、壬午、天陰、雨下、酉剋許雨止、早參御前、御修法時程也、數剋候

御前、天太内御所之事有御定、仍民部卿、新藤中納言宗忠、修理大夫爲房等、依召酉剋許

參入、有御所沙汰、陰陽師泰長朝臣、家榮有此座、外記町、又高陽院西町二町被御占、而占云、高陽院西

町二町吉也、仍其定仰了、其後人々退出、予今夜侍宿、

〔中右記〕三月廿日、天陰、雨下、今朝堅固物忌也、仍籠居、而未剋許從院有召、

法皇源俊
明及比藤
原宗忠ヲ
召シ給フ

〔中右記〕三月廿日、天陰、雨下、今朝堅固物忌也、仍籠居、而未剋許從院有召、

從北小門參入、攝政殿從本令候給、先參御直廬也、又新宰相爲房、依召參也、陰陽助家

榮、雅樂頭泰長同祇候、

皇居敷地
候補地

以左中辨被仰下云、新内裏可被仰事、先日大略議定、而未有一

定所、今日相議可申者、但一條院并外記町、高陽院西町三ヶ所間如何、先被向陰陽師等

之處、家榮、泰長共申云、至一條院者、從只今皇居清涼殿、已當王相并金神方也、人々

相議云、然者殘二個所之間可在勅定者、仰云、件二個所之間、慥不知食吉否、仍可有御

ト也、一所、外記町、二所、實陽院、則指二個所、令泰長、家榮占申、兩人占申云、一所不快、

二所宜者、占形被奏了、仰云、二所大略可爲皇居歟、然而依爲大事、能々追勘本書等

文、慥可吉所之由見定テ可申也、付來問占文、忽難一定者、如此沙汰之間、及深更歸

洛、件皇居指圖、民部卿被奏了、又諸國一同可候歟、將大國受領一人爲成功可候歟、如

此事未有一定、又可被壞渡大炊殿云々、

○大炊殿ヨリ、内裏ニ遷幸ノコト、二月二十三日ノ條ニ、内裏ヨリ、源雅實ノ土御

門第ニ遷幸ノコト、四月二十七日ノ條ニ見ユ、

皇居指圖
ヲ奏ス

二十一日、癸、仁明天皇國忌、

〔中右記〕三月廿一日、國忌、左大辨著行云々、

二十四日、丙、尊勝寺灌頂、

〔殿曆〕三月廿四日、丙戌、天晴、尊勝寺有灌頂、予不參仕、中納言又同、

〔中右記〕三月十四日、今夕民部卿參仗座、被定申仁王會、并灌頂僧名

云々、

廿四日、天晴、未剋參尊勝寺灌頂、行事右中辨爲隆之外人々未參、頃而民部卿、源大納

言、右衛門督、別當、左大辨、修理權大夫、新宰相中將參入、先雖可著金堂西廊座、人

々直被著灌頂堂座、抑先々公卿座在西、而今度在東、又導師高座東面、其後敷讚衆座、

成奇相尋之處、大阿闍梨行勝僧都依被申行也、去年此人雖行之、讚衆在東、是依胎藏、

金剛界相替其方者、今度金剛界也、仍有此事者、秘密之習、他人不可定是非也、堂前庭

敷筵道、諸僧參上、威儀師前行、衆僧前諸大夫讚衆廿人前行、

此中僧綱一人、少僧都增智、小灌頂阿闍梨信慶、大阿闍梨權少僧都行勝、不列立、

入堂中登高座、見其次第、異先々儀、弟子僧等數度寄居供養法壇下、傳供佛器之躰、凡

異前々儀也、右近少將宗輔朝臣帶劍、進高座邊、仰給度者之由、次右中將師時朝臣帶劍、

次第先々
ノ儀ト異
ル者ヲ給

公卿導師
等ノ座例
年ト異ル
胎藏金剛
界ニ依ル

參會ノ公
卿

僧名定

天永二年三月二十四日

二六二

被物

尊勝寺灌頂齋會
准御齋會

爲公家御誦經使、兼依不儲其座、有議著公卿末、民部卿被問行勝僧都云、年來無御誦、今度始有此事、何時許可被申上御誦由哉、僧都答、入夜灌頂、入壇之間可被修也者、仍使起座可付寺家末者、其所料布三百端、庭中立帳、積其中也、情思此事、猶御誦經、三摩耶戒之次、導師可啓白歟、何ノ故カ、入夜人々灌頂之次、可申上御誦經哉、大略兼不案問、俄依有此事、仍云遁歟、但又眞言作法不知子細也、事了導師下從高座、著平座之後、別當新中納言能俊卿取被物給之、右中辨取布施、新宰相中將實隆取少僧都增智布施、其外凡僧布施、殿上人五六人并諸大夫取之、諸僧列立、歸入之儀如初、酉時許事了人々分散、今日源大納言雅、（藤原家也）被持笏、予密告之、准御齋會之時、雖寺中所持笏、而此灌頂不准御齋會、仍不具劔笏也、其後大納言被置笏、如此事猶可被案歟、

〔永昌記〕

尊勝寺灌頂事

三月廿四日、丙戌、天晴、今日尊勝寺灌頂會也、午刻著東帶參上、寺家奉仕

堂莊嚴、其儀如恒、但當年金剛界、小阿闍梨信慶、大阿闍梨行勝僧都勤之、高座東面立、其東立禮盤等、同東一二間北折敷上達部座、西一二三間敷讚衆座、天台例金剛界東面、胎藏西面、改僧座、賢運法印爲大阿闍梨之日、東敷公卿座、依上宣如元西面敷之、今年行勝僧都執之、上卿隨不被改、依此儀、上達部饗座東廊可儲、異幔內設御誦經幄、初度臨幸之時行之、其後無御誦經、今年例可尋、未剋諸僧集會、增智僧都之外無他僧綱、各以故障、民部卿、源大納言、右衛門督、新藤中納言、別當、左大辨、修理權大夫、新宰相中將等參向、殿上人兩三人同以參仕、宗

諸僧集會

御誦經使
參入

輔中將仰度者、其道通上達部座末東戶觸上卿、就導師北方仰之、南方無便者、師時中將爲御誦經使事、（藤原家也）予先觸申上卿、雖無先例、被遣勅使、早可召者、於御誦經者、夜灌頂之次可行者、勅使著上達部座末、不敷、逐電退下、事了給導師被物、右近督、（僧力）布施、新宰相中將取殿上人、事了僧侶退出、予留候、入夜有灌頂事、又以如恒、

〔僧綱補任〕

坤 德川昭武氏本

天永二年辛卯尊勝寺灌頂

大阿、（開裂、下同シ）行勝僧都、小、（前脱力）信慶、

○興福寺本僧綱補任、異事ナシ、

二十五日、丁太皇太后、宇治ヨリ還啓ス、

〔殿曆〕

三月廿五日、丁亥、天陰、雨下、○中、（太皇太后藤原實子）四條宮自宇治還御、

廿六日、戊子、天晴、○中、今夜四條宮渡御枇杷殿、

○太皇太后、宇治ニ行啓ノコト、詳ナラズ、

二十六日、戊子、京都大地震、

〔永昌記〕 三月廿六日、戊子、今朝歸洛、此夜大地震、

〔中右記〕 三月廿七日、己丑、天晴、○中、今夜々半地震、

廿八日、申時小地震、

二十七日、己丑、春季仁王會、

天永二年三月二十五日 二十六日 二十七日

二六三

枇杷殿ニ渡御

〔殿曆〕三月廿六日、戊子、天晴、○中戌剋許明日仁王會咒願持來、

廿七日、己丑、天晴、今日仁王會也、予依物忌不參也、（藤原忠實）又同之、

〔中右記〕三月十四日、○中今夕民部卿參仗座、被定申仁王會、

定
參會ノ公
卿

仁王會
廿七日、己丑、天晴、春季仁王會也、仍未剋許參內、暫在仗座、頃而民部卿、右大將、源

大納言、右衛門督、左兵衛督、新中納言、修理權大夫參進、以藏人辨雅兼被尋僧參否、

未參者、又上官等在八省未渡參、如此之間懈怠無極、及申尅八省事了、檢校治部卿、新

宰相中將、實、左大辨入從西陣并月華門、經南殿階下、軒廊東二間、宜陽殿壇上、被參加

仗座、民部卿召外記、乍與座被向也、問堂童子出居、圖書寮參否、大略申參了由、又召藏人辨被

鐘ヲ打ッ

問僧參否、申皆參之由、則令奏事由後、仰藏人辨令打鐘、又民部卿示新中納言忠教、左

大辨重資可候南殿者、最末參議爲房也、而被仰左大辨如何、當座下藤可候南殿也、民部卿以下起座、經宜陽殿壇上、軒廊東二

間、南殿階下參殿上、出居藏人頭左中將通季、右中將宗輔、少將伊通著座、又南殿講

師、出居左中將師重、右中將師時著座、民部卿以下著御前座、權大僧都永緣以下七口參

上、朝座始、堂童子五位四人、左右、分花宮、永緣爲講師、事了僧侶退下、公卿出殿上、

朝座
夕座

出居下、又令打鐘事始、夕座始、民部卿被退出、事了有行香、左大將以下藏人說雅取火香、

頭辨問云、今日可給度者歟、予不慥覺、修理權大夫云、仁王會ニハ不給、季御讀經所給

度者ヲ給
ハズ

也、問威儀師靜算、申云、不給者、仍今日不給也、後朝引見日記之處、誠先々不給也、

次參中宮、堀川院、講源大納言以下被立行香之後、又參皇后宮、近日出御三條也、○本月十九右大將以下立

行香、又參六條、院雖御鳥羽、○本月於此處被行也、立行香、事了入夜歸家、今日檢校治部卿、新幸相中將、行事頭辨實行、

〔永昌記〕三月十四日、丙子、○中仁王會定、

仁王會大祓事
廿七日、己丑、今日被行春季仁王會并大祓、

大祓

○上卿故實、異事ナキヲ以テ略ス、

是月、法皇、皇后宮女房ヲ勘當シ給フ、

皇后宮女房局法師三人入臥事

〔長秋記〕三月八日、○中皇后宮女房局法師三人入臥云々、仍侍等圍之、女房無藏請之、

仍免遣了、上皇聞食、伴女房有勘當、被追却云々、八幡別當賴清娘也、

京中ニ盜賊橫行ス、

〔中右記〕三月廿四日、天晴、○中或人談云、近日京中所々有強盜亂入之聞、又多有殺

人之者、大略京都亂合歟、

女房局ニ
法師入臥
ス

四月小盡 癸巳朔

一日、癸巳觸穢ニ依リテ、山科祭ヲ延引ス、尋デ、之ヲ追行ス、

〔殿曆〕 四月一日、癸巳、天晴、○中山科祭依世間穢氣延引、次巳日可行之由仰下了、十三日、乙巳、山科祭今日被行、

穢本月四日ニ及ブ

〔中右記〕 四月朔日、癸巳、天晴、○中今日山科祭延引、從去月五日、彼六條御堂穢氣遍滿之故也、及今月四日也、可用次巳日者、

十三日、乙巳、今日山科祭云々、去一日依穢延引也、十六日、戊申、天晴、○中今日平野祭、○中件祭等次申日可行之由、前日左大臣殿所被仰下也、山科祭同前

○穢氣遍滿ニ依リ、石清水臨時祭ヲ延引スルコト、三月十二日ノ條ニ、平野、松尾、祭等ヲ延引スルコト、本月四日ノ條ニ見ユ、

平座、

〔殿曆〕 四月一日、癸巳、天晴、○中略、藤原忠實、皇后ノ御方ニ祇候ノ頃之參内、今夜待宿、

平座、上卿新中納言忠教、見參宣命持來、宿所予見之、

〔中右記〕 四月朔日、癸巳、天晴、昨今私物忌也、仍不出仕、後脱カ下同シ聞、今日可有旬之由、先日

上卿藤原忠教 旬ヲ停ム

皇后御惱ニ依リ音ルニ依ル

雖有其議、又被止了、近日皇后宮不例御、出御忠長三條宅也、○三月十八日ノ條參看、仍不可有音樂、

強被止樂、不可有旬故、凡被止旬云々、○中

平座、聞、新中納言、忠教、修理權大夫、藤原實隆新宰相中將參入、辨二人、少納言三人、及五

獻、從下臈勸盃云々

○兵範記、嘉應元年十月一日ノ條、異事ナキヲ以テ略ス、

四日、丙申觸穢ニ依リテ、平野、松尾、廣瀨、龍田祭等ヲ延引ス、尋デ、之ヲ追行ス、

〔殿曆〕 四月四日、丙申、依穢氣平野祭延引、穢去月五日至今日、仍凡今日祭等皆悉延引、

十六日、戊申、今日平野祭、松尾、杜本、當麻祭等行之、平野祭宣命之中、式日延引之由有辭別、上卿右衛門督顯通顯通勘廣瀨龍田祭日時、

廿四日、丙辰、今日召泰長、泰長家榮令占春日社怪異、○中今日廣瀨、龍田祭也、今朝思忘

召僧也、仍以家榮聊祓、

七月三日、甲子、天晴、○中明日依神事、服女房令退出、有障人有宿所、

四日、乙丑、天晴、○中今日廣瀨、龍田祭也、而依穢氣被停止、以後日可被行者、

天永二年四月四日

廣瀨龍田祭ヲ再ビ延引ス

杜本祭當麻祭平野祭宣命辭別

天永二年四月四日

二六八

十五日、丙子、天晴、○中廣瀨、龍田祭延引、仍今日被勘日時、上卿治部卿、(源本綱)

十六日、丁丑、天晴、○中廣瀨、龍田祭、依穢式日延引、今日被行之、
〔中右記〕四月四日、午後天陰、雨下、世間穢及今日也、仍平野、松尾、杜本、當麻、廣瀨、龍田祭追可擇吉日者、

十六日、戊申、天晴、○中今日平野祭、松尾祭、杜本祭、當麻祭被行云々、是上申日依世間穢延引也、件祭等次申日可行之由、前日左大臣殿所被仰下也、○中右衛門督顯通卿參仗座、被奏平野祭宣命之次、被勘廣瀨、龍田祭日時了、來廿四日也、去四日延引也、
七月四日、廣瀨、龍田祭、依世間穢延引、件祭及來十日也、
十五日、○中今夕參仗座、被勘廣瀨、龍田祭日時云々、
十六日、辛丑、廣瀨、龍田祭云々、依穢式日延引也、

〔永昌記〕七月四日、乙丑、廣瀨、龍田祭依穢延引、廣瀨龍田祭事依穢延引

十六日、丁丑、今日廣瀨、龍田祭、式日依穢延引云々、昨日於仗座被勘日時、(基綱)禮部納言奉行也、藏人請奏、後日覽之有沙汰云々、藏人實兼爲忠被召籠事

〔長秋記〕七月十九日、○中藏人實兼、爲忠依殿仰召籠云々、是廣瀨、龍田祭請奏內覽外、以一通下上卿事云々、倩案之、書二通、一通下上卿、是常事也、

〔玉葉〕承安五年七月十三日、壬辰、雨降、丁穢忌神事否事、猶不審、仍問例於外記、○中

外記所勘例、具在勘文、取要
注之、○中略

天永二年三月十二日、有穢沙汰、内、院、關白家皆可爲丁穢之由議定、○中四月四日、平野、松尾、廣瀨、龍田祭等延引、

○觸穢ニ依リ、山科祭ヲ延引スルコト、本月一日ノ條ニ見ユ、

攝政藤原忠實病ム、尋テ、忠實、春日、賀茂、日吉三社ニ奉幣ス、
〔殿曆〕四月四日、丙申、○中依物忌不出行、

五日、丁酉、今日予有不例氣、(藤原忠實)

七日、己亥、天晴、予心地、大略發心地歎、僧來、以僧十口始行法華經讀經、
八日、庚子、今日無別事、行一日大般若讀經、僧卅口、

九日、辛丑、天晴、雖祭間、依先例召僧一人許也、○中有所思奉幣三社、春日、賀茂、日吉、有告文、令右少辨實光作之、抑賀茂告文之中ニ、依例今日以後、雖可忌灌佛事、(符々)此所惱若有餘氣者、可召僧侶之由令作載也、且是依有先例也、

十九日、辛亥、天晴、今日始五壇法、

天永二年四月四日

二六九

天永二年四月四日

二七〇

廿七日、巳未、天晴、○中略、源雅實ノ七御門、第二遷幸ノコトニカ、ル、予依所勞不參仕、

〔中右記〕 四月四日、午後天陰、雨下、○中略從今日及八日殿下堅固御物忌也、依召今夕參籠、

參籠、

五日、終日候殿下、被仰云、欲定賀茂詣雜事、仍新中納言、（藤原忠敏）右中辨為隆朝臣籠物忌

也、而從昨日寅時聊以不例、大略咳病歟、仍後日欲定如何、予申云、（藤原宗忠）以後日被定、何事

之候哉、

六日、○中略予今夕參籠殿下御物忌、

今日、殿下御祈被始大般若御讀經、戌日頗雖不宜、陰陽助家榮申云、今日已當月曜日

也、是三寶吉曜也者、仍所被始也、

七日、籠殿下御物忌、以僧十口被始行法花經御讀經、辰巳時許殿下令發御也、大略如去

年秋歟、○元年八月八日ノ條參看、每年有此事、返々不便、不可思盡、入夜退出、終日雨降、

九日、今朝御物忌又出來、今朝殿下有奉幣三社、春日、賀茂、日吉、有告文、右少辨實光作之、就

中賀茂社告文之中、依例今日以後雖可忌佛事、所惱若有餘氣者、可召僧侶之由被作載

也、是依有先例也、今日以後不召僧侶也、夜前御讀經等、被渡小寢殿方也、巳時許頗令

發御也、○中略民部卿、（藤原房房）修理權大夫參入於小寢殿方、被申此間事等、猶令發御者、早可召

咳病

大般若讀經ヲ行ヒ平癒ヲ祈ル

三社告文作者

天永二年四月五日

二七一

僧侶之由、人々所被議也、今朝大雨大風、午後天晴、

十日、○中略今夜俄參籠殿下御物忌、明日又出來之故也、今夜有議召淨信阿闍梨、令祈念之

由、殿下所被仰也、

十一日、○癸卯、中略今日終日候殿下御物忌、午時許頗令發給也、今夕宿待賀陽院、

十二日、早且從殿下退出、

十三日、○乙巳、中略巳時許參殿下、（藤原家忠）右大將以下人々多被參、午時許頗令發御也、晚頭退出、

十四日、丙午、天晴、○中略及深更參籠殿下御物忌、明日依御當日也、

十五日、從去夜雨脚頻下、猶未止也、午後天晴、殿下大略如不令發御也、晚頭退出、

十九日、天晴、○中略今夜殿下五壇御修法被始行、

廿日、吉田祭、天陰、雨下、奉幣如例、殿下御物忌也、依不審尋申之處、指事不御者、

〔類聚世要抄〕 九 四月九日 春日八講始事、春季、

（天志）同曆記云、同二年、九日、依殿下御惱有奉幣云々、使朝輔也、依御惱始行金堂御社十座講、

（大曆也）了南圓堂不空經七口、○中略為御八講并殿御祈參籠御社、宿所恒房屋、

○忠實、病ニ依リテ、賀茂社及ビ春日社詣ヲ停ムルコト、五月十日ノ條ニ見ユ、

五日、丁、梅宮祭、

天永二年四月五日

二七一

覺信忠實ノ祈ノ爲スニ參籠

天永二年四月七日 八日

二七二

〔中右記〕 四月五日、○中 今日梅宮神馬、於河原被立、

○梅宮祭ヲ行フコト、詳ナラズ、姑ク式日ニ掲グ、

七日、己、擬階奏、

〔中右記〕 四月六日、○中 今日擬階奏持參中納言中將殿、而今日御衰日也、明日凶會也、

仍今日不令加判給也、御慶○正月二十三之後、如此文書未令加判給之故也、

○擬階奏ヲ行フコト詳ナラズ、姑ク式日ニ掲グ、

八日、庚子、灌佛、

〔殿曆〕 四月八日、庚子、○中 有御灌佛、

〔中右記〕 四月八日、天陰、雨下、有御灌佛云々、然而予依爲禊祭上卿○本月十四日ノ條參看、不參

仕、又不進布施也、

〔長秋記〕 四月八日、御灌佛、獻所々布施、又女房御布施等各々調送之、依催雖參内、

依御物忌退出、參鳥羽殿、別當、右兵衛佐能賢外無人、良久藏人仰能俊卿云、今日如形

可兼行、而無人、爲之如何、能俊申云、人々參否難知、如當時者無其期候歟、重仰云、只

如形可行也、基隆朝臣候北面、著裝束可罷昇之由被仰畢者、此間右衛門尉盛道出自御所

方、仰下官云、今日無人間參入、深感思食者也、○中 略

院御灌佛間、基隆、能賢、依臨時祭使舞人不灌佛、導師覺殿阿闍梨也、

○院灌佛、便宜合敘ス、

御物忌、

〔長秋記〕 四月八日、御灌佛、○中 依催雖參内、依御物忌退出、

〔中右記〕 四月十二日、○中 巳時許參内、是依可行軒廊御卜也、○中 召外記令進管本解、

○註 官卜形、寮占形加入、書宿紙、今日、略 依内御物忌也、

十八日、天間晴、雲未散、巳剋以後天快晴、○中 予依有解陣催參内、○中 退出之間、於陽

明門内、頭辨來逢云、今日御物忌間陪膳不籠、闕了、是彼四位少將番也、依院宣只今可

召問者、不陳左右、誠以不便也、急歸之間、於路頭相逢少將、告示件旨了、及深更歸

家、

○十二日以後ノ御物忌、便宜合敘ス、

九日、辛、大風雨、豐受大神宮蕃垣御門、賀茂別雷社神館柳樹及ビ春日

社樹木倒ル、

〔殿曆〕 四月九日、辛丑、天晴、○中 早旦風大吹、

廿四日、丙辰、今日召泰長、家榮令占春日社怪異、○中 是去九日依大風、彼山内樹七十

天永二年四月九日

二七三

餘本顛倒事也、

廿七日、己未、天晴、○中略、源雅實ノ土御門第二、行幸以前、(源雅實)內大臣行軒廊御下、是去九日大風、伊勢外宮蕃垣御門顛倒事也、御下之趣頗重歟、

〔中右記〕

四月九日、○中略、今朝大雨、大風、午後天晴、(藤原實行)頭辨晚頭參殿下申云、今朝大風

之間、賀茂上御社齋院著給神館屋二字并大柳樹一本顛倒了、此事祭以前最奇怪也、仰云、早申院、且又可尋例者、

裏書云、

九日、早且卯辰剋俄大風大雨、

後聞、依件風伊勢豐受宮蕃垣御門顛倒、又賀茂上御社齋王著給神館舍二字并鳥居内大風災事、
柳樹一本顛倒、又春日御社一鳥居中林之木七十餘本顛倒、

已上裏書

〔長秋記〕

四月九日、○中略、今日已剋賀茂權禰宜成忠參内、申云、神館齋王御所并公卿座

屋爲大風顛倒者、

〔類聚世要抄〕

九 四月九日 春日八講始事、春季、

同曆記云、(天永)同二年、(四月)九日、○中略、依大風、春日山木其數顛倒、七八十本許云々、
(天曆)

春日社一鳥居内樹木七十餘本倒ル
權禰宜成忠參内言上

源師時參内

藤壺上局ヲニテ御覽

○賀茂別雷社神館柳樹ノ顛倒ヲ軒廊ニトスルコト、本月十日ノ條ニ、攝政藤原忠實、陰陽師ヲシテ、春日社樹木ノ顛倒ヲ占セシムルコト、同月二十四日ノ條ニ、豐受大神宮蕃垣御門ノ顛倒ヲ軒廊ニトスルコト、同月二十七日ノ條ニ見ユ、

法皇、御馬ヲ獻リ給フ、尋デ、法皇ニ御馬ヲ遣リ給フ、

〔長秋記〕

四月八日、○中略、又參内、駿馬出來、爲經御覽雖專飼、尙以疲極、隨仰可進由

可申者、(奉カ)示仰、○下略

九日、早且參内、奏院仰旨、仰云、且見給、隨牒可返上者、已剋參鳥羽殿、以盛道令申之、即黑駿御馬一疋令引進給、又灌佛○本月八日ノ條參看、作物一櫃令進給、仰云、御馬若返給者、

其次參皇后宮○三月十八日ノ條參看、可尋申御惱事、御馬不返給者不可申、是明朝事也者、○中略、參内、

以藏人說雅申院仰旨、於藤壺上御局、密々覽御馬、又乍庭覽作物等、勅答云、作物給預了、於馬者留此御馬、可返上二栗毛者、明日相具可參、無御馬藹、召馬寮舍人食、召仰

御厨子所了、

十日、參内、奉勅、相具二栗毛參院、○中略、依院御物忌、入自北門、招盛道令申、承仰旨

時、居盛道前聞之、奉勅不可依傳宣人高下故也、

十日、(壬寅)賀茂別雷社々司ヲシテ、賀茂祭以前二同社神館ヲ修造セシム、

尋デ、同社神館及ビ柳樹ノ顛倒ヲ軒廊ニトス、

〔中右記〕 四月十日、（藤原實行）頭辨來云、神館舍二字顛事、（備脫之）宣旨云、令官寮卜申、兼又以榮爵三人

人敍料、下知本社司、祭以前令修造者、則下右中辨了、（藤原實行）

頭辨談云、又下社河原屋顛倒之由所聞也、然而件屋院御時社司初所作也、然者不備事之

屋也、仍不可有沙汰、追心閑仰社司可被修理者、

十一日、癸卯、上社司宣旨請文云、猶加今二人修理神館舍、付頭辨奏聞、

軒廊御卜、（中略）巳時許參内、是依可行軒廊御卜也、先於陣腋問官寮參否、申皆參之由、仍

著端座、（兼日可行御卜之由申請也）令官人敷膝突、次召頭辨仰可敷座之由、諸司敷座於軒廊東一二三間、

置水火之後、予召外記、（藤原宗忠）少外記師清候小庭、仰可召神祇官、陰陽寮之由、外記稱唯歸

入、神祇官兼俊、陰陽寮光平朝臣、家榮、宗憲等入從日華門各著、（兼茂）予召兼俊、（依六位名寮東）許召也、

來膝突下給本解、仰云、吉凶可卜申、（留外記勘文、又依下解狀不委仰也）歸本座之後、予召云、大炊頭朝臣、

（光平依爲四位、官朝臣許召也）來膝突、仰云、賀茂別雷社司言上、去ル九日卯時俄大風、柳樹并神館舍屋顛

倒事、吉凶可占申、歸本座各卜申、此間神祇少副中臣輔清參入著、雖可相待、非伊勢事

時、強不待也、仍且行之間、追又參仕也、卜了資清持來御卜形、加入本解於筮蓋、執文返

蓋、披見之處、神事不淨者、光平又持來占形、披見之處、從震巽方奏口舌之上、本所病

卜占ノ趣
神事不淨
本所病事

同著座

社司請文
官寮ノ參
否ヲ問フ

下社河原
屋顛倒

榮爵三人
ノ敍料ヲ
以テ修造
セシム

內覽
法皇ニ奏
聞

龜ト掌ヲ
指スガ如
シ

重キトニ
アラズ

事者、共非重占歟、召外記令進宮本解、（副外記勘文、奏加）官卜形、寮占形加入、（書宿紙、今日依內御物忌也）招頭辨仰可內覽之由、召外記、官寮仰可罷出之由、則官寮退出、仰諸司令撤後退出、
近日內覽之後、必所奏院也、御鳥羽殿之間、依不可待、重仰令退出官寮也、
十七日、己酉、天陰、雨下、賀茂祭也、（中略）去十二日依賀茂社怪異、被行軒廊御卜之處、神事不淨之由、官所卜申也、今日齋王有月障之上、雨脚殊甚、若是依如此事歟、龜卜如指掌也、

〔殿曆〕 四月十二日、甲辰、權中納言宗忠行軒廊御卜、頭辨持來卜形、仰可奏院之由返給、是去九日大風之間、賀茂上館舍屋二字并柳樹顛倒事也、官寮所卜口舌、本所病事者、非重卜云々、
○大風雨ニ依リテ、賀茂別雷社神館及ビ柳樹顛倒ノコト、本月九日ノ條ニ、賀茂祭ノコト、同月十七日ノ條ニ見ユ、

院御物忌

〔長秋記〕 四月十日、（中略）參院、（中略）依院御物忌入自北門、

〔殿曆〕 四月十八日、庚戌、今日院有御見物、（中略、法皇賀茂祭御見物ノコト、本月十七日ノ條ニ收ム、院雖御物忌、俄有御見物也、略）

〔中右記〕 四月十八日、天間晴、雲未散、已剋以後天快晴、院可有御見物之由、俄有其催、兼日存御物忌由、無其用意間不能供奉、

○十八日、院御物忌、便宜合敘ス、

十四日、丙午、齋院官子内親王御禊、

〔殿曆〕 四月六日、戊戌、今夕新大納言宗、定申齋院御禊前駢、但禊祭上卿新藤中納言

宗忠也、彼大納言慶賀○正月二十三、之後、依吉日故被定申云々、左衛門佐資信有障之替、

以美濃守忠高令勤前駢之役、

十一日、癸卯、右中辨爲隆朝臣覽齋院御禊點地勘文、見了返給、是今日件點地式日也、

十三日、乙巳、○中今日被行御禊前駢、左兵衛佐季通俄申所勞由、依有先例、可催諸大

夫一人之由下知、内藏助雅仲催之云々、

十四日、丙午、天晴、今日予隨身馬給有業、藏人、檢非違使也、

御禊前駢、美濃守忠高、右衛門佐宗章、

〔中右記〕 三月廿五日、藏人辨送書狀云、禊齋辨如本、令右中辨爲隆朝臣奉仕者、則

下知右中辨了、

四月朔日、癸巳、天晴、○中予依爲禊齋上卿、從今日止念佛誦、忌僧尼、心中致潔齋也、

前驅定

御禊點地
勘文

御禊前驅

出車定

勸盃

出車六兩

前驅定

齋院出車定 六日、申時許參齋院、是依可有出車定也、著客殿座、上卿西庇東面、辨史座南庇北面、長官右中

辨爲隆朝臣、大夫史盛仲宿禰、小卿長官定仲以下、次官判官皆著座、了先一獻、長官勸盃、

々轉辨史座、次判官來置例文於予座前、入柳宮、硯紙等置辨座前、予取例文讀上、令辨

書定文、出車六兩、先除去年、去々年獻之人々又出馬定文同令書、殿上人四人也、多辨持來定文二

通、見了召長官下定文、可催之由仰下、次二獻、如初居汗物立箸、次令撤例文退歸、秉

燭以前歸家、今日新大納言、宗、○正月二十三之後、於仗座未行公事、今日依當吉日、

可定申也、而大納言被語請云、新任○正月二十三之後、於仗座未行公事、今日依當吉日、

欲定申前駢事者、仍予讓彼人也、新宰相又雖非禊祭宰相、新任人初爲書定文所勤仕也、

後日新大納言談云、新任之後行公事、道虛如何、先尋例之處、堀川右大臣殿治安元年

七月廿五日、任大萬壽二年六月十二日壬戌、著座、件例家吉例也、雖道虛已有著座事、

何況乎行公事不可有憚者、仍今日所定申前駢也者、最可然歟、左衛門佐有障替、被入

美濃守忠高了、定文令藏人辨雅兼内覽、殿下被下外記者、

十一日、癸卯、○中今日齋院御禊點地文、右中辨持來、三枚、見了付右中辨覽殿下、則下了、

御禊點地文内覽奏聞事、御禊點地文内覽奏聞事每年御禊點地、以今日卯日爲式日也、件勘文、可奏之文也、幼主御時、只覽攝政殿許也、

左兵衛佐季通俄申所勞由、辭退御禊前駢、則以頭辨奏聞、院宣云、以筑前守泰兼可令勤

御禊點地
式日

前驅辭退

天永二年四月十四日

二八〇

仕者、

十三日、乙巳、中略、○御禊前驅左兵衛佐季通申故障、替依殿下仰、(藤原忠實)諸大夫一人責催由、仰下外記了、又左京進不供奉事、可尋催由同仰了、

去年依初齋院行事所始、○元年四月十日、二日ノ條參看、有鎮西召物、而臨歲末所持來也、件絹八百疋奉齋院

女房、是裝束不足料雖申請榮爵、元猶以不足、仍奉此、太宰府去年所進之絹也、

齋院御禊、齋院御禊十四日、丙午、天晴、齋院御禊也、依爲上卿、未尅參本院、先沐、浴祓、先雖可著客殿、本院之事

全無沙汰人、仍爲尋懈怠事參御所邊、右中辨參入尋諸事具否、新宰相實隆又被參、(藤原)少納言

定通參入、是垣下者、頃而相具人々、出自南北門著客殿座、本居饗、上卿宰相西庇、(東面)北

昇從北面西一、間、寶子著座、辨外記史南庇、西上北面、右中辨爲隆、大夫史盛仲、外記兼職著座、本院司

東庇、北上西面、垣下北庇、西上南面、前驅五位以上座母屋西三對座、東庭立酒部所幄、

史生、官、南庭檢非違使忠重、有定著床子座、看督長先、昇立床子、人々著座、了予前驅京職參否之事問

外記、申皆參由、但候近邊、齋王御出者、前驅近代不、著此座也、本院事女房出車具了哉由、問長官、

申具之由、次引廻牛、御車牛、殿下令、進置肥牛十頭、次履子著十四人、絲鞋著十人、下仕二人廻客殿、此

間藏人爲忠從內持參女房扇、廿三枚、水、入冬扇、童女扇、四枚、長官起座申事之由、御所邊召藏人、

先敷座、予諸大夫、益送、從殿下被催、給祿、女裝、東、

上卿藤原宗忠

御車ヲ南階ニ寄ス

乘御

申剋寄御車於南階、長官寄、御車、予以下入自中門、列立南庭、予、宰相中將立遣水西邊、西面北上、辨立渡、大夫史、外記立遣水東、

齋王乘車給後、予以下出自南門乘車、立車於堀川一條北邊、予車西、宰相東、以召使尋次第使馬助、

行事右中辨爲隆、大夫史盛仲、外記兼職、乘車一々東行、予此間暫下、車簾令車渡、暫齋王留大宮辻、左

右京職進屬以下相竝渡之、御禊物具、宮主、本宮主服云々、仍兼日、仰神祇官令差進代官、此後尋前驅、未參具也、

仍暫遲々、

裏書云、

先日攝政殿被教仰云、公卿立車時、大臣解鞅乍懸牛引出也、大納言以下、引出牛、

鞅、如本結付車也、此事年來不知、仍今日於列見辻立車時、不令解鞅也、

已上裏書

天俄陰、頗少雨、不及衣濕、光景推遷、纔人々參來、右兵衛尉經遠、左兵衛尉忠時、右

衛門尉盛康、藏人左衛門尉有業、右兵衛佐能賢、左兵衛佐代內藏助雅仲、佐季通俄申障、仍仰外記、從昨日召

出諸大夫一人也、先例俄闕時、有如此事云々、仍被仰下也、

右衛門佐宗章、左衛門佐代美濃守忠高、佐資信重服替也、依年少、人內府隨身二人取馬口、雜色二人、所衆四人、今日爲先

雜色可渡也、而次第使馬助、景仲、長官、(藤原)漏剋齋王御車、殿下、次官判官相竝渡之、二車、

(藤原)內大臣、(藤原)三車、(藤原)右大將、馬允盛兼、女房出車六兩、(藤原)兵衛督、(藤原)左宰相中將、(藤原)左大辨、秉燭以前渡了、

天永二年四月十四日

二八一

出車六兩

齋院御車

予歸家之後雨脚計也、御禊之間依雨有煩歟、

十六日、戊法皇、鳥羽殿ヨリ、大炊殿ニ還幸ス、

〔殿曆〕 四月十六日、戊申、○中略院出御京御所、

〔中右記〕 三月廿九日、依有御幸催參鳥羽、而俄御幸止了、但參殿上暫祇候、人々多被參、○中略晚頭歸家、

賀茂祭御見物ニ依ル人々遲參

四月十六日、戊申、天晴、院從鳥羽遷御京、依明日御見物事也、依有催著直衣、辰剋馳參、而於九條朱雀邊、下人走向云、御幸已成、仍騎馬、藤中納言又於此所騎馬、人々多以遲參歟、御幸事成、騎馬相加、藤大納言以下公卿八人、殿上人廿人許前駈、辰剋著御京御所之後退出、

○法皇、大炊殿ヨリ鳥羽殿ニ御幸ノコト、三月六日及ビ本月二十九日ノ條ニ、賀茂祭御見物ノコト、同月十七日ノ條ニ見ユ、

十七日、己酉、賀茂祭、尋デ、法皇、同祭還立ヲ御見物アラセラル、

〔殿曆〕 三月五日、丁卯、天晴、○中略皇后宮大進惟信來、宮四月祭使沙汰也、依院仰催重隆、右衛門權佐

法皇御見物延引

四月十七日、己酉、天晴、近衛使許ニ隨身兼近府生、遣之、皇后宮使引馬、同鞍隨身番長國重遣之、今日賀茂祭也、終日天陰、雨下、仍院御見物俄止之、使右少將伊通、皇后

高陽院北門ニ渡御解陣

宮使大進重隆、

十八日、庚戌、今日院有御見物、（藤原忠通）中納言參仕、高陽院北門令渡給、（藤原忠實）予見之、院雖御物忌、俄有御見物也、（源雅實）內大臣以下公卿殿上人多以前駈、今夕解陣、中納言宗忠行之、

〔中右記〕 四月五日、終日候殿下、（忠實）被仰云、○中略藤原忠實、賀茂社詣ノコト、又被仰云、明日欲申行祭除目之處、山城介親行申輕服之由、被相尋之處、已以無實、仍返辭書、猶可勤賀茂祭之使由被仰下也、

祭使

警固召仰

十五日、從去夜雨脚頻下、猶未止也、午後天晴、○中略今夕警固召仰、

十七日、己酉、天陰、雨下、賀茂祭也、午時許參齋院、先參東廊、（藤原為時）右中辨參會、相催懈怠事等、

雨儀

今日院可有御見物申有其議、而時刻推遷、雨脚未止、仍以書狀遣尋播磨守長實朝臣之處、返事云、依深雨無御見物、頗以遺恨歟、此間左大辨參入、（源重實）是依新宰相、（藤原實家）今日參云々、彼人依可有院御見物、爲勤仕前駈、大略語付歟、出車飭馬等未相具者、人々催廻、諸事大略具了著客殿座、（藤原實家）其座如御禊日、日諸使、檢非違使等依雨儀在東屋南庇、外記未參、甚奇怪也、本院之事具否之由問長官、大略具了、只今女房出車、漸乘了者、但依雨脚無隙不令引廻飭馬、又不見走童、早可寄御輿之由仰長官、外記兼職參入、遲參之事頗有所申、強不勘發、使々參否事問外記、皆

天永二年四月十七日

二八四

內藏寮幣
皇后御幣

隨身勅祿
ヲ持ツ

申在近隣之由、齋王乘給輿之間、予與左大辨依雨儀在南中門、長官密語云、從昨日齋王有月障、仍御汗殿、乘輿之間、用長押之下道云々、是先例也、予、左大辨以下出從南門、乘車行向列見辻之間、暫留車於近衛府使少將伊通騎馬之所、尋事具否、葵不可忘之由、以雜色示之處、如案取忘云々、早相尋近邊可懸使之冠由所教也、仍立車於列見辻、凡雨脚殊盛、前後不見、次第違亂、山城騎兵渡、齋王與暫留大宮辻、行事右中辨爲隆、大夫史盛仲(小傳)、外記兼職、連車渡、暫留車、予以召使早可被過之由命之、人々車或渡、又隨將來過也、尋檢非違使間、召使來云、府生有定、忠重二人之外未參、暫可待具由申上者、予以召使仰云、雨脚殊甚、日已欲暮、強不待具、只早可渡者、左右看督長等相並渡之、檢非違使有定、忠重二人相具、而於上卿前欲下馬、而雨脚甚間有煩下馬、以召使早可渡之由仰下、仍乍騎馬渡之、山城介親行渡之、內藏寮御幣、皇后御幣、本院御幣等相渡、皇后宮使大進右衛門權佐重隆牽馬口、番長國重(兼)、近衛取之、馬寮使助有隆、近衛府使右少將伊通、飭馬口、府生敦利、兼久、牽馬、府生兼近、番長末利、隨身持勅祿、而依甚雨止、小舍人童并笠車等如何、只可被渡歟、若是明日依御見物不可令損歟、舞人陪從在前後、早可渡由、以召使仰也、舞人陪從、上卿車前、可下馬也、內藏寮使助行仲、此間檢非違使宗清、行重、大夫尉繁時渡、使之中是遲參之所致也、甚以奇怪歟、次相尋女使之處未參者、次第使馬助景仲、

齋院御輿

大雨ニ依
リ次第ヲ
守ラズ

飭馬等庭
中ニ渡ラ
ズ
勸盃

供奉ノ公
卿十四人

長官定仲、左右衛門、左右兵衛陣、漏剋齋王輿、糸鞋著下仕取物等、相具腰輿、女藏人、輿等、騎馬童女、女使追參、在此列歟、可在御輿也、次官判官辛櫃膳夫等所前駈遲參、御車二三車、次第使馬允盛兼出車六兩、典侍車、御乳母左中辨顯隆妻、一家人々六人前駈、此中允通前駈、如此事儒者強不見事歟如何、命婦車、藏人車、關司車、日已暮、雨猶盛、廻轅欲歸之間、藏人所前駈等渡、大奇怪也、凡今日終日大雨、仍強不守次第、只以無懈怠爲先可、(原)入夜歸家、依甚雨次第頗狼藉也、(藤原)宗成歸來談云、使出立之所誠以無人也、有院御見物議、人々不被來、初獻少納言定通、四位殿上人依遲來也、依雨儀、於西中門、飭馬等不渡庭中、又地下四位一人不見、陪從勸盃五位、(源基朝)次治部卿勸盃、公卿只一人被來也、使勸盃、次參院、依無院御見物、推而參入歟、次使參內、後聞、使有召候長橋、藏人二人、先數圓座、次居看物、藏人辨雅兼勸盃、舞人入從仙華門、於仁壽殿砌片舞、依雨儀也、給祿、御衣頭辨取之、使拜舞退歸、又依甚雨、從內侍所方給宣命於內藏寮使云々、去十二日依賀茂社怪異、被行軒廊御下之處、神事不淨之由、官所卜申也、今日齋王有月障之上、雨脚殊甚、若是依如此事歟、龜卜如指掌也、○本月十日院御見物十八日、天間晴、雲未散、已剋以後天快晴、院可有御見物之由、俄有其催、兼日存御物忌由、無其用意間不能供奉、後聞、御幸、(源雅實)內大臣、(藤原家忠)右大將以下公卿十四人、殿上人皆參

天永二年四月十七日

二八五

藤原宗忠
還立所ニ
向フ

天永二年四月十七日

二八六

云々、公卿直衣、殿
晚頭行向使少將還立所、(源雅俊)新大納言家、酉時許少將歸來、於西中門下有立盃事、中將宗輔
取之、(源雅俊)地下五位二人、使入了上達部著座、予、治部卿、(源雅俊)別當、新宰相中將、舞人於前庭片
舞、了著座、初獻宗能朝臣、二獻予、三獻治部卿、次殿上人等五六輩、諸大夫相加、置
布祿、人々退歸、依纏頭止無其饗應、

裏書云、

近衛府使少將

祭日 比陪支下襲、飭釵代、魚袋、

還日 青朽葉、螺鈿釵、不付魚袋、

已上裏書

解陣

予依有解陣催參內、先於陣腋召外記、尋諸衛之處、三府參仕者、著輿座招藏人說雅奏
(源雅俊)解陣可候之由、移著端座、以官人召外記、少外記兼職候少庭、仰可召內豎之由、外記歸
入、內豎參小庭、予仰云、候司々者召_セ、內豎出從日華門、召諸衛、三府官人列立軒廊
南庭、依入夜予向奧方、問云、誰所、三府各稱官姓名、(源雅俊)皆尉也、猶佐一人可催事
稱唯出、了退出、(源雅俊)及深更歸家、

警固召仰
上卿

〔長秋記〕

四月十五日、警固召仰、予之外皆尉也、右兵衛不參、上卿治部卿基綱、事

(源雅俊)非一上人出入化德門事
了上卿退出敷政門、見合下官有耻色、非一上之人、出入自化德門之故也、

出御
藤原忠實
見物

御所

齋院御車

仍不相具之、播磨守長實朝臣問人々見參、其次語云、殿中納言忠、參給後可有御出也者、
及未剋中納言參給、仍出御、經大炊御門東洞院、中御門大宮大路、攝政於高陽院北面
小門見物給、加賀介家定、丹波前司季房、刑部大輔仲房居庭上、末之輩居隱、有何事
乎、御紫野輕幄、人々多擬神館御見物、不下自馬、下官不堪炎暑、暫下居幄、頭辨實行、
少將雅定朝臣同之、相次人々多同之、此後上達部多被下自馬、上皇御車留幄北幔下、供
奉上達部群居、右大將以下兩貫首并下官、藏人少將忠宗等居北幄、內府祇候御車際、按
察宗通卿行向使幄、良久歸參紫野幄、南北行立五間幄爲前駟座、其北北面引幔爲御所、
其東立御車幄、南五六丈引幔、(源雅俊)已上
清候、追退雜人、南妻大夫尉兼季祇候、未了車渡、次內藏助行仲、次馬寮使有隆、次近
衛使少將伊通、繼府生敦利、兼久、院引馬府生兼近、攝政番長季利、院車風流、餽飭屋
也、次皇后宮使大進重隆、引馬繼院兼久子、殿御隨身番長國重等也、次々第使馬助、
某、次雜色所衆、次長官定仲、次御車出車、(源雅俊)蘇芳、次內侍前駟、(源雅俊)安藝守尹通、出雲守右衛門大夫顯能、
左衛門大夫說定、藏人實兼等也、

天永二年四月十七日

二八七

還御見物法
源後房物
皇御見物
法ヲ語源
藤原爲隆
時失禮隆
ノ皇禮隆
指繩御前
ブルベカラ

天永二年四月二十日

二八八

出車、紅鬮、次命婦金作車、次藏人、次國司等、渡了還御、於齋院前垣下、殿上人等留、
西剋還御大炊殿、後日左府仰云、祭歸日汝不具胡錄如何、申云、前日自内依召進上、仍
老屈次將不具胡錄事
不具儀也、仰云、老屈次將不具何事有乎、又仰云、行事辨爲隆率上官渡上皇御前、不過
當上皇眼路不可乘車事
幾程當眼路乘車、極無禮事也、攝政關白見物時尙隔眼路乘之、況於上皇御座哉、
上皇御前不可張指繩事
又右衛門權佐重隆渡上皇御前之間張指繩、尤不可然、關白見物時尙舉指繩渡、是諸大夫
例也、何況於上皇乎、故大藏卿道良卿勤仕馬寮使時、渡故大殿御車前間舉指繩、後日公
達舉指繩事未見之由問之、答云、奉禮人儀云々、於道良者年來彼殿家人也、加之老屈身
也、仍所舉也者、其事尤可然、上皇御見物時、雖公達成長人、舉指繩渡、可有便宜事
也、於幼若人者非此限、
上皇於棧敷御見物時、公卿殿上人居處事
舉指繩事、當御眼路留馬令舉、亦非自本舉之躰也、上皇御見物時、上達部下居平張、殿
上人或居御車前、又御所前引幔、其儀誠嚴重也、一人見物時、但及殿上人連車見之、其
儀事外失也、

○有職抄、異事ナキヲ以テ略ス、

二十日、壬子、吉田祭、

〔殿曆〕四月廿日、壬子、自河原奉幣、

〔中右記〕四月廿日、吉田祭、天陰、雨下、奉幣如例、殿下御物忌也、依不審尋申之

藤原忠實
奉幣

處、指事不御者、

二十一日、丑、石清水臨時祭ヲ追行ス、

〔殿曆〕四月廿一日、癸丑、有石清水臨時祭、不參、後聞、内大臣以下上達部十一人參

仕、使基隆朝臣、四獻重盃云々、日已暮、萬事懈怠云々、

廿二日、甲寅、臨晚陰、使以下歸參、於弓場殿給祿云々、

〔中右記〕四月十六日、戊申、天晴、○中略、今日、○中略、廣瀬祭、龍田祭、日時勘申、又於藏人所

被勘臨時祭日時、來廿一日、去三月延引也、

臨時祭、廿一日、天晴、有石清水臨時祭、仍午四點相具侍從宗成參内、宗成爲新舞人、仍調雜色取物人

々未被參、頃而内大臣被參、其後諸卿漸以參上、皆候殿上、已及數剋、御禊遲々、頭辨於

殿上有仰、内大臣事、是式日延引歟、召内記、於小板敷下被仰其由歟、及申剋有御禊、

頭辨實行陪膳、頭中將、藏人辨雅兼益供、事了内大臣奏宣命、召使於小板敷給之、庭座以前

也、供御裝束出御、公卿著壁下座、内大臣、藤大納言、源大納言、新大納言、右、頭辨召、不著使

已下參上、使基隆朝臣、舞人伊通、能賢、實兼、定通、宗成、實能、藏人有業、雅兼九

人參著、陪從有賢朝臣、時俊朝臣以下、

一獻、頭辨、藏二獻、藤大納言、長實朝臣、内府、須被勤也、而、内大臣加庭中座、三獻、源大納言、發

天永二年四月二十一日

二八九

一獻

出御

宣命ヲ奏ス

御禊

日時勘申

使萬事懈怠

入御
藤原宗忠
見物

每事懈怠

歌笛聲、使基隆朝臣取盃、擬藤大納言、不奉內府、是依父子儀也、置銅盞等、次四獻、新大納言、依日暮止次々盃酌、竝圓座重盃、信通朝臣、宗能朝臣、雅兼、次給插頭花、內大臣以下予取之間、自當宗成巡、仍不指冠、只給之歸入、人々起座、入御、撤庭中座、又出御、公卿參上簀子座、頭辨召、次歌舞、今日不被仰一舞、只依位階也、伊通、能賢、能賢地下、但爲院殿上人、予於待賢門前、留車見物、次第渡大路、使基隆給院御馬并敦利、兼重、路頭施面目歟、渡了、及秉燭馳車行向馬乘替所、四條北小路、與美部之小堂也、秉燭之後則出立了、入夜歸家、今日臨時祭每事懈怠也、先給舞人於裝束、已及已剋、例即時許、有此事也、又御禊申剋、誠以不便也、幼主御之時、攝政不令參御之所致歟、石清水臨時祭及申剋、未見如此事、誠以不便歟、

裏書云、

藤大納言勸盃之後著庭座、次內大臣加著庭座也、源大納言、新大納言皆著庭中座、後聞、主上不著御青色御表衣、是內藏寮本不儲也、但夏青衣不著御中申上子、色、子、此事可尋、

已上裏書

廿二日、天晴、午時許侍從歸來云、夜前於鳥羽西邊乘舟、亥時許參上御前、舞人遲昇之間、於事懈怠、卯辰時許事了歸洛、御神樂間、近方、時元執拍子、後聞、使以下晚頭歸

祿

參、於弓場殿盃酌後給祿、

廿四日、中略今夕召侍從權武正給祿、絹五十疋、舞人裝束一具、綿衣五兩、水旱袴料、色々布八段、依纏頭止不招人々、不及過差也、

〔長秋記〕

四月廿七日、參左大臣殿、源後房、依先日仰直不參御前、先以女房申案内後參入、被仰云、今朝頭辨實行朝臣仰云、右衛門權佐重隆、依闕石清水臨時祭舞人解却所職、倩案事情、不可及解官、世間恐云々、可用心事也、雖承口宣、重取書宣旨所下知也者、

〔石清水文書〕

五 宮寺緣事抄臨時祭四上

天志同二年四月廿一日、癸丑、石清水宮臨時祭也、去月廿日、壬午、依世間穢氣延引、

使伊豫守藤原基隆朝臣

舞人

右近少將藤伊通

陪從

宣命

抑

藤原重隆
舞人ヲ闕
クニ依リ
解官ス

使
舞人

天永二年四月二十四日

宣命

玉體安穩
天下泰平
ヲ祈ル

辭別天申賜^{とせ}り、去月廿日^{とせ}の式日と爲天、宇都乃大幣、東遊、走馬ヲ調進給^{とせ}之に、不慮之外爾穢氣觸來天延引せり、仍天吉日ヲ擇定天奉出給ヘリ、大井此旨ヲ令照鑿給天、如此ヲ界就天谷崇曾無天、玉躰安穩、赤縣泰平ニ無事故支御代と護恤給ヘと、恐見恐見も申賜^{とく}と申、

天永二年四月廿一日

作者少内記紀周衡

上卿内大臣

抑

○兵範記、仁安三年四^{仁安三年四月三日ノ條}年中行事秘抄、石清水八幡宮記録、異事ナキヲ以テ略ス、觸穢ニ依リテ石清水臨時祭ヲ延引スルコト、三月十二日ノ條ニ見ユ、

二十四日、^{丙辰}攝政藤原忠實、陰陽師ヲシテ、春日社樹木顛倒ノコトヲ占セシム、

神事不淨
氏人ノ申
子午卯酉
ノ病ヲ
慎ムベシ

〔殿曆〕四月廿四日、^{丙辰}今日召泰長、^{家榮}令占春日社怪異、神事不淨、氏人之中子午卯酉人可慎病事者、是去九日依大風、彼山内樹七十餘本顛倒事也、

〔中右記〕四月廿四日、早旦從^{藤原忠實}殿下有召、則參入、但依御物忌候馬場殿方、令申案内、

氏人ノ公
卿中藤原
忠實一人
ノミ

被仰合云、昨日只少許不例、而今日々次宜、仍欲沐浴如何、此間家榮、泰長參入、聊被占之處、指事不可御者、又被仰云、去九日卯剋大風、春日山内樹木七十餘本被吹倒、以件二人可令卜筮者、則依仰令占之處、怪所盜失、神事不淨、又氏人之中子午卯酉之人可慎病事者、件氏人之公卿之中只長者^{忠實}殿一人也、是依午御年也、申其旨了、又今日廣瀬、龍田祭也、^{○本月四日ノ條參看}召僧事如何、殿下仰云、件事思食忘也、仍被渡御讀經於東馬場屋了、如此事申了、午上退出、依召僧事聊有御祓、家榮候云々、

○大風雨ニ依リテ、春日社樹木顛倒ノコト、本月九日ノ條ニ見ユ、

大藏卿從三位源道良薨ズ、

〔中右記〕四月廿四日、^{○中}今日申時許大藏卿道良薨、^{年六十二、從三位}件人者故源中納言資綱

第二子也、後冷泉院御時初昇殿、經少將、左馬助、^{風之}春宮權亮、堀川院御時敍三位、任大藏卿也、無指材智、又他藝不聞歟、此日者勞二禁、遂以卒去也、

〔公卿補任〕非參議從三位源道良、^{五十}故中納言資綱卿二男、^{康和二年六月十九日、}

敍從三位、^{自高陽院還宮日賞}大藏卿、但馬權守等如元、同四年十一月十四日、兼大宮權大夫、^{○以上、}天永二年四月廿四日薨、^{六十二、以上十、○}

〔水左記〕永保元年八月十五日、己巳、陰、巳時以後小雨、^{○中}今日東宮御元服習禮云

天永二年四月二十四日

二九三

指シタル
才智ナシ
二禁ヲ病
官歴

年六十二

左馬頭

大藏卿

世系

天永二年四月二十四日

夕、○中略 左馬頭道良朝臣爲加冠代、

〔中右記〕 寛治八年七月十三日、壬子、天晴、○中略 及夜陰、於陣座有臨時除目、○中以左

大辨爲執筆、

大藏卿正四位下源朝臣道良、

〔尊卑分脈〕 源氏

經長 權大、正二位、民部卿、延久三、薨、六十才、

道良 大藏卿、從三、大宮權大夫、實資綱卿子、天永二四廿四薨、六十才、母中納言道方女

信兼 母但馬守高房女

顯俊

顯兼

道經

俊兼

隆實 法橋、延勝、最勝兩寺執行、

豪覺 權律師、三會、

道仁 阿

藤原經長ノ子トナル

山 良修 阿

聖 良勝 阿

〔尊卑分脈〕 醍醐源氏

資綱 中納言、正二、母實成卿女、

道良 大藏卿、從三、爲政長卿子、

俊兼 母但馬守高房女

顯良

道經

宗時

豪覺

隆實

〔古今著聞集〕 十八 飲食

〔藤原忠實〕 知足院殿中納言のとき、堂院にましくて、中納言宗輔、に筆を

ならはせたまひける時、辰の刻より申にいたるまで他事なかりけり、その時盃饌をまう

けられて、さいくにすゝめられけり、源中納言國信卿、その時殿上人にて、亭主の陪

膳しけり、政長朝臣納言の饌をすへけり、道良朝臣瓶子をとる、亭主盃を納言にさし給

天永二年四月二十四日

およすけもの

ふ、納言孟給はりてのまんとする時、道良朝臣人まいれやとよひて、銚子を他人にゆつ
らんとす、すなはち清實、盛長、有賢等參、その時納言のいはく、今日は御師匠を饗應
せらるゝ日也、道良なんそ瓶子を他人にゆつるへきや、道良もつともしかりとてすゝめ
ければ、納言うち笑あひしてのまれけり、人々見て、あはれしたりかほなる人かな、な
を家の子なりとそいひける、道良はおよすけものなり、京極の大殿に堀川の左府、六條
の右府、中宮大夫師忠なとつねに參らせられて、盃酌の有ける時も、殿下の前の外は一
度も他人の瓶子にはよらさりけり、有賢等にそ譲りける、

二十七日、己未、豐受大神宮蕃垣御門ノ顛倒ヲ軒廊ニトス、

御トノ趣
頗ル重シ

〔殿曆〕 四月廿七日、己未、天晴、○中略、源雅實ノ土御門第二ニ行幸以前内大臣行軒廊御ト、是
去九日大風、伊勢外宮蕃垣御門顛倒事也、御ト之趣頗重歟、

〔中右記〕 四月廿七日、己未、入夜陰參内、著仗座、内大臣參仕、被申云、今夕可行軒
廊御ト也、遷御之後三ケ日中、如此事不可被行之故也、行幸以前被行軒廊御ト事有先
例由、大外記所申者、内大臣移著端座、以官人令敷膝突、召頭辨仰可敷座之由、所司敷
座於軒廊、東三間、以東、置水火、召外記仰官寮可召之由、猶神祇官、陰陽寮可被仰也、官寮二字省略之故也、大中臣輔清、卜部
兼俊、官、宗明寮、參入著座、内府召云、輔清、雖五位加朝臣二字也、名許召如何、給解狀、可ト申、去九日豐受
宮蕃垣御門

ト形ヲ進
ム

依風顛倒事、次召宗明被仰此趣、此間宗憲參加座、兼申事由、參加也、各進ト形、召外記筥入文書、付頭辨

奏聞、召殿、藤原忠實、官寮退出、

裏書云、

御藥天下
疾疫

御ト趣官寮共御藥、天下疾疫者、頗件御ト體重者、可有御慎歟、

已上裏書

○大風ニ依リテ、豐受大神宮蕃垣御門顛倒ノコト、本月九日ノ條ニ、同御門顛倒ノ
コトニ依リテ、二十二社ニ奉幣スルコト、五月九日ノ條ニ見ユ、

内裏ヨリ、内大臣源雅實ノ土御門第二遷幸ス、

〔殿曆〕 四月廿七日、己未、天晴、今夜内大臣土御門享有行幸、予依所勞ノ○本月四日、不參
條參看、

仕、中納言同不參、小所勞故也、行幸之間、雨脚頗降、○中略

遷御内大臣土御門亭事、明年可被作皇居一條院間、從本所清涼殿依可當大將軍并金神方、
爲避彼方忌有此臨幸也、及深更頭辨實行朝臣并藏人左少辨雅兼持來吉書、見了返下、官并藏
人方、

御裝束事、上卿中納言能俊、新中納言忠教、右少辨實光供奉御竈神、又藏人辨雅兼、右

中將師重、右少將宗能供奉内侍所云々、

〔中右記〕 四月九日、○中略、入夜左中辨顯隆爲殿下御使申云、新皇后宮可被候事、猶一條

清涼殿大
將軍并金
神方ニ當
ル
御竈神内
侍所ヲ奉
遷ス

天永二年四月二十八日

三〇〇

御禊

供奉ノ諸

御車

下社ニ著
御馬神寶
ヲ社司ニ
付ス

還幸

佛舍利ヲ
金銅ノ壺
ニ入レテ
奉リ給フ

〔中右記〕

賀茂御幸

庚申、

○中略

今夕上皇令參詣賀茂社御也、仍晚頭著束帶、申時許參院

御所、大炊御門萬里小路、○及酉剋先有御禊、南庭引御馬二疋、社料、神寶長櫃二合、御幣二

捧、大炊頭光平御祓、次但馬守家保朝臣捧御幣暫立、於簾中有御拜歎、不知件、暫而置御

幣、皆以前行、寄唐御車、御車副布衣、烏帽、依省略儀也、諸卿內大臣、右大將、藤大納言、源大納言、新

大納言、左衛門督、藤中納言、右衛門督、子、新中納言、右宰相中將、家、新宰相中將、

實、左大辨、修理大夫、殿上人五十人許、前行、御車、別當左兵衛督、能、候御後、檢非違使

武者所出車、出御東御門、經大炊御門、京極一條大路等、於下御社外鳥居下、此間及秉

燭、○此間及秉燭ノ五字、恐ラクハモト次ノ下、敷筵道、令、公卿殿上人有仰前行、近習

人兩三輩近候、以舞殿北一間、懸御簾爲御所、入御之後、院司取御幣、暫立御前、神馬、

神寶付社司了、社司返祝、可早出御、上社作法如此、但於內鳥居下、留御車下御也、依不

中、不、良久還御、其路經齋院前并大宮、中御門、東洞院、大炊御門大路等還御、子剋許

人々退出、今日朝間小雨、午後雖天陰雨不下、

裏書云、

後日或人談云、上皇入御所給之後、金銀御幣新大納言取之捧立、白妙御幣家保朝臣取之

捧立、上皇令拜給、次又無別神寶、入佛舍利於金銅壺被奉者、件舍利、金銀御幣入長櫃

一合也、

神寶行事但馬守家保朝臣

已上裏書

〔長秋記〕

上皇賀茂詣事

四月廿八日、

上皇賀茂詣、

予參會一條京極、

藏人辨雅兼語云、

御禊間、但

馬守家保朝臣捧幣立南庭、神寶昇並置其前云々、於內鳥居下前駟等下馬、自鳥居下至拜

殿鋪筵道、供奉人々佇立鳥居內外、御車懸榻、爰御隨身兼久來仰云、不參御前人々前行、

可候廻廊外者、仍人々前行、消松火候廊西邊、此間入御、奉幣間儀不委、出御間又前行、

○法皇、高陽院觸穢ニ依リテ、賀茂社御幸ヲ延引シ給フコト、三月六日ノ條ニ見ユ、

二十九日、辛酉、法皇、大炊殿ヨリ、鳥羽殿ニ御幸アリ、

〔殿曆〕四月廿九日、辛酉、今曉院有鳥羽殿御幸、

〔中右記〕四月廿九日、天陰、早旦院御幸鳥羽云々、

五月九日、○中、今朝辰剋、院從鳥羽出御京御所也、

○法皇、鳥羽殿ヨリ大炊殿ニ還幸ノコト、本月十六日ノ條ニ見ユ、

是月、入道前常陸介正四位下高階經成卒ス、

〔中右記〕四月廿四日、○中、今月中旬比、常陸守入道經成卒去、年九十、件人故業敏朝臣

天永二年四月二十九日 是月

三〇一

御禊

還幸

年九十一

天永二年四月是月

三〇二

男、後三條院藏人也、

〔爲房卿記〕 寛治元年四月七日、戊子、略中 亥剋太上皇鳥羽遷御近江守敦家朝臣六條院、略中 人々被聽院昇殿、殿下令、經成朝臣、略中略、以

〔本朝世紀〕 康和五年四月卅日、戊寅、源兼實内大臣以下參入、有直物并小除目事、略中 常陸

介正四位下高階經成、前備後守、年勞

〔朝野群載〕 七 攝籙家 政所御下文

攝政右大臣家政所下 伊勢國稻生社并栗真御庄

可早任年來例、且停止彼此非論、且召進濫行下人事、略中

右以彼御庄解狀、令問社家之所、陳狀云、略中 社禰宜并庄司等宜承知、依件行之、不可

違失、故下、

嘉承二年十二月 日 略中

別當式部大輔藤原朝臣 略中

前常陸介高階朝臣 略中

〔中右記〕 長治二年十二月十一日、略中 今日有事緣、常陸守經成朝臣來家中談云、生年

八十五、而起居輕利、眼耳分明、近代公卿諸大夫中無比齡人、誠天之與壽也、身無指病

老來眼耳分明

攝政家知家事

備後守常陸介

院昇殿

官歴

世系

和歌

邸宅

餘八句由、所雄稱也、

〔尊卑分脈〕 高階 氏

業敏 美濃守、正四下、

經成 美濃前守、常陸介、正四下、金葉作者、

經敏 長門守、正四下、

〔倭歌作者部類〕 四位 常陸守 高階經成 美乃守業敏男、天永二四九 承德三七廿四卒 金葉集一、

〔今鏡〕 二 すへらぎの中 此みかとの御母は權中納言隆俊の御むすめの腹に、源朝房 六條の右の

おと、の御むすめにおはしまし、略中 應徳元年九月廿三日、三條の内裏にてかくれさ

せ給ひにき、略中 廿四日に備後守經成のぬしの四條高倉の家にわたしたてまつりて、神

無月の一日そ鳥部野におくりたてまつりて、烟とのほり給ひにし、

天永二年四月是月

三〇三

天永二年五月一日 三日 四日

五月 大盡 壬戌朔

一日、壬戌未斷輕囚百人ヲ赦ス、

〔中右記〕 五月一日、壬戌、天陰、時々小雨、○中略

今夕被免未斷輕犯者百人云々、

三日、甲子請印政、是日、藏人ヲ補ス、

〔殿曆〕 五月三日、甲子、○中略今夜被補藏人、藤原資兼、院藏人一職也申剋許頭辨來、藤原忠實仍予可仰

下由仰了、戊剋下了、

〔中右記〕 五月三日、天晴、巳時許參政、先著左衛門陣、少納言宗兼先參入、頃而左大

官符請印辨參入、中少辨皆有障不參也、但依可請印官符著廳、左大辨同著、新外記兼職、今日初

從事、仍不可有法申之由申請、少納言宗兼、外記兼職勤請印、事了起座、欲出外記門

處、召使申云、南所物忌者、仍引人々於陽明門乘車、經大宮土御門、於東洞院程、下自

車參陣、今日欲行位記請印之處、近衛將監有障不參、仍退出了、○中略

被補藏人、藤資兼、惟信朝臣、院藏人一職也

四日、乙丑攝政藤原忠實、唐織物ヲ獻ズ、

〔殿曆〕 五月四日、乙丑、天陰、雨甚下、今朝以兵衛尉經盛、唐織物五段奉之、依昨日

仰ニ依ル

南所物忌
位記請印
ナシ

新外記從
事

觀世音寺
修理ノ功
交易ヲ以
テ業トナ
ス外國ノ
網位ニ昇
ル例

仰也、

五日、丙寅筑前觀世音寺別當暹宴ヲ法橋ニ敍ス、

〔中右記〕 五月五日、○中略今日民部卿參仗座、被定申千僧御讀經 ○本月十七日ノ條參看、之次、暹宴

敍法橋云々、

裏書云、

件暹宴者、是鎮西觀世音寺別當也、依修理彼寺功、今日敍法橋也、世稱腰引禪師、以交易物爲其業、仍富重千金畢、外國之者昇綱位如何、有其故歟、

已上裏書

〔僧綱補任〕 坤德川昭武氏本 法橋暹宴 五月五日敍、觀世音寺金堂修造賞、觀世音寺別

當、

○暹宴ヲシテ、觀世音寺ノ金堂、廻廊、中門等ヲ修造セシムルコト、天仁元年六月二十一日ノ條ニ、暹宴、觀世音寺修造ノ功ニ依リ、勸賞ヲ請フコト、同二年六月十日ノ條ニ見ユ、

六日、丁未右近衛府眞手結、

〔中右記〕 五月六日、未時許參圓宗寺、○中略、圓宗寺御入講ノコトニカ、ル、本月七日ノ條ニ收ム、申時事了歸洛之間、右

天永二年五月五日 六日

近馬場見物者濟々、是騎射真手結也、

七日、戊辰、後三條天皇國忌、仍リテ、圓宗寺二御八講ヲ修ス、中宮、亦同寺法華堂二御經供養ヲ行ヒ給フ、

上卿藤原宗忠

〔殿曆〕五月七日、戊辰、天（晴之）、圓宗寺御八講始也、上卿新藤中納言宗忠、辨實光、

〔中右記〕五月三日、天晴、（中略）晚頭貫首尙書送消息云、圓宗寺御八講上卿可勤仕、是

院宣者、申承了由、件僧名早申定、院下知本寺、可廻請旨、下知右少辨了、是件行事

也、上卿不定申、只隨院御氣色、所請定來也、

五日、（中略）從今日圓宗寺御八講始也、可勤上卿之由有院宣、但依遠忌、今日許可催他上

卿之由、示頭辨了、先堂童子、圖書官人等任何可催之由、昨日示大外記許了、

後聞、（源顯運）皇后宮權大夫參圓宗寺行御八講、

六日、未時許參圓宗寺、先參常行堂、次參講堂、右少辨實光申萬事具之由、朝座講師定

圓律師、問者嚴勝、夕座講師定暹已講、問者良賀、申時事了、（中略）

七日、天晴、未時許參圓宗寺、先著講堂座令打鐘、朝座始、講師權律師經尋、問者珍源、

夕座講師已講長譽、問者明暹、共同寺之人如何、今日問者良賀也、而昨日已給其役、今

日不參也、依事可闕、以同寺人令勤仕、頗奇怪歟、院御誦經使木工頭俊賴朝臣、申剋許

夕座講師
問者共人
同寺誦經
院御誦經

講師
問者

行事
御八講始

御念佛結願導師
禎子内親
王及比善
子内親王
經供養

布施

奉幣日時

前齋

上卿源雅實

後齋

事了參常行堂、御念佛結願、入夜事了、御導師信譽、（右少辨取被物給也）抑今日堂童子、催明後日奉幣使也、（本月九日）猶以他人可催之由、召仰外記了、今日ハ是三條院御國忌也、仍中宮、（禎子内親王）前齋院、（禎子内親王）前齋宮、於法華堂、各有御經供養者、（同）八日、巳時許參圓宗寺、僧侶遲參、右少辨又不參、午時許人々參入、朝座講師已講兼禪、問者覺譽、夕座講師已講經賢、問者湛秀、呪願三禮已講定暹也、僧綱遲參之間、以已講二人令勤也、予以下上官等合八人、（維脫力）權都那師班輪、圖書官人取火蛇相從、堂童子入從北戸、給布施、事了未時歸洛、及申剋天陰雨脚下、

九日、（庚午）豐受大神宮蕃垣御門顛倒ノコトニ依リテ、二十二社ニ奉幣ス、

〔殿曆〕五月三日、甲子、及深更左少辨雅兼、覽奉幣定文日時返給、（源雅實）内大臣被定申也、

奉幣來九日云々、

七日、（晴之）戊辰、天（中略）明日前齋也、

九日、（庚午）天晴、今日伊勢奉幣也、依去大風伊勢外宮蕃垣御門顛倒、公家御慎重、仍

所被行奉幣也、上卿内府、

十日、（辛未）今日後齋也、

使定
臨時御祈

天永二年五月十日

三〇八

〔中右記〕廿二社奉幣使五月三日、天晴、○中今夕内大臣參仗座、被定申廿二社奉幣使畢、是依臨時

御祈也、

奉幣略○中今日有廿二社奉幣、是去四月九日大風、外宮門顛倒事、有御卜處、可有公家

御慎之故也、上卿内大臣、使宰相中將三人、行事藏人辨雅兼、

○豐受大神宮蕃垣御門ノ顛倒ヲ軒廊ニトスルコト、四月二十七日ノ條ニ見ユ、

十日、辛未法皇、攝政藤原忠實ノ病ニ依リ、忠實ヲシテ、藥師法及ビ尊

勝法ヲ修セシメ給フ、尋デ、忠實、賀茂社及ビ春日社詣ヲ延引ス、

〔殿曆〕四月廿八日、庚申、天晴、○中余今日定賀茂詣雜事、所勞猶不快、雖然定也、

五月一日、壬戌、天晴、今日春日詣定也、上達部一兩來、藤原家也右大將、大納言、藤原經實、左衛門

督、藤原能實、新藤中納言、宗忠、同忠教、宰相中將家政、

五日、丙寅、天晴、不出行、○中物詣料に始十二天供、沐浴如常、

六日、丁卯、今日天晴、陰、○中以知信物詣料事多奏了、

七日、戊辰、天、晴之○中今日五壇修法、依出各房、今日猶心地發、

八日、己巳、天晴、今日心地如昨日、見賀茂詣料馬等、猶雖不快、仍賀茂停止仰了、藤原

十日、辛未、今日後齋也、○本月九日而心地猶不快、仍依院仰始修法、藥師、尊勝、夜中

行使

賀茂詣定

春日詣定

物詣料
十二天供
ヲ始ム

五壇法ヲ
修ス

賀茂詣ヲ
停ム

修法ヲ始
ム

安倍泰長
ヲシテ占
セシム

法驗極リ
ナシ

藥師經讀

賀茂詣定
延引

許僧來、

十一日、壬申、天晴、心地猶不快、僧等多來、

十二日、癸酉、天晴、心地猶不快、每日發也、僧等多來、

十三日、甲戌、天陰、今日依院仰召僧等、渡邪氣加占之處、吉由申、泰長也、安倍

十四日、乙亥、天陰、心地猶發、

十五日、丙子、天晴、今日渡五壇法壇所、阿闍梨五人、中壇、寬慶降三世、勝豪阿闍梨軍荼利、

仁尊阿闍梨大威德、寬修阿闍梨金剛藥叉、季覺阿闍梨皆悉山僧也、辰剋許渡壇所、雖有其氣、山三寶并法

驗無極宜發了、申剋許還了、

十六日、丁丑、天晴、今日又向壇所如昨日、從昨日者猶宜、佛法驗實神妙也、申時許還

了、藥師經讀經、僧十口、

十七日、戊寅、天晴、今日向壇所、今日無其氣、佛法驗誠不可思議也、

十八日、己卯、天晴、陰、時々雨下、今日又渡壇所如常、今日無指事、

〔中右記〕四月五日、終日候殿下、被仰云、欲定賀茂詣雜事、仍新中納言、忠教右中辨

爲隆朝臣寵物忌也、而從昨日寅時聊以不例、大略咳病歟、仍後日欲定如何、予申云、以

後日被定、何事之候哉、

天永二年五月十日

三〇九

同定ヲ行フ

天永二年五月十日

三二〇

賀茂詣定、廿八日、庚申、早旦依召參殿下、左衛門督、新中納言參入、有御賀茂詣定、於東對東面被定、右少辨實光奉仰、先令勘日時、陰陽師二人、實光覽之、次依仰書定文、實光始書定文、東帶、右中辨爲隆依服、〇年未雜戲生、死ノ儀多々、不參仕替也、書畢覽之、一々見了、午時許退出、殿下日者頗不例御、昨日宜御也、著直衣給、出御、

春日詣定

五月一日、壬戌、天陰、時々小雨、〇中略未時許從殿下有召、則參入、直衣、被仰合云、今欲定春日詣事、而此所惱之後、猶時々不例無爽氣、但又非大事、爲之如何、予申云、猶令平復尋常御了後可候也、就中春日詣遠行三ヶ日之間、頗可有御用心也、如何、於賀茂詣者、依春日詣遠行也、猶可有御思慮事歟、但又可被仰合民部卿、如此大事、廣被仰合人々可宜歟、則以知信爲御使、被仰合民部卿、知信歸參申云、早々可令出立給也、是一之御祈也者、仍有其定、及秉燭出御東對東面、右大將、藤大納言、左衛門督、予、新中納言、宰相中將、皆直衣、右少辨實光依仰進日時勘文、來十九日、卯時者、次實光依參紙筆、書定文進覽、人々次第見之返上、下給實光了、入夜退出、

日時勘文

戌日定不可吉事今日戌日、如此神事定如何之由、予問光平之處、申云、被始神寶者、最可被忌也、而於神寶者、去年秋早被始被調了、於定計者不可被忌者、仍今日有此定也、

戌日神事定ノ可否

二日、天陰、小雨、入夜依召參殿下、御物詣事等被仰合也、四日、沙汰春日詣、賀茂詣事、依被仰合也、終日雨下、晚頭退出、

賀茂詣ヲ延引ス

九日、早旦從殿有召、則參入、被仰云、昨日夕方亂心地、頗不例、仍明後日賀茂詣事如何不思得者、申云、凡御不例氣分御者、如此御物詣事不可候之由、〔兼了〕前日申了、然而依院并民部卿申、有御物詣定、頗推事也、又々可令申院給、且又可被仰合民部卿也、民部卿則參入、又被申院處、已令出立給了、〇四月二十九日、今明指事不御者、只可令參詣給者、民部卿被申旨如此、朝間雨下、晚景天晴、午後退出、十日、朝從殿下給御消息云、昨日晚頭已發了、仍明日賀茂詣可延引由、所仰下也、又來十九日春日詣事如何者、只今參上可承之由、進御返事了、辰時許參殿下、民部卿被參也、被仰合人々、賀茂詣被止了、夕方殿下令發御也、晚頭退出、今夜々半御修法、御讀經還入、依奉幣、〇本月九日、一條參看、一日被渡他屋也、十一日、雖可有御賀茂詣、依不例御延引、

春日詣ヲ延引ス

今日令發御也、晚頭參入、來十九日春日詣延引之由、又被仰下了、十三日、參殿下、又令發御也、每日令發給也、晚頭退出、右大將以下人々多參仕、十四日、早旦參殿下、以仁和寺僧十口、一日被轉讀孔雀經、已令發御、晚頭退出、十五日、〇中略以僧十口、一日有法花經御讀經、又於寢殿、日者有五壇御修法、渡御彼壇所、終日加持、頗宜發御也、入夜退出、從今日以後、每日渡御五壇御修法壇所、

孔雀經ヲ轉讀ス
法華經ヲ讀

天永二年五月十日

三二一

藥師經ヲ
轉讀ス

佛事ノ驗
德

不空羅索
經讀經

千手經ヲ
轉讀ス

度會清時
服中參宮
罪ヲ議ス

天永二年五月十一日 十四日

三一三

十六日、殿下以僧十口、被轉讀藥師經云々、今日殿下又令發御者、
十七日、戊寅、朝間天晴、午後時々小雨、○中略及深更參籠殿下御物忌、今日渡五壇御修法
壇所、寢殿、奉加持間、已不令發給、佛事之驗德也、仍給御牛於中壇阿闍梨少僧都寬慶、
給餘壇阿闍梨於御衣、

今日又以興福寺僧、被始不空羅索經、

十八日、殿下御物忌間、又渡御五壇御修法、無餘分、不令發御也、而從北政所御方各給
御衣、今日又以千手院僧轉讀千手經、事了晚頭退出、

○忠實、病ノコト、四月四日及ビ本月十九日ノ條ニ、春日社詣ヲ延引スルコト、三
月十二日及ビ九月二十日ノ條ニ、春日社ニ詣ヅルコト、十二月十六日ノ條ニ、賀茂
社ニ詣ヅルコト、十月二十日ノ條ニ見ユ、

十一日、壬政、

〔中右記〕五月十一日、○中略今朝有政、治部卿著行定、

十四日、亥陣定、所充申文、位祿定及ビ賑給定、

〔中右記〕五月十四日、○中略入夜之間、依有催參內、有陣定、左大臣、右大將、右衛門
督、予、治部卿、左大辨、是伊勢外宮內人度會清時、以三月服身參宮事、明法博士勘申

罪狀事也、人々一同任勘文可被行之由申了、又有陣申文、所宛、位祿定、賑給定等、左府
所被申行也、

〔長秋記〕

中辨不候行申文奇怪事五月十四日、左府參內給、有申文事、雖然中辨不候行申文、奇怪事也、左

大辨行之、頭辨參院、時剋推移故也、被定位祿事、付頭辨被奏、辨未參間、左府問人々
無辨時位祿文付職事事云、無辨時位祿文、以誰人可奏哉、左大辨當辨奏由執申、他人々云、無辨時付職事奏事

由申之、大臣同之給、又有賑給定、右衛門權佐解官代兵庫頭邦家可入七條以南使、又件
西七條以南判官料檢非違使、其由召問大外記、申云、必不可用檢非違使者、雖然猶檢非
違使繁方入定文了、七條有市故、必定檢非違使之由、所被語仰也、

次右大將被申可定申文候由、左府可召由被仰、仍進文書、太神宮觸穢者參入罪名、同和罪名沙

汰間、按察申云、任大納言、○正月二十三後未候定、而最前定罪名事、稱有憚由退出、又忠教
著陣下吉書後更不可忌他事、○正月二十三後未候仗議、雖然定申之、左府尋問云、大納言成憚退出、貴下不

被憚如何、中納言答云、著陣下吉書後、更又不可忌者、賑給定文內覽間、左府退出給、
若有被仰事歟、可被返之由、含頭辨了、

後日左府仰云、罪名定間、忠教卿申旨尤有其理、縱雖可憚、非吾奉行、於他人沙汰成

天永二年五月十四日

三一三

賑給使

東大寺訴
申ス莊園
ノコト

賑給定文
内覽

憚、尤不得心事也者、

○東大寺、同寺領伊賀黒田莊ノコトヲ訴フルコト、二月是月ノ條ニ、同莊ノ文書ヲ上ルコト、十月十二日ノ條ニ見ユ、

十七日、戊寅、法皇、公家御祈トシテ、千僧御讀經ヲ法勝寺ニ行ハセラレ、之ニ臨マセ給フ、是日、大般若經御讀經アリ、

〔殿曆〕五月十七日、戊寅、天晴、○中今日於法勝寺有千僧御讀經、公家御祈也、上皇有御幸、辰剋許事始、申剋了有還御、

〔中右記〕五月五日、○中今日民部卿參仗座、被定申千僧御讀經、○下

十六日、○中入夜藏人少將送消息云、明日可被始御讀經也、而御物忌也、早今夕可參籠

者、明日雖可供奉御幸、已有指仰、仍申承了由、及深更參内、宿東廊方、宗成、宗能等相具、

千僧御讀經十七日、戊寅、朝間天晴、午後時々小雨、院有御幸法勝寺、爲公家御祈、被行千僧御讀經、仁王後聞、頭實行、藏人辨雅兼爲左右行事、御願趣頭辨仰之、右中將師時仰給度者之由、

件御讀經爲公家御慎、上皇所令行給也、仍又被相副院司行事、有總禮、公卿内大臣以下、一方殿上人、一方上官等、申時許事了還御、此間雨脚頻下、

仁王經
度者ヲ給
公家御慎
ニ依ル

始
定
御物忌

大般若經
御讀經始

導師
願
仁王經御
讀經

御齋會ニ
准ズ
導師

布施
還御

入夜始御前御讀經、大般若、九日、先令打鐘、出居右少將宗能著座、（藤原宗忠）予參上、僧侶具、應

覺爲御導師、藏人少將忠宗仰御願趣、事了退出、

卅日、天晴、○中今日御前御讀經結願、上卿治部卿、（藤原）○長秋記、結願ヲ

〔長秋記〕五月十七日、法勝寺千僧御讀經、仁王經、左右方行事辨之外、院司檢非違使等

依別仰所被加置也、左方頭辨實行朝臣、右方雅兼、金堂、（藤原）左方長實朝臣、東廊、朝臣、西廊、（藤原）朝臣、

朝臣、民部卿仰長實朝臣云、堂東西可引幔、御所後顯故也、即仰寺家令引之、又召行事辨仰

取在後查置座前著之事、（藤原）帶劍人解之、但取笏著座、置笏三拜、居取

云、今日儀可准御齋會者、内大臣以下著總禮座、（藤原）笏、取在後查置座前、著之退歸、上臈爲先、導師

隔人時御前不踰居事、（藤原）永緣大僧都、咒願大僧正增譽、行道了頭辨仰御願趣、（藤原）下官仰度者、（藤原）先觸、頭辨問下官云、

過御所前間可居否、下官答云、御所西向也、加之隔僧綱座、仍不可居者、事了行香、布

施等如恒、餘分七口云々、可加給布施之由有其仰、公家御布施等如恒、餘分指度緣、上

皇御加布施裏、（藤原）僧綱尙、紙裏也、申二剋還御、此間雨脚滂沱、

大極殿御讀經時取查置座前事、（藤原）後日左府仰云、被准御齋會者二省可參、而不參、不得心、又大極殿千僧御讀經時、行道

次給布施常事也、又總禮時參退共經座後由、雖在次第、近例亦如此、取查置座前故實

十九日、庚辰攝政藤原忠實、病ニ依リテ、法成寺五大堂ニ參籠シ、修法、
讀經ヲ行フ、

五壇法

寶藏ヲ開
見スヨリ御
院ヨリ使
アリ

〔殿曆〕五月十九日、庚辰、天陰、雨甚下、依召籠法成寺五大堂、卯時渡、女房同之、
(藤原忠實) 姫君不相具、中納言又同、今日於正面間加持如先々、五壇法皆渡之、無指事、

廿日、辛巳、天晴、今日無別事、每時渡邪氣、申剋許諸壇阿闍梨來會祈予、(藤原忠實) 其次開寶藏
見佛物、繪佛等也、今朝自院有御使、家司實親開寶藏、

廿一日、壬午、天晴、○中略今日同開寶藏見之、酉時許民部卿欲對面間、忿被退出了、同
(藤原明)

酉剋許僧等多會祈予、渡邪氣程也、仍民部卿被退出了、及秉燭雨下、

廿二日、癸未、天晴、今日於諸堂始祈、七日許也、院御使馬頭經忠來對面、開寶藏、少
々見物、申剋許諸壇阿闍梨來會祈予、心地大略復尋常、山三寶驗誠不可思議也、

廿三日、甲申、天晴、又陰、午後雨降、右大將、源大納言雅俊、右衛門督顯通來、法性
寺座主賢邇來、予對面、數剋後退出了、其後行日中時、○中略明後日物忌也、還高陽院事
不定也、召陰陽師、

廿四日、乙酉、天陰、雨不降、巳時許日中時、其次五壇番僧ニ給布裝束、中壇番僧六
人、次々四人也、裝束廿二具、以知信奏院、明日退出止了、諸堂修理事、致其沙汰、

諸堂修理
ノ沙汰

心地大略
尋常ニ復
ス

忠實物忌

廿五日、丙戌、不出行、有御守依物忌也、(寺カ)心地猶不快、

廿六日、丁亥、今日同昨日、

廿七日、戊子、今日同昨日、

廿八日、己丑、今日同昨日、

廿九日、庚寅、今日灌佛圖繪諸壇僧等祈予、大威德、賴延、不動、寬慶同、五壇外也、

卅日、辛卯、天晴、今日出御寺、今曉物氣退却了、巳剋許出御寺、女房同之、還高陽院、

巳剋許日中時、諸加持、其次中壇寬慶僧都給馬、修法明日結願也、雖然今日給之、又賴
延ニ給裝束、五壇阿闍梨給衣袈裟、

高陽院ニ
還ル

修法結願

〔中右記〕五月十九日、庚辰、卯剋殿下令籠法成寺五大堂給、予并新中納言忠、(藤原忠實) 候御共、

無動寺僧都被候御車後、下御東面中大門、女房車寄御堂後、西庇爲御所、東庇爲人々參
所、北庇爲藏人所、異角爲、五壇御修法渡此御堂、又藥師御修法被渡藥師堂、不空羅索經
御讀經被渡、大般若御讀經被始行、僧六巳時許退出、

廿七日、天晴、午時許參法成寺、而殿下御物忌也、仍於他御堂、以知信令申案内、有被

仰事等、○中略、法勝寺三十講ノコトニカ
カ、本月二十一日ノ條ニ收ム、及深更參籠殿下御物忌、仍宿西北院廊也、

廿八日、參五大堂、見參殿下、被仰云、此間大略不發也、但時々猶不尋常者、○中略午後

藥師法
不空羅索
經讀經

大般若經
讀經

雨下、

廿九日、庚寅、天陰、雨下、巳時許參法成寺、午後歸、

卅日、天晴、殿下自法成寺五大堂出御、辰刻許參彼寺、先五壇御修法、日中之時行了、有御加持、民部卿被參、則退出、

寬慶ニ馬ヲ給フ

御馬一疋給中壇阿闍梨寬慶僧都、御隨身奉御馬數、次有御修經、御前庭立案、置御誦經物於中尊前、

御誦經導師阿闍梨任尊、事了給布施、則出御東面中大門、予、新中納言忠、連車扈從、次女房御車、又有前駟、從中御門西行、著御賀陽院、巳時許退出、

修法讀經 結願

於御修法、御讀經者、明日於此寺可被結願者、

○法皇、忠實ノ病ニ依リ、忠實ヲシテ、藥師法等ヲ修セシメ給フコト、本月十日ノ條ニ、忠實、病ニ依リテ、右大臣ヲ辭センコトヲ、藤原宗忠ニ諮ルコト、六月四日ノ條ニ見ユ、

二十一日、壬午、法皇、法勝寺ニ御幸アリテ、同寺阿彌陀堂ニ於テ、三十講ヲ行ハセ給フ、尋デ、再ビ同寺ニ御幸アリ、

十學生ヲ以テ三十講ヲ行ハシム

〔殿曆〕五月廿一日、壬午、天晴、今日法勝寺行幸、以十學生被行三十講、始日也、仍有御幸、上達部直衣、殿上人衣冠云々、御幸辰刻、還御秉燭云々、藤原宗忠中納言遲參、内々に

結願

始

十學生及ビ學頭

五卷日

出仕ノ公卿

奏事由也、

廿三日、甲申、天晴、又陰、午後雨降、○中廿六日法勝寺有御幸云々、上達部東帶云々、仍中納言令出立、但件日物忌、仍思量事也、明後日物忌也、

六月三日、甲午、天陰、雨降、微雨、今日不出行、今日法勝寺三十講了、上達部東帶云々、

〔中右記〕

白河卅講始

五月廿一日、壬午、今朝上皇有御幸法勝寺、於阿彌陀堂被行卅講、是以本十學生、被行件講說云々、興福寺十人、延曆寺十人、各有所學頭二人、有所勞不參仕間、不能委記、

廿二日、院主典代行重來催云、卅講五卷日當來廿六日、件日著東帶可參仕、又可奉袈裟一帖者、

法勝寺卅講五卷日御幸

廿六日、天晴、依卅講五卷日、上皇有御幸法勝寺、從去廿一日朝夕兩座定、五卷當明日也、而依御物忌、此間一日中被行三座、今日被宛五卷也、仍已時著東帶參院御所、從去十九日有所惱、今日相扶出仕也、則出御北御門方、源雅實内大臣以下出仕之諸卿十七人、

殿上人五十人許、皆東帶前駟、經萬利小路、二條大路、入御自彼寺西面南小門、寄御車於阿彌陀堂南面廊、其後諸卿著座、源俊明内大臣、藤原宗忠民部卿、藤原實家被參御寺也、藤原實家右大將、藤原實家藤大納言、源大納言源大納言、藤原宗忠左衛門督、源俊通藤中納言、藤原宗忠右衛門督、源俊通予、藤原宗忠治部卿、藤原宗忠新中納言、源俊通別當、藤原宗忠右宰相中

將、源顯雅顯、藤原宗忠左宰相中將、藤原實家家、藤原實家左大辨、藤原實家大貳、藤原實家新宰相中將、藤原實家實、藤原實家僧侶參上著座、興福寺、延曆寺、蘭城寺十學生、合卅人、白衣

朝座

論談自ラ
相論ニ及

夕座
佛法中興
ノ秋

指貫、甲袈裟、此外權大僧都永祿、權少僧都公伊、權律師永清、定圓、學頭、經尋、學頭、已講定教、學頭、長譽、覺殿、定通、覺基、忠尋、學頭、三井寺學頭禪仁不召、是依有故也、凡僧良質、賴心、學頭、湛秀被召加也、指貫、表衣、大袈裟、被宛唯識第一二卷、玄義上五卷、阿彌陀堂東庇南一二間懸御簾爲御所、同正面以北爲諸卿座、佛前立禮盤二脚、其左右立高座、東簀子敷堂童子座、衆僧座、從佛面南爲僧綱以下座、佛面以北爲十學生座、大略如法成寺御八講座也、朝座始、十學生奉爲講師問者、堂童子殿上五位四人分花宮、諸僧行道三匝、次薪持、籠持、水桶持、六位、內大臣以下取袈裟、皆以相從、公卿殿上人依催進數、三廻了置佛前、各著本座、說法了、問者二人論難之間、僧綱已講能談、其儀自及相論歟、事了僧侶起座、

有仰始夕座、問者二人、申剋事了、寄御車、還御之後、人々分散、

凡誠ニ大學堂也、自他宗名德每日並肩論談、誠是佛法中興之秋也、諸卿每日直衣被參仕者、

廿七日、天晴、午時許參法成寺、○中次參法勝寺、今日三座被行、每座問者二人、諸僧白小袈裟、但講讀師許著甲袈裟、堂童子、御堂預等勤之、內大臣以下公卿九人參入、直衣、殿上人或衣冠、或直衣、論談之間、經尋律師與忠尋已講、頗以相論、申剋事了歸家、六月一日、壬辰、朝間天晴、參法勝寺卅講、直衣、源大納言以下公卿十人、院殿上人十餘人參入、朝夕兩座、問者各二人、申剋事了退出、雨脚殊甚、

結願

布施

御幸ナシ

出御

學頭ヲ補
ス

學頭學生
ヲ奉ヒテ
參入ス

講師
問者

普賢延命
像并壽命
經供養

三日、甲午、未剋參法勝寺、日者所被修之卅講結願也、民部卿以下公卿十餘人、院殿上人濟々參入、公卿或直衣、或束帶、
有陣定之故也、
○六月三日、
ハ修參者、朝夕兩座、問者各二人、僧侶裝束如堂童子、院殿上五位、
四人衣冠也、事畢僧綱五人布施、參議三人、殿上々藹四位二人取之、凡僧布施殿上人、申剋事了、十三ヶ日被行也、
仍式日三座相加、

〔長秋記〕

法勝寺卅講始日也、有御幸、辰剋著衣冠參大炊殿、已剋出御、

內大臣以下上達部直衣、殿上人衣冠、堂童子殿上、
人四人束帶、於阿彌陀堂有此事、自去年春比被補學頭、興福寺經尋、定圓、延曆寺定豪、
忠尋、園城寺禪仁、賴心等也、隨身五人學生、名勸學衆而期來、自今日被始卅講、學頭外僧綱、已講、凡僧可然者、稱證義者、應召參仕輩、有十餘人、御幸後各學頭率學生參入、學生著平袈裟五條、學頭并先達等著
甲袈裟、但經學生於講師者甲袈裟也、學頭證義者等廻南面著佛前座、學生廻北著佛前座、正無量、面間南北立高座、講師前置御經、義經、讀師前無御經、忽召寺家被置也、量義經、御所在南廂東妻二間、上達部群居北廂、（兼）此間長實朝臣仰上達部云、可參御前座者、仍著南廂座、講師登高座、堂童子分花宮、僧等行道、廻佛、說法論義、問者二人、前達等各論義、講師山快意、問三井寺豪譽、同靜賢、事了僧退出、快意所作衆舉感之、夕座讀師前撤無量義經、置法花經一卷、講師豪譽、問快意、興福寺隆豪、事了僧等退出、（兼）次惟信朝臣御祈造進等身普賢延命催、（兼）壽命經一千卷可有供養、仍於此御堂北廂、自中央間以
南北面引幔、有僧膳事、御

天永二年五月二十一日

三三二

導師
御卷數ヲ
上ル
布施
還御

導師經尋律師、并卅講衆之中廿口爲題名僧著饗座、導師北面、餘僧西面、事了僧等經堂北面參御前、堂童子如前、說法後廿口僧轉讀萬卷、奉御卷數、次賜布施、導師被物宰相中將顯雅取、餘布施殿上人取之、次還御、

延曆寺十學生

略

快意 嚴順 永親 教延 陽慶 覺耀 行澄 尊珍 兼實 尋順 件尋順非本說、故何者、本說源緣訴興福寺湛秀、參前達之

學頭 定豪已講 忠尋已講

興福寺十學生

興福寺十學生

隆豪 行稱 覺證 濟圓 眞義 有覺 善尊 賢仁 尊繼 賢智

學頭 經尋律師 定圓律師

園城寺十學生

園城寺十學生

豪譽 靜賢 念範 宗嚴 朝圓 慶基 快昭 念賢 嚴增 算圓

學頭 禪仁已講 賴尋阿闍梨

證義者

證義者

權大僧都永緣 權少僧都公伊 權律師永清 初日不參、自第 二日始蒙催參仕、 已講長譽 定暹 覺嚴 覺基

五卷日

阿闍梨覺心 凡僧良賀 湛秀、

今日藏人仰云、講間每日可參者、

法勝寺卅講五卷日事

廿六日、法勝寺卅講五卷日也、有御幸、別當候御後、朝座行道有捧物、依兼日催、人々皆相具袈裟一帖、左府仰

獻給何事候哉、先僧取花筥、行道、次上達部殿上人持袈裟、次持薪藏人、行道三迴後、上達部殿

上人置袈裟於佛前東廂、先之長實朝臣承仰令鋪筵一枚、殿上人欲廻北、而民部卿仰渡御

前、可出自西之由、仍從之、於上達部置之、經座前著座、殿上人置之、渡御前間跪、持

袈裟渡間、雖欲居有仰不居、行道路南西廂、北東簷也、上達部殿上人捧物、五帖袈裟 付梅枝、院廳

袈裟卅六帖、依仰取置御前、今日人々皆束帶、

還御、○下

御願文擬作

〔江都督納言願文集〕

一 帝皇 院卅講御願文 ○目錄ニ白河院三 十講擬作トアリ、

蓋聞、佛種從緣起、仰蓮眼於百界千如之風、法花以喻開、望萌芽於三草二木之雨、大乘之力不可思量者歟、伏惟、政化累年、昔恨五德之弗逮、觀行有日、今歎六根淨之難淨、方今聖上富春秋也、唯任杼軸於我、賢相越姬霍、也腕力猶委權衡於吾、出世非出世、便是三觀之道也、人望非人望力入非空、豈不二諦之門哉、爰三合閏餘之翌年、○元年八月八日、條參看、國多災變、一實眞如之東日、將除禳妖、仍囑僧侶、修此善根、時欲暮、鶯花三月之天、道在人弘、佛法再昌之

三合閏餘
災變多シ

天永二年五月二十一日

三三三

天永二年五月二十一日

三二四

地、神仙神列座、訪以句曲之舊遊、薜蘿接襟、如逢祇陀之昔會、以此善根、先聖上、年復年、經億年兆年之涼燠、日復日、照堯日舜日之光景、更以功德、資于朕身、東方之棗、獻萬八千年之算、西土之蓮、除八十億劫之罪、々障已盡、壽命必延、誓願有限、福祐不疑、金屋之后、黃閣之臣、上從紫綬、下至綠紱、依此一善、全彼四體、削死籍付生籍、以窮運爲通達、國罷白馬之持、戶誇赤鳥之驗、尙塵之塵、留尺氏之教、知天之天、期蒼生之祖、乃至法界衆生平等利益、敬白、

天永二年三月日

〔願文集〕

四 三十講擬作

蓋聞、十界利九佛界、被百界千女之上、四教遍三圓教、出權教戲論之右、佛法之德冠絕宇宙者歟、伏惟、昔則正北辰之位、政〔花カ〕未周、今亦遂白雲之鄉、去來不定、聖主未冠、唯訪萬機、賢相負宸、猶問二柄、令彼海內之政、委此塵外之身、爰齡同伯玉之非、跡入釋氏之門、驚世間變異、恐生涯遼迤、始自二年五月吉曜良辰、拂鴈塔而引龍象、崇一乘而修三十講、振南北之〔舟カ〕□□、飛羽檄於彼八陣、擊權實之蒙泉、決狐疑於斯四門、究竟大乘之輪轅、轉王母之雲、本跡二門之關鑰、闕上仙之風、嘔四十口之蕊蕊、限十三日之光陰、以祈二世、以救四生、王公從事、引紫綬而垂金章、香花盡美、含雞舌而張鳳翼、以

此功德、先資聖上、仙齡無限、獻地中之黃子、寶算不量、致天上之金人、又以功德、殊祈朕身、與日月共懸、而經三祇劫、與佛聖同覺、而得到神境、后宮相府、百官萬國、潤一味皆得生長、帶五智風、悉誇休祥、鑄劍戟而作農器、退藥石而忘病床、虞夏商之俗、止狡兔之三穴、狎禽滑鼈之徒、晒公班之九機、乃至法界平等利益、敬白、

天永二年三月日

〔伊呂波字類抄〕

二 諸寺保

法勝寺 天永二年始被行三十講、

〔東寺王代記〕

鳥羽院 二 〔天水〕

置三十講于法勝寺、本尊仙院御等身金色大日如來、有御願

文、

〔柳原家記錄〕

百二十三 正法務

長者 權法務等補任 諸戒壇院事

一、法勝寺三十講 天永二五廿一始之、

○師光年中行事、元亨釋書、興福寺略年代記、異事ナキヲ以テ略ス、

攝政藤原忠實ノ病ニ依リテ、最勝講ヲ延引ス、

〔中右記〕

五月廿一日、

〔壬午〕

○中略 今日可被行最勝講之由、前日雖有其儀、

〔藤原忠實〕 執柄御不例、仍

不令參內給間、不可僧名定延引、於里亭被定僧名事、無其例之故也、

○忠實、病ニ依リテ、法成寺五大堂ニ參籠スルコト、本月十九日ノ條ニ、最勝講ヲ

追行スルコト、八月二十三日ノ條ニ見ユ、

天永二年五月二十一日

三二五

犯人ハ藤原長實ノ雑色

左衛門尉頼則、姓闕權大納言藤原宗通ノ舍人ヲ殺害セル犯人ヲ捕フ、

〔長秋記〕 五月廿一日、○中 或人云、按察大納言舍人爲長實朝臣雜色被害、而左衛門尉頼則搦之、其間件犯人蒙疵云々、

二十三日、甲攝政藤原忠實ヲシテ、隨身ヲ進メシム、

〔殿曆〕 五月廿三日、甲申、天晴、又陰、午後雨降、○中 巳時許從内瀧口來云、隨身一兩可進、御馬御覽料也、男共一兩參了、

二十四日、乙陣定、

〔長秋記〕 五月廿四日、陣定、八幡所司殺雖勘罪名未決斷、勘決後可有裁許由定申、

石清水八幡宮所司殺害罪名勘申座ニ著スル作法

觸上藤著陣座事尋申左府云、上藤著陣座間、不觸直著座、何程人所爲哉、仰云、大納言以上可然、中納言以下觸著之、謂上藤大臣事歟、但雖下藤被引上藤著時不觸著也、

二十五日、丙大神宮御衾ノコト等ヲ軒廊ニトス、尋デ、怪異ニ依リテ、大神宮ニ奉幣ス、

〔中右記〕 軒廊御下五月廿五日、○中 今夕内大臣被行軒廊御下、是伊勢神宮御衾事、又治部卿行軒廊御下、齋院中蛇出來死事者、

齋院中蛇死ス奉幣日時

六月一日、壬辰、朝間天晴、○中 今夕右大將被定申伊勢奉幣日時、

宣命

六月五日、○中 今日有奉幣伊勢、是依彼宮怪異也、上卿右大將、行事藏人辨云々、

〔殿曆〕 六月五日、丙申、天陰、雨降、○中 今日奉幣也、伊勢、内記宣命草持來、清書免了、

供奉ノ公卿

皇后、阿波守藤原忠長ノ三條第ヨリ、内裏ニ還啓アリ、

〔中右記〕 五月廿五日、夜皇后宮從三條忠長宅令入内給、公卿八九人參仕云々、入從東陣、以

〔長秋記〕 五月廿五日、皇后宮入内、宰相中將三人源賴朝、藤原家政、同實隆供奉、

○皇后、御惱ニ依リテ、忠長ノ三條第ニ行啓ノコト、三月十八日ノ條ニ、忠長ヲ從四位下ニ敍スルコト、本月二十九日ノ條ニ見ユ、

二十九日、庚寅、位記請印、復任除目、是日、阿波守藤原忠長ヲ從四位下ニ敍ス、

〔中右記〕 臨時敍位并復任除目五月廿九日、庚寅、天陰、雨下、○中 晚頭依頭辨催參内、著陣座、頭辨來仰云、

皇后忠長第行啓賞

左兵衛佐藤原忠長可敍從四位下、是皇后宮行啓彼宅賞者、予奉仰著端座、以官人令敷膝突、源重實左大辨今間參入在座、予召外記仰可獻硯并紙之由、則外記持來置左大辨座前、予命左大辨令書敍位、召外記宮入敍位、付頭辨令内覽、奏聞之次、今夜位記請印、復任除目可

天永二年五月二十九日

三二八

位記三十餘通

藤原忠通從二位々々記請印

復任除目

除目書樣

行之由令申、件二箇條、外記、頭辨歸來云、聞食了、殿下御于法成寺、召內記周衡、下給敍位了、見九日、間馳參駟、乍入宮、次召外記問諸司參否、位記請印并復任、除目緣事諸司也、申皆參了由、次召內記仰可進位記之由、少內記周衡入位記卅餘通於宮副本、持來、一々見了、令內記內覽、則歸來云、早可請印、但又々不可內覽奏聞、及深更之上、只今雨脚殊甚者、令內記引留本宣旨等、內記退、予仰云、近衛司七、將監某丸候小庭、仰云、印天、稱唯歸入了、此間掃部立案、依兩立砌、中北面、主鈴少納言宗兼、近衛將監等列立案下、主鈴置印、仰云、中務省七、輔有障不參、仍召儲右少將宗能朝臣、宗能稱唯、來膝突、給位記管、宗能置案上一々披之、少納言宗兼請印、此中宗能朝臣、宗能稱唯、來膝突、給位記管、宗能置案上一々披之、中納言從二位位、加入本宣旨、返給少內記周衡畢、周衡取位記管歸入、先內次留本宣旨、付御所奏覽、次請印、又內覽、分入公卿位記於別管、又付御所奏覽、返給之後、可返給內記也、然而依殿下仰、省略作法也、復任除目次行復任除目、先召外記令進勘文、外記入宮持來、披見之處有三通、可復任者、文官一通、以外記令內覽、歸來云、早可行者、但又不可內覽奏者、付御所雖可奏聞、依幼主御時、給外國勘文於左大辨、令書除目、用折、太政官謹奏

遠江國

守從五位下源朝臣基俊

備中國

權介從四位上源朝臣顯國

天永二年五月廿九日

書樣如此

左大辨書畢、相具本勘文持來、披見畢入本勘文於宮、先勘文等內覽、次付御所奏聞、又書外國除之、召外記問二省參否、申參之由、先仰可召式部省之由、外記三度申如例、式部丞著靴立小庭、仰云、末宇古、式部丞來膝突、給外任除目了、式部丞立本所、仰云、末介給、稱唯歸入了、又召外記、仰可召二省之由、式部、兵部丞淺履、立小庭、仰云、式部省七、式部丞來、給文官勘文、次仰云、兵部省七、兵部丞來、給武官勘文、各歸入、予召外記返給宮入外任、之次、取重硯管歸入了、予退出、于時及亥四點、近代勘文之可字、不削下給爲善也、二省不參時、令外記封引墨返給、外記追可給二省者、下勘文之度、二省丞著淺履、直進膝突了、入夜時、先立小庭、隨上卿召、進寄膝突之由、大外記師中願、遠所談也、今夜左大辨申上云、外任除日本有尻付、是復任又有兼字、予此事不知、復任除目ニハ無尻付由所存也、但依不審、尋問大外記之處、春秋大除目中、

復任除目尻付有無

天永二年五月二十九日

三二九

天永二年五月二十九日

三三〇

位記請印
復任除目
同日行ハ
ル、例

載復任者時有尻付、復任者如此時、臨時被行之時、先々無尻付、兼字者如予案、仍又問左大辨之處、（大江原房）江帥次第并故兵衛督次第有尻付、仍存件旨也、但付大外記申止尻付了者、（云カ）後日左大辨者、復任除目ニ舊有兼字、又位記請印、復任除目、同日被行之條、問大外記師遠之處、申云、去長治三年三月廿八日、復任除目、内文共被行者、（嘉承元年三月二日十八日ノ條參看）仍今日共行了、

裏書云、

敍位尻付
ナシ

今夜敍位無尻付、情思此事、可有尻付也、臨時除目ニハ無尻付、敍位ニハ可有尻付歟、（已上）裏書、

〔上卿故實〕

（卅二）同時行公事事

天永二五廿九、權中納言宗忠卿參陣被行除目、次位記請印、復任除目可行之由、以頭辨實行朝臣申攝政、蒙許之後、先行位記請印、次行復任除目、

○皇后、忠長ノ三條第ヨリ、内裏ニ還啓ノコト、本月二十五日ノ條ニ見ユ、

六月 大盡 壬辰朔

一日、（壬辰）法皇、民部卿源俊明ヲ御使トシテ、權中納言藤原忠通取掣ノコトヲ攝政藤原忠實ニ諮ラシメ給フ、

〔殿曆〕

六月一日、壬辰、天晴、不出行、（原俊明）民部卿從院爲御使來、（中納言忠通取掣間事也、七月有忌云々、十月兩月

之間可被用何月哉、予申云、七月例能可被尋候也、民部卿歸參入、

五日、丙申、天陰、雨降、今日不出行、新藤中納言宗忠自院於御使來、中納言事、（中）此

外無別事、

六日、丁酉、天晴、新藤中納言宗忠於御使來、中納言忠通可令取掣給之由有御定、日來無一定、而來廿一日由被仰也、昨日大略承之、仍始祈等、（不動供、愛染王、如意輪、不容羅索、星供二壇、皆供也、造佛三牀始之、愛

染王、不動、不容羅索等也、又於春日御社、仁王講等也、

十一日、壬寅、天晴、辰刻記新藤中納言來、陰陽師（安徳）泰長同召前、來月廿一日中納言院御執掣也、仍中納言裝束可調日次尋之、申云、今日吉也、仍件物等絹綿糸等也、以紀伊守實親、送中納言宗忠卿之許令調、件卿妻子皆悉無障人也、仍仰下了、件實親又同、妻吉人也、

十五日、丙午、天陰、今日雨降、（申廻許也、中略）爲院御使新藤中納言宗忠卿來、中將參院間雜事

天永二年六月一日

三三一

法皇藤原
宗忠ヲ御
使トシテ
忠實ヲ訪
フハシメ
メ給
法皇日時
ヲ定メ給
フ
忠實祈禱
ヲ始ム
同陰陽師
ニ忠通裝
束ヲ問フ
宗忠ヲシ
テ調製セ

天永二年六月一日

三三二

也、事趣大略令奏了、件人兩參仕也、

穢中沙汰
ノ可否

十六日、丁未、天陰、雨降、藤中納言宗忠、自院於御使來、中納言令執掣給雜事、穢氣

法皇延引
アリ御氣色

内○本月十一日ノ條參看、有沙汰之條如何、人々申云、穢以前被初物不可有憚、以吉日被初物等、滿穢之後被始、何事候乎、江中納言、民部卿、陰陽師申旨如此、予申云、人々申旨尤可然、々者可候其定、退又引見日記、可奏候由可被奏者、戊剋許藤中納言送消息云、延引儀歟、御氣色如此御氣に所見也、

十七日、戊申、天陰、雨甚降、今朝藤中納言來云、昨日猶不得心思食、予勘申云、長保元年九月八日大内有穢也、而廿五日有入内定、上東門院入内定也、御返事云、吉例也、付此例不可延引、民部卿來有此沙汰、今日依物忌不出行、依院仰招民部卿、中納言事可示合者、仍招民部卿示合、被示云、十月吉日無思可被吉也、但予所勘申例吉例也、然者可隨御定、

忠實法皇
ノ仰ニ依
ヲテ日時
ヲリテ明ニ
諮ル

廿二日、癸丑、天陰、雨甚降、○中中納言須於高陽院服也、而予爲攝政、是同帝王、依其恐於他所令服之、但未尋先例、仍不審也、

廿六日、丁巳、天晴、○中自院有御〔使脱カ〕藤原朝臣、未剋許召春日神主經房間食鹿忌、經房申云、冊日者、又申云、如蒜忌五十日者、酉剋許中納言服鹿、先奏院之後服之、召問春日神主、依中納言服藥也

忠通ノ祈

廿七日、戊午、天晴、中納言祈、藥師法、同讀經、但於中堂行之、有驗僧六口

七月七日、戊辰、天晴、○中右衛門尉宗實、自院於御使度々來、

八日、己巳、天晴、酉剋許參院、

九日、庚午、天晴、已剋許參御前、即參院、依召參御前、頃之退出、

十三日、甲戌、天晴、○中於御使自院右衛門尉宗實來、

八月六日、丙申、天晴、卯時許參院、依召參御前、數剋之後退出、中納言同參入、

十二日、壬寅、天晴、陰、雨下、○中中納言料如意輪法、阿闍梨行勝僧都、件人勤仕内御修法、雖然密々令修也、件中納言料、來十月可參院也、仍爲無障始之也、

〔中右記〕六月五日、○中午時許從院有召、但馬守家保送消息、則馳參、近召御前、久不進龍顏前、

恐悅相半也、被仰云、攝政有所勞不出仕間、不審事等甚多、汝行向可達子細也、先中納言中將經營事、七月廿一日與十月二日吉之由、陰陽師所申也、泰長、光平而七月、牽牛、織女會合之月、頗有其憚之由光平申、泰長申云、件事文書之中無所見、不可被忌、又問光

平處、申云、雖不見文書、又我祖父有憚之由所書置也者、又問七月例處、一條院女御〔藤原〕義子、七月、〔藤原〕昭子女御、七月入〔藤原〕東宮、當時權中納言仲實卿、七月通爲房、〔藤原〕師隆、七月通〔藤原〕賴國女、〔藤原〕爲房女、如此

例甚多、但又光平申云、今月、七月有五皇忌、件忌世俗常不用、件事何様ニ可在事哉、

忠實忠通
ノ爲メニ
修法

陰陽師勤
申ノ吉日

天永二年六月一日

三三三

可量申者、○中略

件條々之事、傳攝政可申返事者、

則參賀陽院、雖御物忌、有召參御出居、一々傳申仰旨、御返事云、先七月、十月之間事

等、只早々可候也、於七月者無指文書忌者、何事之有哉、就中已有例故也、如此之事、

早可候也、遲々頗有恐事也、○中略

申時許歸參院、申件事等、一々聞食了、思食定追可被仰者、晚頭退出、此間雨脚殊甚、

六日、丁酉、早旦參殿下、申院御返事了、○中略申時許、只今可參入由有院宣、大貳、則又馳

參、召御前、被仰云、彼事七月廿一日一定也、仍今日々次宜、一定之由、早可仰攝政、

但如此大事爲必遂、去三日始祈始了、愛染王法、不動法、寬助法印又其方ニモ祈可始者、但萬事來十一

日可沙汰始、居所未有一定、思量可申者、則參殿下、申院宣了、仰云、先件事無一定、

日間鬱々思給之處、已一定之由承之、心中大慶之由可奏、於祈者今日如小供始候、臨彼

期又如修法可始者、居所之條、可被尋告事者、參院申了、次參殿下、召泰長被問事始

日、同十一日吉日之由所申也、入夜歸家了、此間之事、大貳顯季被仰付也、是如此事、無其憚人者、件由院被仰、仍申殿下了、

院御氣色、此事誠入御意事、尤丁寧也、

十一日、壬寅、早旦從殿有召、下脱力則馳參、被仰云、彼經營事、今日依吉日可沙汰始、仍召泰

經營所

長、於御前被問日時、今日巳午未時共吉時也者、仍如御裝束物具等、藤原宗忠給下官家可令染

色、是無其憚者也、以紀伊守實親如絹絲及給也、仍以女房等沙汰始、

又爲御使參院、今日事始之由也、召御前被仰云、今日皆院重被始了、如車被作始者、

今日可作始車之事、光平撰申者、泰長頗不承歟、其次件御經營所事被仰云、子細只今又以民部卿可被仰者、歸參殿下、

申御返事了、午時歸家、此間民部卿已被參了、

十二日、早旦從院有召、則馳參、被仰云、早行向攝政許可傳也、大炊殿皇居之間、度、下カ

下人頓滅、仍主上渡御他所了、○二月二十三然而猶又占經營所、昨日遣家保朝臣處、下人又

頓死、彌怖畏思食、然者西六條如何、思量可申子細者、但今日依御物忌、入從北小門、

於北面方、以伊豫守基隆朝臣、所被傳仰也、參殿下申院宣、御返事云、承候了、於大炊

殿者、全不可候、但於西六條者、前日當忌方之由、仰事候如何、又參院申件旨之處、仰

云、打丈尺之處、寢殿一字不當也、又歸參殿下申此旨、御返事云、一町家中寢殿一字不

當禁忌方、其外雖當、先例如此事候哉如何、能々可被尋問者、又參院奏之處、遣召光

平、泰長可問者、則遣召了、皆以參入、被尋問之處、件二人申云、如此吉所、只先以寢

殿宛吉方、他所不沙汰者、六條殿寢殿、從中納言中將居所當吉方之上、從姬君御所又無禁

忌、尤宜之由所申也、仍一定、以六條爲其所、如御簾又凡今日始沙汰之由、可傳攝政者、

經營所
占セシム

又參賀陽院申仰旨、御返事云、當吉方者、六條殿尤吉候者、參院奏件旨、午時許退出了、件穢及七月十日也、

十五日、早旦從院有召、基隆告送也、則馳參、近召御前、被仰云、彼六條經營未一定也、其後與攝政可同宿議無所便、猶上渡可然之所可被占歟、早此旨可傳攝政也、○中依此沙汰三箇度往反、晚頭屈了歸家也、入夜雨下、

十六日、朝間大雨、早旦參一條殿之間、申剋許從院有召、顯輔告送也、則馳歸、著直衣參入、召御前、被仰云、此經營穢中沙汰、萬事頗依憚思、問民部卿、前帥并光平之處、申云、穢以前於沙汰始事有何憚哉、但穢中若有可被始事者、尤可忌者、而來廿四日欲作始帳、仍穢以後十五日々次宜者、又女御裝束未被始、件十五日以後纔六ヶ日之間、萬事難出來、爲之如何、又光平猶七月之條、有不免之氣、無思十月二日如何、可量申之由、可傳攝政者、又本大炊殿地西洞院也、壞渡此大炊殿如何、此間同可仰者、則參攝政殿、雖御物忌召御前、傳申院宣之處、先件事如人々申、於被始事者不可忌、但如帳裝束、穢以後被始天可出來者、猶不可延、如此大事延引、甚無由候事也、不可出來者、非此限歟、抑於七月者、取我身吉月也、任大臣、奉攝政、共七月也、仍七月之條、本如令申不可忌者、又於本大炊殿地者、先年不例之時、爲祈放他人之所也、仍頗我身居住之條、憚思給者、此間

入夜雨脚殊甚、歸參院、召此北面方、奏件旨之處、被仰云、猶穢中沙汰不心行也、就中如裝束難出來、

又借思食ニ可作始帳事、七月十五日也、件日天下無他事、頗有憚日也、重問光平可被仰也、又且吉事沙汰之間、有世間穢例、可被尋申者、大炊本地之事、尤可然者、及深更之上、大雨之間、不能重參、以消息申殿下、了所歸家也、

十七日、朝間天陰、雨下、早旦從院有召、則馳參、雖御物忌、依召參御前、被仰云、此經營穢中沙汰、猶可無便之由人々多申、又延引之條不思得、重行向攝政許可云合、且又可議合民部卿者、則參賀陽院、又雖御物忌、有召申此、民部卿被招、則被參、以院宣旨被仰合處、被申云、穢中萬事沙汰頗有憚、早延今度、來十月二日吉日者、件日可被遂者、殿下被仰云、今朝披見御堂御記之處、去長保元年九月八日、皇居一條院宿所之下有死人、七八歲許小兒犬嚙入也、所々破損、仍可爲卅日穢之由被定了、

上東門院入內定、上東門院御事也、是、十一月一日初入內、年十、次年二月廿五日立爲中宮、同廿五月初有入內定、穢中被定件事也、是上東門院爲一家、爲天下大吉例也、件入內事、穢中有件定也、此事叶今度也、早以此旨可奏院者、午時許歸參院、見參之次奏長保例、但又民部卿被申旨同奏了、仰云、日者全不知此例、仍所借思食也、如此舊記、相叶今日、尤有興事也、然者只七月廿一日

經營延引

可相營也、但猶始作帳事許、過穢氣來月十六日可始也、於十五日者猶盆日也、件十六日吉日之由、泰長所申也者、又歸參殿下、申件旨了、十九日、○中略入夜參殿下、被仰云、被經營延引之由、今朝以民部卿、從院被仰下、猶穢中吉事沙汰、有憚之故也、

○法皇、忠通ヲ猶子ト爲シ給フコト、嘉承二年六月十一日ノ條ニ、法皇、忠通取掣ノコトニ依リテ、西六條殿ニ御幸ノコト、八月十七日ノ條ニ見ユ、

三日、甲午陣定ヲ行ヒ、諸國條事ヲ議ス、

〔殿曆〕六月二日、癸巳、天晴、今日不出行、○中略頭辨持來文書、予見之、

三日、甲午、天陰、雨降、微雨、今日不出行、○中略法勝寺三十講ノコトニカ、五月二十一日ノ條ニ收ム、有陣定、上卿源

大納言雅俊、自法勝寺上達部一兩被參内云々、

〔中右記〕六月三日、甲午、○中略源大納言、右衛門督、予、（藤原宗忠）治部卿、新中納言、宰相中將、

（源重定）左大辨參仗座、是源大納言昇進○正月二十三之後、初被奉也、諸國條事三ヶ、定文、左大辨

書之、秉燭事了退出、

院御物忌、

〔中右記〕六月三日、甲午、○中略法勝寺三十講ノコト、今日依院御物忌、無御幸也、

參仕ノ公卿

藤原忠實
文書ヲ内覽ス

重病ニ依
リ祈願
使

薙ヲ服ス
病後始
メテ參院

七、八日、不出仕、依院（藤原忠實）殿下共御物忌也、

十七日、朝間天陰、雨下、早旦從院有召、則馳參、雖御物忌、依召參御前、

○七日以後ノ院御物忌、便宜合敘ス、

四日、乙未攝政藤原忠實、病ニ依リテ、神馬ヲ日吉社ニ獻ズ、尋デ、右大

臣辭任ノコトヲ權中納言藤原宗忠ニ諮ル、依リテ、宗忠、之ヲ法皇ニ

奏ス、

〔殿曆〕六月四日、乙未、天晴、陰、酉剋許雨下、今日日吉神馬也、非恒例臨時也、去

月重病之間聊有願、仍立神馬、使職事從五位下雅職、乘尻十人、如常於南庭有拜、今日

精進、依神馬也、（藤原忠通）中納言依物忌不來、有曹司見馬、今日藏人資兼來云、（藤原）倍從不一定、重可

催由仰了、

十三日、甲辰、天晴、不出行、（藤原忠實）予心地無別事、雖然猶時々不快、仍渡邪氣、其後心地

宜、彌有減氣色、

十七日、戊申、天陰、雨甚降、○中略予心地追日宜、大略減邪氣歟、

十八日、己酉、天晴、病後無極、仍從今日服薙、今朝向壇所、合時、今日無別事、

廿三日、甲寅、天晴、陰、今日病後初參院、依召參御前、數剋御談、予退出、○中略今日

欲參內之處、御物忌也、仍不能參拜。〔內之〕

始メテ參

七月一日、壬戌、天晴、今日始申時許參內、著直衣、殿上人二人許有共、○中依病兩三月不參仕、三月許也、仍始參內、○下

廿八日、己丑、天陰、雨不降、○中今夜一條殿御前渡給高陽院、是依明日余料、彼御

前不空羅索、等身、大般若經一部令供養給故也、請僧三十口、從彼殿新藤中納言沙汰也、

布施取諸大夫、殿上人等、從此所催也、○中明日佛供養沙汰仰仲光了、

廿九日、庚寅、天晴、今日一條殿御前、爲余不空羅索、大般若經一部令供養給也、導師永

緣僧都、題名僧卅口、於高陽院東對有此事、永緣僧都說神妙也、仍余給馬一疋、隨身取之引之、件

僧都卅口外也、發願之後余參院、依除目直物、○七月二十九日ノ條參看念參也、仍不會結願、上達部卿新

藤中納言、宗忠、新中納言、〔藤原忠教〕等也、民部卿并新中納言忠教卿著烏帽子、是兼日不告故也、

〔中右記〕六月四日、殿下今日臨時被立日吉神馬、使雅職、十列、衛府十人、著御裝束、有御拜如例、

夕方參殿下、聊有被告仰事、深銘心府了、

五日、早且參一條殿、密々依殿下御祈、令參日吉社給、〔藤原宗能〕少將令參御共、奉出立之後歸

家、○中略

藤原全子
忠實ノ爲
メニ不空
羅索及
經ヲ供養
ス大般若
忠實導師
永緣ニ馬
結願ヲ

全子日吉
社ニ詣テ
忠實ノ祈
ル

法皇宗忠
ヲシテ忠
實ヲ訪ハ
シメ給フ

右大臣辭
任ノ事由

宗法法皇
ニ奏聞
封戸ニ於
テハ藤原
頼通ノ時
ノ例ヲ尋

全子忠實
ノ爲メニ
不空羅索

午時許從院有召、〔但馬守家保〕則馳參、近召御前、久不進龍顏前、恐悅相半也、被仰云、攝政

有所勞不出仕間、不審事等甚多、汝行向可達子細也、○中略

則參賀陽院、雖御物忌、有召參御出居、一々傳申仰旨、御返事云、○中略

又殿下令申給云、去今年所勞頻發、又天變度々相示、丞相慎之由、右大臣欲辭申如何、

於攝錄任者、依難遁事不申左右、於丞相者早辭申、欲謝天責如何、

申時許歸參院、申件事等、一々聞食了、思食定追可被仰者、晚頭退出、此間雨脚殊甚、

六日、丁酉、早且參殿下、申院御返事了、右丞相欲辭退事聞食了、尤可然、但於封戸者、

宇治時例可尋申之由、院所被仰也、又參院申承之由、又參殿下、申件條々、事了歸家、

廿三日、甲寅、天陰、早且殿下初令參院給、是五六月間、依御不例、不令出仕給也、巳時

許殿下令退出給了、

七月一日、壬戌、天晴、晚頭攝政殿初令參內給云々、四五月間依不例御、久無御出仕

也、今夜御宿侍者、

二日、早且殿下自內出御云々、

廿八日、○中今夕一條殿渡殿給、參御供、

廿九日、庚寅、天晴、早且參賀陽院、今朝一條殿爲殿下御祈、供養佛經給、三尺不空羅索

天永二年六月四日

三四二

並四天王像造立ノ時ノ願

永縁ノ説

御經轉讀

觀音并四天王像造立、作八角帳奉安置、是被移南圓堂樣也、先年殿下不例御時御願者、○天永元年三月六日ノ條參看新寫大般若經一部、以東對母屋三間并南面庇爲其所、母屋中央間安置御佛、南面庇爲僧座、懸幡花幔、辰剋衆僧參集、卅一以權大僧都永縁爲御導師、說法之躰誠以隨喜、人々感歎、民部卿、予、宗忠新中納言忠教、在西簀子、堂童子、五位四、說法了給被物布施、予以下爰殿下殊有御感、賜御馬、御堂以御馬座主之例也、次諸僧轉讀御經、權律師經尋以下僧卅口、殿下依可有除目、已念參院給、其後僧侶有僧前、未剋事了給布施、結願之由、權律師經尋啓白、其後歸家、暫休息、

〔永昌記〕 七月一日、壬戌、天晴、○中殿下始以御參内、宿侍御云々、

二日、癸亥、殿下今朝出御、

廿八日、己丑、○中今夕一條殿渡御、依明日御祈也、

廿九日、庚寅、○中依先日御卜、被開御門、早且洒掃、東對母屋庇安置御佛、八角帳中立三尺色像、脇侍四天像、被摸南圓堂樣也、并御經、大殿若一部、已上敷高麗爲僧綱座、請卅僧、其外召加永縁僧都爲導師、先御佛供養、了給布施、二百被物二重、生絹一重、張絹一重、又一裏、兩中納言、宗忠、々教卿等取以下宗輔中將、予、侍從宗成等取之、說法殊有御感、今日御善事、母儀一條殿偏令營之給也、般若覺母、觀音一子慈悲之趣、巧言盡理演說、給御馬、御隨身引之從僧取之、次永縁退出、殿仰云、寬治年中給御馬之例也、○中略卅僧留候轉讀之、行事仲光留候、諸大夫取布施、

請僧三十口

○藤原全子、忠實ノ爲メニ、佛經ヲ供養スルコト、便宜合斂ス、忠實、病ニ依リテ、法成寺五大堂ニ參籠スルコト、五月十九日ノ條ニ、忠實、宗忠ヲシテ、上表ノコトヲ法皇ニ奏セシムルコト、元年十月一日ノ條ニ、右大臣ヲ辭スルコト、三年十一月十八日ノ條ニ見ユ、

五日、丙法皇、權中納言藤原宗忠ヲ御使トシテ、攝政藤原忠實ニ延曆寺衆徒騷擾ノコト等ヲ諮リ給フ、尋デ、院宣ニ依リテ、阿闍梨仁譽ヲ山上ヨリ追却セシム、

〔殿曆〕 六月五日、丙申、天陰、雨降、今日不出行、新藤中納言宗忠、自院於御使來、

（藤原忠通）中納言事、○六月一日ノ條參看、内裏事、日ノ條參看、大衆事、山、此外無別事、

八月八日、戊戌、天晴、陰、雨下、○中頭辨來、相撲方事、日ノ條參看、并大衆使頭辨許來成放言、件沙汰也、

〔中右記〕 六月五日、○中午時許從院有召、但馬守家保送消息、則馳參、近召御前、久不進龍顏前、

恐悅相半也、被仰云、攝政有所勞不出仕間、不審事等甚多、汝行向可達子細也、○中近日山上惡僧濫惡不可勝計、猶可然樣可被止之由可量申也、就中故行家朝臣子法師仁譽、

惡僧ノ濫計ヲフベカラズ大衆ノ張本仁譽

大衆使藤原實行ニ放言ス

是大衆之帳本由有風聞也、○中

天永二年六月五日

三四三

天永二年六月七日

三四四

忠實ノ意
見

件條々之事、傳攝政可申返事者、

則參賀陽院、雖御物忌、有召參御出居、一々傳申仰旨、御返事云、○中

山僧惡行之事、尤可被制止、但先奉寄如莊園、被行講說、或又奉官幣、能々被祈請之後、

可被擲惡僧歟、○中

申時許歸參院、申件事等、一々聞食了、思食定追可被仰者、晚頭退出、此間雨脚殊甚、

七月廿二日、○中 略 或人談云、阿闍梨仁譽、故行家朝臣子也 依院宣追却山上、是依爲年來大衆張發者也、

〔法中補任〕

寶幢院檢按次第 澄心阿闍梨 天永二年七月被拂、四年、

○澄心ヲ比叡山上ヨリ追却スルコト、便宜合斂ス、

七日、戊權少僧都俊覺寂ス、

〔中右記〕 六月十日、○中 略

裏書云、

權少僧都俊覺卒去了、年六十云々、件人三井寺僧、故安藝守忠俊男也、爲法勝寺上座、

執行寺務者也、

〔僧綱補任〕

五 興福寺本 法橋上人位俊覺 康和三年正月十四日、斂法勝寺都維那師、

〔僧綱補任〕

坤 德川昭武氏本 法眼俊覺 天仁元年二月廿五日斂、院令籠法勝寺阿彌陀堂

年六十
法勝寺執
行

官經
法勝寺都
維那
法眼

世系

四十九日
願文

修理賞、二年二月廿七日任權少僧都、法勝寺曼茶羅堂供養賞、造功辨上座賞、天永二年

六月七日卒、六十一、

〔尊卑分脈〕

藤原氏
道隆孫

忠俊 安藝守、從四下、
母同良基

俊覺 母、權少僧都、法勝寺執行、

〔武本爲訓氏所藏文書〕

上座僧都俊覺卅九日願文

弟子某、敬白、有爲山上難堪者、窳劣之別、無漏道中可報者、師資之恩、詞咽心亂、不

能褻陞、伏以、先師權少僧都、出自風棘露槐之家、入于一心三觀之門、水鏡受性、冰壺

在心、閣浮提上座、續迦葉之昔名、法勝寺執印、恣伽藍之今務、爰二年之夏、六月之天、

禍出不度、論 奄然遷化、慈悲室隳、空漏舊房之月、忍辱衣破、徒霑遺弟之雨、如鳥雀之覆

巢、稚羽迷方、似魚鼈之失水、枯鱗何爲、方今大陽不留、中陰已滿、爲頓證菩提、營追

福慧業、奉造立皆金色三尺釋迦如來像一躰、奉書寫花嚴經六十卷、大集經卅卷、生前力 大品經

卅卷、法花經八卷、開結二經各一卷、涅槃經卅八卷、抑佛云經云、皆是先師前生之權輿、

營相營字、豈非沒後遺弟之補闕、秋風徐涼、折蘭藜之新香、夜月方明、添桂花之清光、

延華筵而嘔桑門、動魚山而移鷲嶺、開講供養、以之 遂善願、所生功德、偏資先師、出車形

天永二年六月七日

三四五

天永二年六月十日 十一日

三四六

鄉、乘高廣之牛車、免輪廻境、入淨妙之月輪、七々四十九日之忌景、拭紅淚而奔波、五々二十五有之衆生、分白業而濟渡、乃至法界利益無邊、敬白、

天永二年八月 日

十日、辛御體御卜奏、

〔中右記〕六月十日、○中今日御躰御卜奏、

十一日、壬月次祭、神今食、是日、大炊殿穢アリ、

〔殿曆〕六月六日、丁酉、天晴、○中今日神今食前齋上、昨日伊勢奉幣、○五月二十五日ノ條參看、仍神

事也、○中

入夜頭辨來云、瀧口二人觸穢之由承之、(藤原忠實)予早可奏院由仰了、

十一日、壬寅、天晴、○中從院被仰云、大炊殿有觸穢、三十日、件所に遣人、件人昇院、

即時頭辨參院并内、仍内裏有穢、又神今食被行否之條、被尋先例、而先例有被行例、又被止例又同、仍今夜被行云々、

〔中右記〕六月十一日、壬寅月次祭、藤大納言經實、(藤原實光)右少辨勤之云々、

神今食、新中納言忠教、宰相中將實隆、(源雅德)左少辨所勤也、

今日申時許大炊殿内下女頓死、但馬守家保、(藤原)依院仰參入件所、不知案内參院了、(藤原)經忠朝臣爲御使又參内了、件穢遍滿天下、雖然參神今食人々、未穢之間被行了、是又先例云々、

大炊殿ニ
下女ノ頓
死アリ
穢アリ
遍滿下ニ

前齋

瀧口二人
觸穢

觸穢三十
日

解齋御粥
ヲ供ス
禁中丙穢

穢院御所
及内裏
ニ及ブ

御興迎

十二日、○中略 此曉供解齋御粥云々、禁中雖丙穢有議供之也、

〔長秋記〕六月十一日、大炊殿木守妻女頓死、彼殿頓死者已三人也、近來第一惡所也、

○二月八日内裏穢、以不穢内侍令參神今食事、ノ條參看、件穢引來内裏、仍神今食、内侍所不穢人可令參云々、

〔玉葉〕建久二年十一月廿二日、丁卯、天晴、此日童女御覽也、○中天永二年六月十一

日、院御領有死穢、件穢及院御所并内裏了、然而未及廣、仍神今食可慎行之由、被仰下之由、見外記日記、彼非忽諸神事、式日有限、嚴重之祭禮、臨期停止、爲神事違亂、仍穢氣未遍之間、隨宜可行之由被仰下歟、今度以同前也、彼者内裏穢也、○下

○園太曆、觀應元年十月五日ノ條、年中行事秘抄、年中行事抄、異事ナキヲ以テ略ス、六日、瀧口二人觸穢ノコト、便宜合致ス、

十四日、乙祇園御靈會、是日、皇后ノ御封物押取ノコトニ依リ、檢非違使廳ニ拘禁ノ祇園神人ヲ赦免ス、尋デ、法皇、攝政藤原忠實ヲシテ、大監物有清姓關、ヲ厩ニ下サシメ給フ、

〔殿曆〕六月七日、戊戌、天晴、今日御興迎也、仍御興渡給程、(藤原忠實)予精進、(藤原泰子)中納言、(藤原泰子)姬君同之、五位藏人雅兼來申奏事、

十四日、乙巳、天晴、今日祇園御靈會也、其後服魚、(忠通)中將、(藤原泰子)女房、(藤原泰子)姬君等同之、

天永二年六月十四日

三四七

忠實磯ニ依リテ奉幣ヲ停ム

有清御封物ヲ河尻ニ押取ス

感神院所司人ノ請赦免ヲ請

法皇近臣ニ御諮問アラセラル

天永二年六月十七日

三四八

十五日、丙午、天陰、今日雨降、申剋、許也、予依穢氣、○本月十一日ノ條參看、不立奉幣、行事職事向河原有由被、依先例、永保元年故大殿雖穢有由被之故也、

卅日、辛酉、天晴、今日不出行、○中大監物有清下馬廐、是去春比、皇后宮御封於河尻押取之故也、依院仰予致沙汰、於家可沙汰之由、有御定之故也、

〔中右記〕六月十四日、午時許惟信朝臣爲殿下御使來云、皇后宮伊與國御封運上之間、

祇園神人來推取了、仍被相尋、從檢非違使廳召誠了、而今日從感神院言上云、彼神人早可免給、不然者今日御靈會不可祭者、從院問人々可申者、何樣可被行哉、可量申也、予願也、申云、近代大衆、神人之作法、不隨制止、不畏王威、仍縱雖量申不可叶歟、難申左右、且又被問人々、可然樣可被量行之旨、可被申答了、凡如此事、近代作法不可口入歟、

後聞、已被免伴神人、被行伴御靈會也、但被尋事根元者、借用人物不返之所致也、此條神人頗有理歟、

十七日、申、陣定ヲ行ヒ、大宰大貳藤原顯季申請ノコトヲ議ス、

〔中右記〕六月十七日、朝間天陰、雨下、○中略

今日有陣定催、上卿內府者、○六月一日條參看、然而依御使ノ條參看、往反之間、無術屈天、不能參仕由、示左大辨許了、

後聞、公卿十人參仕、○藤原顯季、大貳申十三ヶ條事云云、

○顯季ヲ大宰大貳ニ任ズルコト、正月二十三日ノ條ニ見ユ、

是ヨリ先、興福寺南圓堂前ノ樹木折損ズ、是日、攝政藤原忠實、之ヲ法皇ニ奏ス、

〔殿曆〕六月十四日、乙巳、天晴、○中略從興福寺示送云、南圓堂前木折云々、重遣尋云、

折跡何樣乎、非靈木口徑一尺許、風不吹、仍重奏院之後可加ト也、

十七日、戊申、天陰、雨甚降、○中略興福寺重陳狀旨、奏院之處、御返事云、○事殿方、件不可有ト歟、但尋先例可ト也、仍尋先例了、

二十日、辛、陰陽頭賀茂光平ヲシテ、晝御座ノ怪異ヲ占セシム、

〔殿曆〕六月廿日、辛亥、天晴、今日無別事、去程晝御座上有犬矢、又同御座御釵緒同食、仍被行御占、○陰陽師、占云、御病事、兵革云々、

二十三日、甲、御物忌、

〔殿曆〕六月廿三日、甲寅、天晴、陰、○中略今日欲參內之處、御物忌也、仍不能參拜、○内之、

法皇、鳥羽殿ニ御幸アリ、

〔殿曆〕六月廿三日、甲寅、天晴、陰、○中略今日有御幸、○御鳥、中納言令參仕御幸、○藤原忠實、從七條、

天永二年六月二十日 二十三日

三四九

興福寺注進靈木ニ非ズ

御占ノ趣

天永二年六月二十五日

三五〇

還幸延引

依仰
還來、

七月二日、癸亥、天晴、仙院從鳥羽殿還御云々、仍欲參會大炊殿之處、延引由聞之、仍不參任退出、

四日、乙丑、天晴、○中略午剋許從院召兵衛尉清重、酉剋許還來云、七日可有還御者、

七日、戊辰、天晴、辰剋許上皇自鳥羽殿還御、余藤原忠實即參人、依召參御前、頃之退出、

還御
參任ノ公
卿殿上人

〔中右記〕六月廿三日、甲寅、天陰、○中略、藤原忠實參院ノコトニ、本月四日ノ條ニ收ム、其後院有御幸鳥羽、仍參

任、藤大納言藤原以下公卿十人、殿上人四十人許歟、路之間或雨、或否、午時許著御鳥羽、

七月七日、辰剋許院出御京御所云々、

〔永昌記〕七月七日、戊辰、天霽、雲收、○中略殿下參御院、々自鳥羽御歸洛云々、

二十五日、丙辰陰陽助賀茂家榮ヲシテ、石清水八幡宮別宮出雲平濱宮遷

宮日時ヲ勘申セシム、

〔石清水文書〕一八幡宮造營日時勘文等
賀茂家榮日時勘文

擇申八幡平濱別宮遷宮日時

七月廿八日己丑 時戌

天永二年六月廿五日

陰陽助賀茂朝臣家榮

官符請印

○平濱別宮遷宮ノコト、詳ナラズ、

二十六日、丁請印政、

〔中右記〕六月廿六日、天晴、早且依催參政、左大辨、少納言宗兼參入、官符請印了、

依無中少辨、不著南所、召使稱物忌、仍立渡參陣、巳時許歸家、

二十七日、戊午天台座主仁豪ヲシテ、七佛藥師法ヲ修セシム、

〔殿曆〕六月廿七日、戊午、天晴、○中公家此間被行七佛藥師法、座主仁豪勤仕之、而依件法有免

物、頭辨來告、

三十日、辛酉大祓、

〔殿曆〕六月卅日、辛酉、天晴、今日不出行、祓如常、

〔中右記〕六月卅日、○中略入夜六月祓如常、

〔年中行事秘抄〕六月大祓事
○前田家本內裏有穢時、尙被行六月大祓例、

天永二年六月卅日大祓也、去十一日大炊寮中有人死穢、○本月十一日ノ條參看、件穢及于內裏并院中、

爲卅日穢、然而同卅日大祓也、參議顯雅卿參朱雀門座行事、

〔樗囊抄〕年中行事
大祓穢中 天永二六卅、去十一日大炊頭、卅日穢中無憚之由有沙汰、

○年中行事抄、異事ナキヲ以テ略ス、

天永二年六月二十六日 二十七日 三十日

三五二

內裏穢中
行ッ

穢中憚ナ
キノ由沙
汰アリ

是月、法皇、左大臣源俊房ヲシテ、春華門ノ額ヲ書セシメ給フ、

〔殿曆〕六月十九日、庚戌、天晴、○中略去比春花門額失了、仍仰左府令書之、（源俊房）依院、件額五位藏人雅兼持來、予見之返給了、

○春華門ノ額、紛失ノコト、詳ナラズ、

七月小盡 壬戌朔

御移馬

一日、壬戌御馬ヲ御覽アラセラル、是日、攝政藤原忠實、御馬ヲ獻ズ、

〔殿曆〕七月一日、壬戌、天晴、今日始申時許參内、○中略移馬御覽、（藤原）馬、依召奉之、畢辰剋許藏人盛經來云、先日所奉馬二疋返遣之、他馬可奉、仍二疋奉了、

二日、癸亥、天晴、○中略今日無別事、馬三疋奉内、（藤原）藏人說雅來召也、

三日、甲子、天晴、今日無別事、早朝見馬、

八日、己巳、天晴、○中略辰時許自内召馬、仍馬兩三疋獻之、御覽了返給、去四月比獻院馬返給了、

廿一日、壬午、天晴、○中略參内、有御馬御覽、藏人爲忠、（藤原）資兼乘之、密事也、戊剋許退出、

○二日以後、忠實、御馬ヲ獻ズルコト、及ビ御馬御覽ノコト、便宜合敘ス、

三日、甲子攝政藤原忠實、文書ヲ内覽ス、

〔殿曆〕七月三日、甲子、天晴、○中略酉剋許頭辨來、（藤原實行）依内覽也、

七日、戊辰、天晴、○中略頭辨、藏人辨等來、

八日、己巳、天晴、○中略午時許頭辨來、申剋許藏人辨來、（件人宣旨）余以職事取之、見了、止

天永二年七月一日 三日

忠實馬ヲ覽ル

宣旨目錄

大宰府解
紀伊國司
ノ文書

之、
廿二日、癸未、天晴、今日不出行、(源重實)左大辨持來府解、依物忌不會、
廿三日、甲申、天晴、(源重實)巳時右大辨長忠來云、紀伊國司申島訴文書持來、依物忌置便
所、可見明旦、

○八日以後、忠實、文書内覽ノコト、便宜合敘ス、

五日、(源重實)醍醐寺正覺院修理ノ功ニ依リテ、雀部元貞ヲ從五位下ニ敘ス、

〔中右記〕 七月五日、(源重實)今日藏人辨下宣旨、雀部元貞可敘從五位下者、是正覺院修理

功二人之中也、則下知大内記之處、申云、件姓先例所敘外階也、但可隨仰者、内外之條、

又尋藏人辨、尋例可敘也、但國用位記多敘内階者、又以此旨仰大内記敦光之處、返事(書)

云、先例於諸宮給者、不論姓之高下、賜内階位記也、至國用者、偏所隨臨時處分也、但

於今度者、可給外階位記者、此事慥不知、仍所記置也、(源重實)下姓國用位記ハ、有別仰時
敘内階、不然者敘外階歟、

○正覺院修理ノコト、詳ナラズ、

攝政藤原忠實、法皇ニ御馬ヲ獻ズ、

〔殿曆〕 七月四日、乙丑、天晴、(源重實)午剋許從院召兵衛尉清重、酉剋許還來云、(源重實)中略、鳥

羽殿ヨリ還御ノコトニカ、ル、其次被仰馬事、仍明日可奉也、早且可來由仰清重了、
(源重實)六月二十三日ノ條ニ收ム、

雀部元貞ハ
先例外位
ニ敘ス
諸宮御給
ハ姓ノ高
下ヲ論ゼ
ズ内位ニ
敘ス

法皇御馬
ヲ忠實ニ
徵シ給フ

五日、丙寅、天晴、(源重實)今朝馬二疋奉院、使兵衛尉藤原清重、
件馬二疋令止給了、

七日、(源重實)乞巧奠、

〔殿曆〕 七月七日、戊辰、天晴、(源重實)此間世間有觸穢、(源重實)六月十一日ノ條參看、雖公家乞巧奠、余同之、

〔中右記〕 七月七日、(源重實)雖穢中日ノ條參看、有乞巧奠云々、

八日、(源重實)文殊會、

〔中右記〕 七月八日、(源重實)有文殊會、

十二日、(源重實)法皇、藏人頭藤原實行ヲシテ、參議藤原爲房ノ出仕ヲ仰セ

シメ給フ、

〔永昌記〕 七月十二日、癸酉、(源重實)早朝參相公御許、頭辨通書狀、早可出仕者、院宣云

々、
十三日、甲戌、炎旱涉旬、餘熱如蒸、(源重實)次參相公亭、聞奇怪事、殿下有仰、可出仕者、

可謂奇怪、

十五日、(源重實)法成寺及ビ尊勝寺孟蘭盆、

〔殿曆〕 七月十四日、乙亥、天晴、(源重實)依服藥不拜盆、不出行、迄于今日慎重故也、

十五日、丙子、天晴、今日不出行、(源重實)依服藥不參御堂、仍夜前一家人達之許可被參仕之

天永二年七月七日 八日 十二日 十五日

藤原忠實
乞巧奠

藤原忠實
不參

由仰了、

例講

〔中右記〕 七月十五日、午時許參尊勝寺、講筵畢僧欲出之間也、（源顯通）皇后宮權大夫一人被參之、次法成孟蘭盆講、（藤原家也）右大將、（源實）藤大納言、（藤原能實）左衛門督、（源光朝）治部卿、左宰相中將參入、先孟蘭盆講、々師智尊律師、次僧侶著南庇饗座了、次例講、々師永清律師、問者覺嚴得業、（東大寺）次阿彌陀經、調聲覺淵、此間供養法、公伊僧都、次諸大夫給帷紙、申時事了人々退歸、兩座之間無別堂童子、御堂預分花宮也、

京極殿盆供分配

〔永昌記〕 （御盆供事）七月十四日、乙亥、御盆供、運遣京極殿中御堂、依無御拜也、（孟蘭盆事）十五日、丙子、法成寺、尊勝寺孟蘭盆也、如例云々、法成寺予分配也、（藤原尊勝）然而無出仕之仰、日來籠居、今日殿御衰日也、（藤原忠實）仍令申其由、不參尊勝寺、（源顯通）右金吾、（余忠）新藤中納言、（藤原基隆）朝臣參上云々、

十六日、（丁丑）炎旱ニ依リテ、藏人藤原盛經ヲシテ、神泉苑ノ池ヲ浚渫セシム、尋デ、再ビ浚渫セシム、

〔殿曆〕 七月十六日、丁丑、天晴、（源顯通）今日藏人向神泉苑掃池、（早故）

廿七日、戊子、天陰、雨甚降、（源顯通）從一昨日於神泉苑、藏人掃之、

〔永昌記〕 七月十三日、甲戌、炎旱涉旬、餘熱如蒸、

祈雨御讀經定

甘雨

十六日、丁丑、（源顯通）於神泉苑請雨、藏人盛經奉之、

廿五日、丙戌、今日祈雨御讀經定云々、（御讀經ヲ行フ）

〔中右記〕 七月廿四日、此曉天陰、雨下、民戸成歡、誠可云甘雨、去月下旬以下雨澤不下、炎旱如蒸、仍近日被拂神泉池也、六月以前風雨如隨時、七月中有干魃憂也、終日天陰、

○二十五日、祈雨御讀經定ノコト、便宜合敘ス、丹生、貴布禰兩社ニ奉幣シテ、雨ヲ祈ルコト、本月二十七日ノ條ニ見ユ、

十七日、（戊寅）結政、

〔中右記〕 七月十七日、（源顯通）今夕右衛門督行内文云々、

〔永昌記〕 （年料米事）七月十七日、戊寅、天晴、早旦參左府、（源俊房）申年料米、（或人云、如此有障、出仕之日、必不可申吉書、）於南御

政所吉書
晴儀

堂見參、（參所忠實）次參殿下、今日御物忌、仍付知信、令申吉書候之由、可宣下者、次覽政所吉書、（宿紙）成返抄、次參結政、史致遠以下六人參著、致遠差文取結文氣色、答曰、今日晴儀也、然者不可稱者、次覽鈞文、美作、次問政有無、不可申上障歟、今日申之、強不可制止、先是申三ヶ國減省、次辨侍追前、（藤原為時）官掌申時、次下官退出、依可出立、當外記門南掖東面立、次史等出外記門、北掖以北副築垣、南上東面立定、外記昌綱參座上、予一揖過上官

三ヶ國減省